

771
217

防空警防法規集
— 防空警防法規集 —

西廣忠雄序

天元社版



0058165-000

771-217

防空警防法規集

天元社・編

天元社

昭和16

AJH

771

217

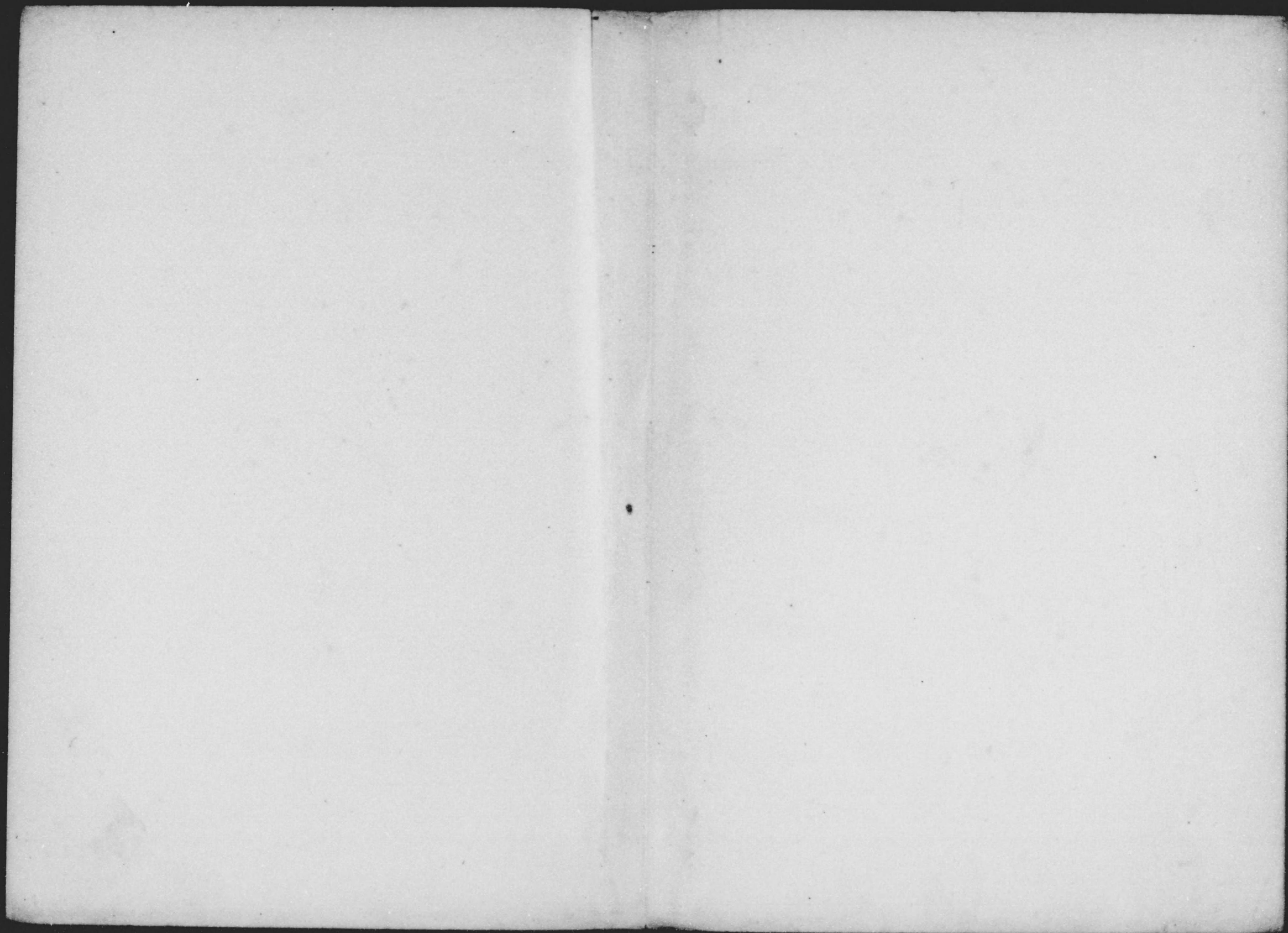
內務省計畫局

防空課長 西廣忠雄序

防空警防法規集

—附關係要綱並規程—

天元社版



內務省計畫局防空課長

西廣忠雄序

防空警防法規集

附·關係要綱並規程

天元社版



771
217

序

現下内外の情勢を鑑るに、國民防空の完璧を期するは、邦家を盤石の安きに置く必須の條件と考へられる。防空法の施行以來、國民の理解と協力は、防空思想の昂揚と防空態勢の整備とに於て、格段の飛躍を遂げたが、尙此の方面の進歩發達は、今後一日も之を忽せにし得ざる喫緊事である。

然るにこの種法規類が未だ集成されてゐなかつたのは、一

本書ハ昭和十六年六月十五日現在ニ
於ケル主要防空銃警防關係法規其他
ヲ輯録編纂セルモノナリ

一般防空活動のため甚だ不便の感が多かつたが、こゝに小冊子ながら一冊に取纏めて提供されたのは、國民防空上洵に欣快とするところである。普く之が利用され、その活動に資せられんことを望むものである。

紀元二六〇一年六月

内務省計畫局防空課長 西 廣 忠 雄

目 次

序	内務省計畫局防空課長 西 廣 忠 雄	三
通 則	三
防 空 法	三
防空法施行令	六
防 空 通 信	一
防空通信規則	一
防 空 警 報	一
訓練防空警報規則	三
燈 火 管 制	一
燈火管制規則	一
防 毒	三
防毒資材取締規則	三

防毒資材檢定ニ關スル告示	三九
警視廳防毒資材取締規則施行細則	三九
警視廳防毒資材取締規則施行細則執行心得	四一
防空建築	四三
市街地建築物法(抄)	四三
防空建築規則	四三
耐火木材規格	四八
官廳防空	五〇
官廳防空令	五〇
國有鐵道防空規則	五一
防空委員會	七二
防空委員會令	七二
警防團	七四
警防團令	七四
警防團採典	七六
警防團禮式令	九二

附

警防團點檢規則	一〇一
警防團員服制	一〇七
警防團員外套例	一一〇
警防團ノ服制ニ關スル件	一一五
警防團員服制ニ關スル件	一一五
警防團員服制ニ關スル件	一一七
警防團員服制ニ關スル件依命通牒	一一八
錄	一一九
內務省專門委員—內務省官制(抄)	一一九
內務省防空研究所分課規程	一二九
防空救護組織要綱	一二〇
家庭防空障保組織要綱	一二二
工務省 防空研究會	一二四
財團法 大日本防空協會寄附行爲	一二五
財團法 大日本防空協會支部規則	一三〇
財團法 大日本防空協會(何)道府縣支部會則準則	一三一
財團法 大日本防空協會寄附行爲施行細則	一三二

防空警防法規集

附關係要綱並規程

大日本防空協會表彰規程	一三三
大日本防空協會弔慰授護規程	一三四
大日本防空協會弔慰授護規程施行細則	一三五
大日本防空協會會員取扱規程	一三七
大日本警防協會寄附行為	一三九
大日本警防協會寄附行為施行細則	一四五
大日本警防協會表彰規程	一四七
大日本警防協會弔慰救濟金給與規程	一四七
各國防空法發布年月日一覽表	一五〇

追 録

耐火木材取締規則	一五二
防毒資材取締規則改正ニ關スル件	一五五

通 則

防 空 法

(昭和十二年四月五日
法律第四十七號)

第一條 本法ニ於テ防空ヲ稱スルハ戰時又ハ事變ニ際シ航空機ノ來襲ニ因リ生ズベキ危害ヲ防止シ又ハ之ニ因ル被害ヲ輕減スル爲メ陸海軍ノ行フ防衛ニ即應シテ陸海軍以外ノ者ノ行フ火管制、消防、防海、避難及救護並ニ此等ニ關シ必要ナル監視、通信及警報ヲ、防空計畫ト稱スルハ防空ノ實施及之ニ關シ必要ナル設備又ハ資材ノ整備ニ關スル計畫ヲ謂フ

第二條 防空計畫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監ヲ含ム以下之ニ同ジ)又ハ地方長官ノ指定スル市町村長防空委員會ノ意見ヲ徵シテ之ヲ設定シ主務大臣又ハ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第三條 主務大臣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ規模大ナル事業又ハ施設ニシテ防空上特ニ必要アルモノニ付行政廳ニ非ザル者ヲ指定シテ防空計畫ヲ設定セシムルコトヲ得

第四條 防空計畫ハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ
第四條 防空計畫ノ設定者ハ其ノ防空計畫ニ基キ防空ヲ實施シ又ハ防空ノ實施ニ關シ必要ナル設備若ハ資材ノ整備ヲ爲スベシ

第五條 地方長官ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ防空計畫ニ基キ特殊施設ノ管理者又ハ所有者ヲシテ防空ノ實施ニ際シ必要ナル設備若ハ資材ヲ供用セシムルコトヲ得

第六條 地方長官ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ特殊技能ヲ有スル者ヲシテ防毒、救護其ノ他防空ノ實施ニ從事セシムルコトヲ得
第七條 第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ設定者ハ其

ノ従業者ヲシテ防空ノ實施ニ從事セシムルコトヲ得

第七條 防空ノ實施ノ開始及終止ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 燈火管制ヲ實施スル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ實施區域内ニ於ケル光ヲ發スル設備又ハ裝置ノ管理者又ハ之ニ準ズベキ者ハ他ノ法令ノ規定ニ拘ラズ其ノ光ヲ秘匿スベシ

第九條 防空ノ實施ニ際シ緊急ノ必要アルトキハ地方長官又ハ市町村長ハ他人ノ土地若ハ家屋ヲ一時使用シ、物件ヲ收用若ハ使用シ又ハ防空ノ實施區域内ニ在ル者ヲシテ防空ノ實施ニ從事セシムルコトヲ得

行政執行法第五條及第六條ノ規定並ニ之ニ基キテ要スル命令ハ前項ノ規定ニ基キテ爲ス處分ニ依リテ負フ義務ノ履行ヲ市町村長ガ強制スル場合ニ之ヲ準用ス

第十條 主務大臣ハ防空計畫ノ設定者ニ對シ防空計畫ノ全部又ハ一部ニ基キ防空ノ訓練ヲ爲スベキコトヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ防空ノ訓練ヲ爲ス場合ニ於テハ第三條第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ設定者ハ其ノ従業者ヲシテ防空ノ訓練ニ從事セシムルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ燈火管制ノ訓練ヲ爲ス場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ訓練區域内ニ於ケル光ヲ發スル設備又ハ裝置ノ管理者又ハ之ニ準ズベキ者ハ他ノ法令ノ規定ニ拘ラズ其ノ光ヲ秘匿スベシ

第十一條 防空ニ關スル調査ノ爲必要アルトキハ主務大臣、地方長官又ハ市町村長ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ關係者ニ對シ資料ノ提出ヲ命ジ又ハ官吏若ハ吏員ヲシテ關係アル場所ニ立入り検査ヲ爲サシムルコトヲ得但シ私人ノ邸宅並ニ業務上ノ秘密ニ屬スル事項及設備ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依リ立入り場合ニ於テハ其ノ旨豫メ其ノ場所ノ管理者ニ通知スベシ

當該官吏又ハ吏員第一項ノ規定ニ依リ關係アル場所ニ立入り場合ハ其ノ證票ヲ携帯スベシ

第十二條 第六條又ハ第九條第一項ノ規定ニ依リ防

空ノ實施ニ從事スル者之ガ爲傷損ヲ受ケ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テハ地方長官、市町村長又ハ第三條第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ設定者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本人又ハ其ノ葬祭ヲ行フ者ニ對シ療養又ハ葬祭ニ要スル費用ヲ給スベシ

第十三條 地方長官第五條ノ規定ニ依リ防空ノ實施ニ際シ必要ナル設備若ハ資材ヲ供用セシメ又ハ地方長官若ハ市町村長第九條第一項ノ規定ニ依リ土地家屋物件ヲ收用若ハ使用スル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ損失ヲ補償スベシ

前項ノ規定ニ依リ補償ヲ受クベキ者補償ニ付不服アルトキハ其ノ金額ノ決定ノ通知ヲ受ケタル日より、供用、收用又ハ使用ノ後六月ヲ經過シテ補償金額ノ決定ノ通知ヲ受ケザルトキハ其ノ期間經過シタル日より六月以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十四條 地方長官第六條第一項ノ規定ニ依リ特殊技能ヲ有スル者ヲシテ防空ノ實施ニ從事セシメ又ハ第三條第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ設定者第六條第二項ノ規定ニ依リ其ノ従業者ヲシテ防空ノ

實施ニ從事セシムル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ實費ヲ辨償スベシ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ實費辨償ニ之ヲ準用ス

第十五條 防空計畫ノ設定、防空ノ實施、防空ノ實施ニ關シ必要ナル設備若ハ資材ノ整備、第十條第一項ノ規定ニ依ル防空ノ訓練又ハ第十二條ノ規定ニ依ル給與ヲ爲スニ要スル費用ハ地方長官之ヲ爲ス場合ニ於テハ北海道又ハ府縣、市町村長之ヲ爲ス場合ニ於テハ市町村、第三條第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ設定者之ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ者ノ負擔トス

特殊施設ノ管理者又ハ所有者第五條ノ規定ニ設備又ハ資材ノ整備ヲ爲スニ要スル費用ハ其ノ者ノ負擔トス

第十六條 防空委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ左ノ諸費ニ對シ其ノ二分ノ一以内ヲ補助ス

一 第十五條第一項ノ規程ニ依リ北海道、府縣、市町村又ハ第三條第一項ノ規程ニ依ル防空計畫

ノ設定者ノ負擔スル費用

二 第十五條第二項ノ規定ニ依リ特殊施設ノ管理
者又ハ所有者ノ負擔スル費用

三 防空委員會ニ關シ北海道、府縣又ハ市町村ノ
負擔スル費用

第十八條 特殊技能ヲ有スル者故ナク第六條第一項

ノ規定ニ依ル地方長官ノ命令ニ從ハザルトキハ三
月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 第八條ノ規定ニ違反シタル者ハ三百圓以
下ノ罰金、拘留又ハ科料ニ處ス

第二十條 町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役
場事務ヲ共同處理スルモノハ本法ノ適用ニ付テハ

之ヲ一町村、其ノ組合管理者ハ之ヲ町村長ト看做
ス

町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ本法中町村ニ關ス
ル規定ハ町村ニ準ズベキモノニ、町村長ニ關スル

規定ハ町村長ニ準ズベキ者ニ之ヲ適用ス

前項ノ防空計畫ハ市町村防空委員會ノ意見ヲ徵シ
之ヲ設定シ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第二條 防空法第三條第一項ノ事業又ハ施設ハ工
場、鑛山、鐵道、軌道、無線電信、無線電話又ハ電氣、

瓦斯、海運若ハ航空ニ關スル事業若ハ施設トス

第三條 防空法第五條ノ規定ニ依リ整備ヲ爲サシム
ルコトヲ得ベキ設備又ハ資材ハ左ノ各號ニ掲グル

モノトス

一 電氣工作物、工場、鑛山、鐵道、軌道、診療
所ノ類ニ付テハ燈火管制ニ關シ必要ナルモノ

二 水道、下水道、瓦斯工作物、石油タンク、工場、
鑛山ノ類ニ付テハ消防ニ關シ必要ナルモノ

三 劇場、診療所、百貨店、地下ニ敷設シタル鐵
道又ハ軌道、地下室ヲ有スル建築物ノ類ニ付テ

ハ防毒、避難又ハ救護ニ關シ必要ナルモノ

防空法第五條ノ規定ニ依リ供用セシムルコトヲ得
ベキ設備又ハ資材ハ左ノ各號ニ掲グルモノトス

一 高層建築物ノ類ニ付テハ監視ニ關シ必要ナル
モノ

二 號報器ヲ有スル施設ニ付テハ警報ニ關シ必要

ナルモノ

前項ノ命令ハ關係アル地方長官及防空法第三條第

三 學校、集會場、劇場、診療所、百貨店、地下
ニ敷設シタル鐵道又ハ軌道、地下室ヲ有スル建
築物、避難上有效ナル空地ヲ有スル工場其ノ他
ノ建築物、運動場ノ類ニ付テハ防毒、避難又ハ
救護ニ關シ必要ナルモノ

第四條 防空法第六條第一項ノ特殊技能ヲ有スル者
ハ左ノ各號ニ掲グル者トス

一 醫師、齒科醫師、獸醫師、藥劑師及看護婦
ニ從事スベキモノ其ノ他正當ノ事由アル者ハ同法
第六條第一項ノ規定ニ依リ防空ノ實施ニ從事セシ
ムルコトヲ得ズ

第五條 防空ノ實施ノ開始及終止ハ內務大臣之ヲ命
ズ

第二十一條 國ニ於テ管理スル施設ニ關スル防空ニ

付テハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第二十二條 本法ヲ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ施行スル
場合ニ於テ必要アルトキハ勅令ヲ以テ特別ノ定ヲ
爲スコトヲ得

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（勅令第五百
四十八號ヲ以テ昭和十二年十月一日ヨリ施行）

防空法施行令

（昭和十二年九月二十九日）
（勅令第五百四十九號）

第一條 地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監ヲ含
ム以下之ニ同ジ）ハ道府縣ノ全地域又ハ數市町村

ノ區域ニ互リ計畫スベキ事項其ノ他必要ト認ムル
事項ニ關シ防空計畫ヲ設定スベシ

前項ノ防空計畫ハ道府縣防空委員會ノ意見ヲ徵シ
之ヲ設定シ內務大臣ノ認可ヲ受クベシ

防空法第二條ノ規定ニ依リ指定セラレタル市町村
長ハ市町村ノ區域内ニ於テ計畫スベキ事項其ノ他

必要ト認ムル事項ニ關シ防空計畫ヲ設定スベシ

ナルモノ

三 學校、集會場、劇場、診療所、百貨店、地下
ニ敷設シタル鐵道又ハ軌道、地下室ヲ有スル建
築物、避難上有效ナル空地ヲ有スル工場其ノ他
ノ建築物、運動場ノ類ニ付テハ防毒、避難又ハ
救護ニ關シ必要ナルモノ

第四條 防空法第六條第一項ノ特殊技能ヲ有スル者
ハ左ノ各號ニ掲グル者トス

一 醫師、齒科醫師、獸醫師、藥劑師及看護婦
ニ從事スベキモノ其ノ他正當ノ事由アル者ハ同法
第六條第一項ノ規定ニ依リ防空ノ實施ニ從事セシ
ムルコトヲ得ズ

第五條 防空ノ實施ノ開始及終止ハ內務大臣之ヲ命
ズ

前項ノ命令ハ關係アル地方長官及防空法第三條第

三 學校、集會場、劇場、診療所、百貨店、地下
ニ敷設シタル鐵道又ハ軌道、地下室ヲ有スル建
築物、避難上有效ナル空地ヲ有スル工場其ノ他
ノ建築物、運動場ノ類ニ付テハ防毒、避難又ハ
救護ニ關シ必要ナルモノ

第四條 防空法第六條第一項ノ特殊技能ヲ有スル者
ハ左ノ各號ニ掲グル者トス

一 醫師、齒科醫師、獸醫師、藥劑師及看護婦
ニ從事スベキモノ其ノ他正當ノ事由アル者ハ同法
第六條第一項ノ規定ニ依リ防空ノ實施ニ從事セシ
ムルコトヲ得ズ

第五條 防空ノ實施ノ開始及終止ハ內務大臣之ヲ命
ズ

前項ノ命令ハ關係アル地方長官及防空法第三條第

三 學校、集會場、劇場、診療所、百貨店、地下
ニ敷設シタル鐵道又ハ軌道、地下室ヲ有スル建
築物、避難上有效ナル空地ヲ有スル工場其ノ他
ノ建築物、運動場ノ類ニ付テハ防毒、避難又ハ
救護ニ關シ必要ナルモノ

第四條 防空法第六條第一項ノ特殊技能ヲ有スル者
ハ左ノ各號ニ掲グル者トス

一 醫師、齒科醫師、獸醫師、藥劑師及看護婦
ニ從事スベキモノ其ノ他正當ノ事由アル者ハ同法
第六條第一項ノ規定ニ依リ防空ノ實施ニ從事セシ
ムルコトヲ得ズ

第五條 防空ノ實施ノ開始及終止ハ內務大臣之ヲ命
ズ

前項ノ命令ハ關係アル地方長官及防空法第三條第

一項ノ防空計畫ノ設定者ニ對シテハ内務大臣、關係アル市町村長ニ對シテハ内務大臣ノ通知ニ依リ地方長官之ヲ發ス
内務大臣第一項ノ命令ヲ爲スニ付テハ其ノ時期及區域ニ關シテハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ通知ニ依ルベシ

第六條 前條ノ規定ニ依リ防空ノ實施ノ開始命令アリタルトキハ防空計畫ノ設定者ハ監視及之ニ伴フ通信ニ關シテハ直ニ之ヲ實施シ防空上必要ナル其ノ他ノ事項ニ關シテハ其ノ準備ヲ爲シ適宜之ヲ實施スベシ
監視及之ニ伴フ通信ハ前條ノ規定ニ依リ防空ノ實施ノ終止命令アル迄之ヲ繼續スベシ

第七條 防空ヲ實施スル場合ニ於テ航空機ノ來襲ニ關シテハ左ノ各號ノ區分ニ依リ防空警報ヲ發ス
一 警戒警報 航空機ノ來襲ノ虞アル場合
二 警戒警報解除 航空機ノ來襲ノ虞ナキニ至リタル場合
三 空襲警報 航空機ノ來襲ノ危險アル場合
四 空襲警報解除 航空機ノ來襲ノ危險ナキニ至リタル場合

リタル場合

當該區域ノ防衛ヲ擔任スル防衛司令官、師團長、要塞司令官、鎮守府司令官若ハ要港部司令官（以下陸海軍司令官ト稱ス）又ハ其ノ指定スル者ノ發スル防空警報ヲ以テ前項ノ防空警報トス

第八條 防空法第十一條第一項ノ關係者ハ第二條ニ掲グル事業若ハ施設又ハ第三條ニ掲グル特殊施設ノ管理者又ハ所有者トシテ關係アル場所ハ此等ノ者ノ管理又ハ所有スル土地及建物其ノ他ノ工作物トス
防空法第十一條第三項ノ證票ハ別記様式ニ依ル

第九條 防空法第十二條ノ規定ニ依ル療養又ハ葬祭ニ要スル費用ハ防空ノ實施ニ從事セシメタル者ニ於テ之ヲ給スベシ
前項ノ費用ノ支給ニ關シ必要ナル事項ハ地方長官又ハ防空法第三條第一項ノ規定ニ依リ防空計畫ノ設定者ニ在リテハ内務大臣、市町村長ニ在リテハ地方長官ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ムベシ
第十條 防空法第十三條ノ規定ニ依リ補償スベキ損失ハ通常生ズベキ損失ニ限ル

第十一條 防空法第十四條ノ規定ニ依リ實費辨償ニ關シ必要ナル事項ハ地方長官又ハ同法第三條第一項ノ規定ニ依リ防空計畫ノ設定者内務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ム

第十二條 防空法第十七條ノ規定ニ依リ國庫補助ハ支出精算額ニ對シ之ヲ爲ス但シ寄附金其ノ他ノ收入アルトキハ之ヲ控除シタル額ニ對シ補助ス
前項ノ規定ニ依リ交付シタル國庫補助金ハ左ニ掲グル場合ニ於テハ其ノ全部又ハ一部ヲ返還セシムルコトヲ得
一 設備又ハ資材ヲ廢棄又ハ變更シ當初ノ目的ヲ達シ得ザルニ至リタルトキ

第十三條 防空法第三條及第十條ノ主務大臣ハ内務大臣、同法第十一條ノ主務大臣ハ内務大臣、陸軍大臣又ハ海軍大臣トス
第十四條 陸海軍司令官ハ監視網構成ノ概要ニ付及陸海軍ノ行フ防衛ノ必要上使用ヲ禁止又ハ制限スルコトアルベキ土地建物ニ付防空計畫ノ設定上必要ナル事項ヲ防空計畫ノ設定者ニ通知スベシ

第十五條 防空計畫ノ認可ヲ爲ス場合ニ於テ陸海軍ノ行フ防衛ニ關シシムル爲必要ナル事項ニ關シテハ内務大臣ハ陸軍大臣及海軍大臣ニ、地方長官ハ陸海軍司令官ニ協議スベシ
第十六條 左ニ掲グル事項ニ關シテハ内務大臣ハ關係各大臣ニ、地方長官ハ關係地方官廳ニ協議スベシ
一 防空計畫ノ認可ヲ爲ス場合ニ於テ當該計畫中國ニ於テ管理スル土地家屋ノ物件ノ使用ニ關スル事項
二 防空計畫ノ認可ヲ爲ス場合ニ於テ設備又ハ資材ノ整備又ハ供用ニシテ他ノ法令ニ依リ認可又ハ許可ヲ要スルモノニ關スル事項
三 防空法第三條第一項ノ規定ニ依リ指定及同條第二項ノ規定ニ依リ認可
四 設備又ハ資材ノ整備又ハ供用ニシテ他ノ法令ニ依リ認可又ハ許可ヲ要スルモノニ關スル防空法第五條ノ規定ニ依ル命令
五 防空法第三條第一項ノ規定ニ依リ防空計畫ノ設定者ニ對スル同法第十條第一項ノ規定ニ依ル

命令

第十七條 町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同處理スルモノハ本令ノ適用ニ付テハ之ヲ一町村、其ノ組合管理者ハ之ヲ町村長ト看做ス

町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ本令中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準ズベキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準ズベキ者ニ之ヲ適用ス

附則

本令ハ防空法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別記様式)

日本標準規格第九十二號B列八〇 (Chemical Station)

第 號 年 月 日 交付

防空法第十一條第三項ノ規定ニ依ル 證券

主務省、廳府縣印又ハ市町村

官職氏名

裏面

防空法摘要

第十一條 防空ニ關スル調査ノ爲必要アルトキハ主務大臣、地方官又ハ市町村長ハ勅令ノ定ムルトコロニ依リ關係シテ對シテ提出シ命ジ又ハ官署若ハ吏員ヲシテ關係シテ提出シ命ジ又ハ官署若ハ吏員ヲシテ關係シテ提出シ命ジ又ハ官署若ハ吏員ヲシテ關係シテ提出シ命ジ

防空通信

防空通信規則

(昭和十三年一月二十八日) (逓信省令第九號)

- 第一條 防空通信ニ關シテハ本令ノ定ムル所ニ依ル
第二條 防空通信トハ戰時又ハ事變ニ際シ防空ノ實施ニ直接必要ナル電信、電話、無線電信又ハ無線電話ニ依ル通信ニシテ關係陸海軍官憲、關係官公署及之等ノ命ヲ受ケ防空ノ實施ニ從事スル者相互間ニ發送スルモノヲ謂フ
第三條 防空通信ハ左ノ三種トス
一 警報 防空警報發令官又ハ通信官署ヨリ通報スル通信
二 情報 防空監視ノ事務ニ從事スル者ヨリ航空機ノ行動ヲ報告スル通信
三 指揮連絡報 防空機關相互間ニ於ケル指揮及當該指揮ニ對スル措置報告等ニ

- 第四條 警報ハ最先順位ヲ以テ之ヲ取扱フ
第五條 防空電報ハ電報取扱時間ニ拘ラズ之ヲ取扱フ
第六條 電話官署警報又ハ情報ノ取扱上必要アリト認ムルトキハ他ノ通話ヲ中斷スルコトアルベシ
第七條 防空通信ヲ發スル者ハ其ノ請求ノ際第三條ノ種別ヲ申出ツベシ
第八條 防空通信ハ無料トス
第九條 防空通信ノ爲必要ナル加入又ハ專用電話ニ關スル料金ハ之ヲ特定又ハ免除スルコトアルベシ
第十條 公衆通信ヲ取扱ハザル私設又ハ官廳用ノ電信、電話、無線電信若ハ無線電話ヲシテ防空通信

ノ取扱ヲ爲サシムルトキハ其ノ旨ヲ當該施設者ニ通知ス

第十條 防空通信ノ取扱ヲ爲ス私設又ハ官應用ノ電信、電話、無線電信若ハ無線電話ハ其ノ専用通信ニ優先シ防空通信ヲ取扱フベシ但シ人命財産ノ安全ニ關スル緊急ヲ要スル専用通信ハ此ノ限りニ非ラズ

第十一條 第九條ノ通知ヲ受ケタル私設又ハ官應用ノ無線電信若ハ無線電話ハ其ノ通信執務時間ニ拘ラズ防空通信ノ取扱ヲ爲スベシ

第十二條 電信法第二條第四號、無線電信法第二條第三號、官應用電信電話規程第一條第四號又ハ官應用無線電信無線電話規則第一條第三號ニ依ル施設ニシテ第九條ノ規定ニ依リ防空通信ノ取扱ヲ爲スモノハ私設電信私設無線電信公衆通信取扱規則第三條及第十一條ノ規定ニ拘ラズ託送取扱ヲ爲スコトヲ得

第十三條 私設又ハ官應用ノ電信、電話、無線電信若ハ無線電話ニ於テ取扱ヒタル防空通信ニ對シテハ取扱費ヲ支給セズ

第十四條 通信大臣ハ防空通信上必要アリト認ムルトキハ私設又ハ官應用ノ電信、電話ノ設備ノ變更

使用ノ制限若ハ停止ヲ命ズルコトアルベシ

第十五條 本令ニ規定ナキ事項ハ電信、電話、無線電信又ハ無線電話ニ關スル一般ノ規定ニ依ル

第十六條 防空ノ訓練ニ際シ通信大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ別ニ告示スル所ニ依リ本令ノ規定ヲ準用ス

附 則

本令ハ昭和十三年二月十日ヨリ之ヲ施行ス

防空警報

訓練防空警報規則

(昭和十三年四月五日
內務省令第十二號)

防空法第十條第一項ノ規定ニ依ル防空ノ訓練ヲ爲ス場合ニ於テ發スル訓練防空警報ノ區分ニ準ジ訓練警戒警報、訓練警戒警報解除、訓練空襲警報及訓練空襲警報解除トス

訓練防空警報ヲ發スベキ者ハ防空訓練ノ都度内務大臣之ヲ指定ス

前項ノ指定ナキ場合ニ於テハ防空法施行令第七條ノ陸海軍司令官又ハ其ノ指定スル者ノ發スル訓練防空警報ヲ以テ第一項ノ訓練防空警報トス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

燈火管制

燈火管制規則 (昭和十三年四月四日)

- 第一條 燈火管制ヲ實施シ又ハ其ノ訓練ヲ爲ス場合ニ於テ防空法第八條及第十條第三項ノ規定ニ依ル光ノ秘匿ハ本令ノ定ムル所ニ依ル
- 第二條 燈火管制ハ第四條ニ規定スル場合ヲ除クノ外警戒管制及空襲管制トス
- 警戒管制ハ警戒警報又ハ空襲警報解除ノ發セラレタル時ヨリ警戒警報解除又ハ空襲警報ノ發セラレル迄ノ間之ヲ行フ
- 空襲管制ハ空襲警報ノ發セラレタル時ヨリ空襲警報解除ノ發セラレタル迄ノ間之ヲ行フ
- 燈火管制ノ訓練ヲ爲ス場合ニ於ケル前二項ノ防空警報ハ訓練防空警報トス
- 第三條 警戒管制又ハ空襲管制中ノ光ノ秘匿ハ日没

ヨリ日出迄ノ間第一號表乃至第七號表ニ掲グル程度ニ於テ之ヲ爲スベシ

- 第四條 第一號表ノ屋外燈 (標識燈類、街路燈類及屋外作業燈類ヲ除ク) ニシテ地方長官 (東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ) ノ指定スルモノハ其ノ定ムル期間日没ヨリ日出迄ノ間警戒管制ノ程度ニ依リ其ノ光ヲ秘匿スベシ
- 地方長官前項ノ規定ニ依リ屋外燈ヲ指定シ又ハ其ノ光ヲ秘匿スベキ期間ヲ定メタルトキハ之ヲ告示スベシ
- 第五條 左ノ各號ニ掲グル光ニ付テハ本令ノ制限ヲ適用セズ
- 一 建築物、車輛、船舶、隧道、地下道等ノ内部ノ光ニシテ外部ニ漏レザルモノ
 - 二 特別ノ事情ニ因リ必要アリト認め地方長官ノ指定スル光

第六條 左ニ掲グル場合ニ於テハ本令ノ規定ニ拘ラズ必要最小限度ノ光ヲ使用スルコトヲ得

- 一 消防、人命救助等ノ爲緊急ノ必要アルトキ
- 二 特別ノ必要ニ因リ警察署長ノ許可ヲ受ケタルトキ

第七條 第一號表乃至第七號表中警戒管制ノ甲ノ程度ヲ適用スベキ區域ハ防空法施行令第七條ノ陸海軍司令官 (以下陸海軍司令官ト稱ス) ノ通知ニ依リ地方長官之ヲ定メ其ノ他ノ區域ハ乙ノ程度ヲ適用スベキ區域トス

前項ノ規定ニ依リ難キ海上ノ區域ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

第八條 第一號表、第二號表、第四號表又ハ第五號表中ノ許可又ハ指定ハ地方長官之ヲ爲スモノトス

第九條 第一號表、第二號表、第四號表、第五號表及第七號表中隠蔽ト稱スルハ開口部其ノ他ニ覆ヲ施シ外部ニ對シ漏光ナカラシムルヲ謂フ

第一號表乃至第五號表中遮光ト稱スルハ光源ニ對シ直接覆ヲ施シ又ハ之ニ準ズル方法ヲ講ジ各表ニ掲グル條件ニ依リ光ヲ遮ルヲ謂フ

第四號表及第五號表中確認距離ト稱スルハ燈火ノ目的ニ應ジ實用ニ適スル程度ニ認識シ得ル最大限度ノ距離ヲ謂フ

第一號表、第三號表、第四號表、第五號表及第七號表中透視距離ト稱スルハ光源及其ノ反射光等一切ノ光ヲ認識シ得ル最大限度ノ距離ヲ謂フ

第十條 左ニ掲グル事項ニ關シテハ地方長官又ハ警察署長ハ陸海軍司令官ニ協議スベシ但シ豫メ陸海軍司令官ト協定シタル事項ニ關シテハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 第一號表、第二號表、第四號表又ハ第五號表ニ依ル許可又ハ指定ヲ爲サントスルトキ
- 二 第四條第一項ノ規定ニ依リ屋外燈ヲ指定シ又ハ其ノ光ヲ秘匿スベキ期間ヲ定メントスルトキ
- 三 第五條第二號ノ規定ニ依リ光ヲ指定セントスルトキ
- 四 空襲管制ノ場合ニ於テ第六條第二號ノ規定ニ依リ許可ヲ爲サントスルトキ

附 則

本令ハ昭和十三年四月十日ヨリ之ヲ施行ス

類普通屋內燈	燈店先燈類以外ノ屋內
漏 「一」ヲ許光 スル一平透可制 ル一過ヲ限 コメ方ス受 トニケルケ 「下」付東光 ト三ヲ面	減隱 (イ)且 光室遮 方米ノ光 ○光內ニ ル燭以付 コ燭以付 ト光內ニ 以付廣 下付廣 ト燭三 ス五燭平
減隱 コ燭光米室光 ト光以ノ且 以內付廣遮 下〇サ光蔽 ト一・三 ス燈五平 ル二燭方	隱 消 蔽 燈
乙 ザ水部ス光ノト部ス光合 ル平ノル源(ロ)ニル源(イ)及 コ以外射ヨノハ光直 ト上側光リノザガ直 ニニガ直場 向於開接合 ハテ口發	乙 ノ(イ)及 甲ノ場

店先燈類	種	類
火其店店店 註ノ先先先 面他陳列吊裝 ノ店之ニ箱下飾 外先ト類スル照明燈燈燈 部トハ戸フ締	消	乙
消	燈	管 戒 制
消	燈	甲
消	燈	空 襲 管 制
消	燈	遮 光 條 件

第二號表

一般屋內燈ノ光ノ秘匿ノ程度

類特別屋外燈	註用燈(例)ノ側火屋露屋他明動 内燈、例ル他照運場寺 ノ側火屋露屋他明動 燈壁等上管外ノ燈鏡照屋園園 火ナ)燈燈燈種 技 娛明外 ヲキ、火類 = 樂 合建 祭墓 = 樂 ム物 禮地 屬 場燈燈燈燈
消	殘八光以以米合維燈屋但 置〇シ下內=面持=外シ ス米各=付積ノ限燈公燈 ル以燈減一〇一必リ、園 コ上ノ光燈・〇要交廣燈 トト間シ八二〇ア通場、 ヲシ隔且燭燭平ル治照社 得テヲ遮光光方場安明寺
消	燈
消	燈

携帶燈類	車普 輛燈類通					尾 輛 照 明
		其乘室 合自 他動 ノ車 標 示 燈 火	空方 車向 札幕 照照 明明 燈燈	計方 向 指 示 器 燈	停 止 照 明 燈	
火其個 ノ人 他之 =携 類帶 スル 燈	火其乘 ノ合牛 他之馬 =馬 類車 スル 燈	手力轉 人車 手車 車	平 常 ノ 燈	平 常 ノ 燈	平 常 ノ 燈	平 常 ノ 燈
コキ下 トハニ ヲ遮減 得光光 セス燭 ザル光 ルト以	減 トシニ ヲテ減 得殘光 置シ燭 ス且光 ル遮以 コ光下	消 トシニ ヲテ減 得殘光 置シ燭 ス且光 ル遮以 コ光下	減 ト米透 以下距 ト離ス ル〇〇	減 ト米透 以下距 ト離ス ル〇〇	減 ト米透 以下距 ト離ス ル〇〇	減 ト米透 以下距 ト離ス ル〇〇
消 燈						
リ米光 モ以源 認上ヲ メノ地 得何表 ザレ上 ルノ三 コ點〇 トヨ〇	ザ射光 ル光源 コがヨ ト開リ 口直 部接 ニ發 向ス ハル					

自動車燈類	標交 識燈 類通	信交 號燈 類通	種 類	警 戒 管 制	
				乙	甲
側前 註 案內 燈ヲ 含ム 燈	火其障 ノ留全 他之碍 =注所 類ス意 ルス識 燈燈燈	火其交 ノ通整 他之理 =手提 類ス信 ル號 燈燈			
減 スル直ニ ル最ナ於 ク大ルテ コ照面光 ト以度ニ 下ヲ於ニ ト三ケ垂 ル〇〇	減 ト米透 以下距 ト離ス ル〇〇	減 ト米透 以下距 ト離ス ル〇〇			
消 燈	消 ト米透 以下距 ト離ス ル〇〇	減消 ト米透 以下距 ト離ス ル〇〇			
空光器自 ニがヨ動 向一リ車 ハ五直水 ザ度接平 ル以發ノ コ上スト トノルキ 上射燈	甲 認射モ上 メ光光ノ 得等源何 ザ一又レ ル切ハノ コノ其點 ト光ノヨ ヲ反リ以	乙 ル一源ノ コ切又何 トノハレ 光其ノ三 ヲノ點〇 認反ヨ〇 メ射リ米 得光モ以 ザ等光上			

標車 識 燈 類輛	標地 識 燈 類上			
	似其信 燈ノ號機 他ノ附 種ノ隨 標ノ識 識別類燈	接 近 表 示 燈	火其徐燈 ノ行許 之ニ容 類スル標 燈燈	位列車識 置車止 ヲ又ハ標 表示ノ輛 スルノ停 諸標止燈
前 註 リ部 1前 燈照標 ヲ燈識 含ムト 口燈				轉 轍 機 及 轍 叉 等 ノ 標
減 減 ト光一光以 以燈且下燈 下ト遮トト トシ光スシ光 ス二ル五 ル〇コ燭 コ燭ト光	平常ノ儘			
ト〇分ス以確光 米ニル下認且 以在鐵'距遮 下リ道道離光 トテ軌路六 スハ道ニ〇 ル一ノ敷〇 コ〇部設米	減 以確光 下認且 ト距遮 ス離光 ル一 コ〇 ト〇 米	減 以確光 下認且 ト距遮 ス離光 ル五 コ〇 ト〇 米	減 以確光 下認且 ト距遮 ス離光 ル三 コ〇 ト〇 米	
減 下テ道敷米確光 トハノ設以認且 ス一部ス下距遮 ル〇分ル'離光 コ〇=鐵道六 ト米在道路〇 以リ軌ニ〇	減消 ト米確光 以認且 下距遮 ト離光燈 ス一 ル〇 コ〇	減 以確光 下認且 ト距遮 ス離光 ル五 コ〇 ト米	減消 ト米確光 以認且 下距遮 ト離光燈 ス三 ル〇 コ〇	
合警 ルノ空 コ遮 ト光管 具制 ヲノ 用場 フ合	警 戒ザ切其ヨ以地管戒 管ルノノリ上表制管 制コ光反モノ上ノ制 ノトヲ射光何三場ノ 乙認光源レ〇合甲 ノメ等又ノ〇及 場得一ハ點米空			

合信 圖 燈 類號			種 類	
火其進器信手 ノ路燈號信 他ヲ類號 之表示似 ニスル各 スル燈種 燈火應火	火其合 ノ圖 他ニ用 ニフル 類スル 燈火	ム(徐 行時換 豫信信 告標號 燈機機 ヲ燈燈 合燈燈)		
		誘入誘 尋信信 信信 號號 機機 機機	出場 發信 塞信 閉信 護信 之信 他信 類號 スル 燈燈	種 類
平常ノ儘			乙	替 戒 管 制
ト〇分ス以確光 米ニル下認且 以在鐵'距遮 下リ道道離光 トテ軌路四 スハ道ニ〇 ル一ノ敷〇 コ〇部設米	減 ト〇分ス以確光 米ニル下認且 以在鐵'距遮 下リ道道離光 トテ軌路三 スハ道ニ〇 ル一ノ敷〇 コ〇部設米	減 ト〇分ス以確光 米ニル下認且 以在鐵'距遮 下リ道道離光 トテ軌路六 スハ道ニ〇 ル一ノ敷〇 コ〇部設米	甲	空 襲 管 制
減消 下テ道敷米確光 トハノ設以認且 ス一部ス下距遮 ル〇分ル'離光燈 コ〇=鐵道四 ト米在道路〇 以リ軌ニ〇	減消 下テ道敷米確光 トハノ設以認且 ス一部ス下距遮 ル〇分ル'離光燈 コ〇=鐵道三 ト米在道路〇 以リ軌ニ〇	減消 下テ道敷米確光 トハノ設以認且 ス一部ス下距遮 ル〇分ル'離光燈 コ〇=鐵道六 ト米在道路〇 以リ軌ニ〇		遮 光 條 件
認射モ上地 メ光光ノ表 得等源何上 ザ一又レ三 ル切ハノ〇 コノ其點〇 ト光ノヨ米 ヲ反リ以				

點檢燈類		點檢燈類	
入換作業用構内照明 註ニ限操車場組成	火其列車他之類ニ照明燈	巡檢燈	其車點檢 註ノ他之類ニ點檢 ルノ場合ニ使用スル 合ニ使用スル 合ニ使用スル 合ニ使用スル
減光 コ燭以方作光 ト光内米業且 以、ニ面遮 下一付一光 ト燈三〇 ス五燭〇 ル〇光平	減消 ト光以〇於ル得但 ヲシ下・ケモルシ 得テニールノ處迅 殘減五最ハ置速燈 置光「大彼ヲニ スシク照照度面ヲニ コ遮」ヲニ許ヲニ ト光以〇於可講消 ヲシ下・ケヲジ燈 得テニ三受タシ	減消 ス「被二光 ルル照米且 コク面ノ遮 トスノ距光燈 「照離 以度ニ 下ヲ於 ト一テ	減消 ス「被一光 ルル照米且 コク面ノ遮 トスノ距光燈 「照離 以度ニ 下ヲ於 ト一テ
消 燈	消 燈	減消 コステー光 ト「〇被米且 以・照ノ遮 下五面距光燈 ト「ノ離 スル照ニ ルク度於	減消 コステー光 ト「〇被米且 以・照ノ遮 下五面距光燈 ト「ノ離 スル照ニ ルク度於
タ光光 ル具源 線ノノ ガ下下 光端端 源ニヨ ノ引リ 下キ遮		ザノ〇ノ燈 ル點〇光器 コヨ米源水 トリ以ヲ平 モ上地ノ 認ノ表ト メ何上キ 得レ三其	

特殊火光類	車輛燈類		自動開閉式扉表示燈	後部標識燈
無軌條電車、鋼索車、 電氣機關車、 蒸汽機關車、 蒸汽機關車煙突火粉	火其知計運行先 ノ他ラ番器號表 ニセ表表示 スル燈燈燈燈	車 内 照 明 燈	平常ノ儘	平常ノ儘
極力防止ニ努ムル	平常ノ儘 少但シノ儘 ニ發光量 ムルコト減	減消 コ燭以方 ト光内米室 以、ニノト 下一付廣 ト燈五サ ス一燭三 ル〇光平	減消 コ燭以方 ト光内米室 以、ニノト 下一付廣 ト燈五サ ス一燭三 ル〇光平	減消 コ燭以方 ト光内米室 以、ニノト 下一付廣 ト燈五サ ス一燭三 ル〇光平
極力防止ニ努ムル	減消 ル減發 コ少光量 トニ量及 メ發光時 且光間 遮光スノ	減消 以透視 ト距光 スル三〇 ト〇米	減消 以透視 ト距光 スル三〇 ト〇米	減消 以透視 ト距光 スル三〇 ト〇米
極力防止ニ努ムル	隱蔽 トノ發 減少量及 ニ發光時 ムルコト	減消 ト米透視 ト距光 スル三〇 ト〇米	隱蔽 燈	減消 米確光 以認且 ト距遮 スル三 ト〇米
二放上 以部方 上上全 ヲ部部 蔽ノ及 フ三側 コ分方 トノ開		ニトリノ特 同其漏ニ ジノ光限 ハセリ指 ハザ欄定 ハル間合 ハルモ	ト部ス光 ニル源 向射ヨ ハ光リ ザガ直 ル開接 コ口發	認射モ上地 メ光光ノ表 得等源何上 ザ一又レ三 ル切ハノ〇 コノ其點〇 ト光ノヨ米 ヲ反リ

燈籠軌シ地 類道道下 内内ルニ 照燈鐵敷 明及道設	踏切燈類			
地照道地 表明軌下 =燈道=敷 放其内敷 光ノ燈、シ スニ隆タル 燈シ道内鐵 火テ内鐵	踏切 照明 燈	踏切 注意標 照示 燈	踏切 警報器 燈	出札 改札口 註集札口 内側壁ナ 燈火ナキ ヲ含ム物 燈
減光 ル八燭 コ燭且 ト光遮 以光 下ト ス	減光 ル六燭 コ燭以 ト光内 以、ニ 下一付 ト燈八 ス一燭	減光 ル五燭 コ燭且 ト光遮 以下 トス	平常ノ 儘	減光 以一改窓 下燈集口 トト札一 スシ口箇 ル五ニ又 コ燭對ハ ト光シ一
隠消 ルニ視但 コ減距シ ト光離必 ヲシ五要 得テ〇ニ 殘米應 置以ジ ス下透	消 ヲ於ニス 得テ關ル 殘スモ照 置ルノ明 ス制ハ燈 ル限該ニ コ内燈代 トニ類用 注踏	減 以透視 ト下距 ス離光 ル三 コ〇 ト〇 米	減 以透光 ト下視 ス離光 ル五 コ〇 ト〇 米	減 光且遮 ト下視 ス離光 ル五 コ〇 ト〇 米
隠消 蔽燈	消 得殘ルハ 置制該代 ス限燈用 ル内類ス コニニル ト於關モ ヲテスノ	減 ト米透 以視 ト下距 ト離光 ス三 ル〇 コ〇	減 ト米透 以視且 ト下距 ト離光 ス五 ル〇 コ〇	消 燈
ヲト方タ ナニニル ス〇向線 コ度ヒガ ト以且光 上水源ニ ノ平ノ引 角面下キ	光光 具源 ノノ 下下 端端 ヨリ 引リ 遮	空ル光 ニ射源 向光ヨ ハガリ ザ可直 ル及接 コ的發 ト上ス	認射モ上 メ光光ノ 得等源何 ザ一又レ ル切ハノ コノ其點 ト光ノヨ ヲ反リ以	ヲト方タ ナニニル ス〇向線 コ度ヒガ ト以且光 上水源ニ ノ平ノ引 角面下キ

特殊照明燈			
誘屋 註外各 内側壁種 燈火ナキ ヲ含ム物 燈	屋内 各種表示 燈	火其給洗乘 ノ炭滌降 他之水臺場 之ニ屋屋屋 類スル外外外 燈燈燈燈	火其電車各 ノ他之車庫 註内側壁ニ 燈火ナキ建 ヲ含ム物 燈
消 コ光〇ノニ トシ〇ハ指 ヲテ米透定 得殘以視シ 置下距タ燈 スニ離ル及 ル減五モ特	平常ノ 儘	減 コ燭以方地 ト光内米表 以、ニ面遮 下一付一光 ト燈三〇 ス一燭〇 ル六光平	減 ス一燭方地 ル六光米表 コ燭以ニ面 ト光内付一 以、一〇 下一〇〇 ト燈五平
消 置以透指但 ス下視定シ ルニ距シ誘 コ減離タ導 ト光三ニ燈 ヲシ〇モ及 得テ〇ノ特 殘米ハニ	減 以透視 ト下距 ス離光 ル三 コ〇 ト〇 米	消 置光「最ケ スシク大被 ル且ク照照 コ遮「度面ハ ト光以ヲニ ヲシ下〇於 得テニ・ケ 殘減三ニ受	消 殘減五最ケ 置光「大被 スシク照照 ル且ク度面ハ コ遮「ヲニ ト光以〇於 ヲシ下・ケ 得テニール
消 トシ〇リ但 ヲテ米透シ 得殘以視誘 置下距導燈 スニ離燈 ル減三ニ コ光〇限	隠消 蔽燈	消 燈	消 燈
			ヲト方 ナニニ ス〇向 コ度ヒ ト以且 上水源 ノ平ノ 角面下

航空機燈類	飛行場燈類	航空標識燈類	種 類	
			種 類	種 類
燈其計信照着碇機尾左室 火ノ他之ニ類スル 燈燈燈燈燈燈燈燈	障雲風各場蕭 碍高向種陸 標測標信周 示定示號 燈燈燈燈燈燈	航 空 標 識 燈 類 獨 立 障 碍 物 標 識 燈 類	乙	警 戒 管 制
			甲	空 襲 管 制
				遮 光 條 件

別ニ指示スル所ニ依ル

備考 特別ノ事情ニ因リ必要アリト認め別ニ告示スル場合ニ於テハ海上衝突豫防法ニ規定スル船燈ニ關シ
テハ警戒管制ノ場合及空襲管制ノ場合ヲ通ジ警戒管制ノ乙ノ程度ニ依ル

第六號表 航空關係燈ノ光ノ秘匿ノ程度

埠頭標識燈類	埠頭燈類		
	屋外各種表示燈	屋内各種表示燈	埠頭起重機外燈
燈其稅繁浮波岸棧 火ノ關船棧除堤壁橋 他之監船橋堤突突端 ニ所信橋橋堤端端標 類標識號識識識識識 スル燈燈燈燈燈燈	出改 札集 口札 屋屋 外外 燈燈 建建	誘屋 註外 物內 側側 ノ壁 燈ナ 火キ ヲ建	減 光且 遮光 以下 ト燭 光以 所遮 下一 ト燈 スト ルシ コ五
減 光且 遮光 以下 ト燭 光以 所遮 下一 ト燈 スト ルシ コ五	減 光且 遮光 以下 ト燭 光以 所遮 下一 ト燈 スト ルシ コ五	減 光且 遮光 以下 ト燭 光以 所遮 下一 ト燈 スト ルシ コ五	「ルクス」 置光 スシ ル且 遮 ト光 ヲ以 下ニ 得テ 殘減
隱 消	消	消	隱 消
蔽 燈	燈	燈	蔽 燈
甲 乙 ザ切其ヨ以地ノル的ス光ノ ルノノリ上表場コ上ル源場 コ光反モノ上合ト空射ヨ合 トヲ射光何三ニ光リ 認光源レ〇 向ガ直 メ等又ノ〇 ハ可接 得一ハ點米 ザ及發	ヲト方タ光光 ナニニル具源 ス〇向線ノノ 度ヒガ下下 ト以且光端端 上水源ニヨ ノ平ノ引リ 角面下キ遮		ヲト ナニ ス〇 コト 以上 ノ角

防 毒

防毒資材取締規則

(昭和十三年五月二日
內務省令第一一〇號)
昭和十四年五月二日改正

第一條 本令ニ於テ防毒具ト稱スルハ毒性ノ瓦斯、煙霧、液體、粉塵等ニ對スル防護具ヲ謂フ
防毒具ハ左ノ二種トス

第一種 防毒面(酸素呼吸器ヲ含ム以下之ニ同ジ)、防毒衣、防毒手袋、防毒靴、防毒濾函並ニ防毒面用ノ覆面、呼吸瓣及吸收罐

第二種 其ノ他ノ防毒具

本令ニ於テ防毒檢定器ト稱スルハ毒性ノ瓦斯、煙霧、液體、粉塵等ヲ檢知スル器具及防毒具ノ性能ヲ檢査スル器具ヲ謂フ

本令ニ於テ防毒藥物ト稱スルハ防毒面吸收罐又ハ防毒濾函ニ使用シ防毒ノ效能アリトスル藥物、毒性ノ瓦斯、煙霧、液體、粉塵等ノ檢知ノ效能アリ

トスル藥物及防毒ノ效能アリトスルモノニシテ內務大臣及厚生大臣ノ指定スル藥物ヲ謂フ
本令ニ於テ防毒具材料ト稱スルハ防毒具ノ製造又ハ修葺ニ使用スル物ニシテ內務大臣ノ指定スルモノヲ謂フ

第二條 本令ハ販賣ノ用ニ供スル防毒具、防毒檢定器、防毒藥物及防毒具材料ニ付之ヲ適用ス但シ第十一條及第十二條ノ規定ハ販賣ノ用ニ供セザルモノニ付テモ之ヲ適用ス

第三條 第一種防毒具又ハ防毒檢定器ヲ製造セントスル者ハ左ノ各號ニ掲グル事項ヲ、輸入又ハ移入セントスル者ハ第一號乃至第三號及第六號ニ掲グル事項ヲ具シ見本品ヲ添ヘ主タル業務所在地ノ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ)ヲ經由シ內務大臣ノ許可ヲ受クベシ
一 氏名(法人ニ在リテハ其ノ名稱)、商號及業務

所在地

二 製造所ノ名稱及所在地

三 第一種防毒具又ハ防毒檢定器ノ種類、型式、構造及性能

四 製造方法及製造設備(製品檢査設備ヲ含ム)ノ概要並ニ一年ノ製造能力

五 主任技術者ノ氏名及履歷

六 第一種防毒具又ハ防毒檢定器ニ添付スル性能說明書

前項第三號乃至第六號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ前項ニ準ジ許可ヲ受クベシ

第一項第一號又ハ第二號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ第一項ニ準ジ內務大臣ニ届出ツベシ

第四條 第一種防毒具又ハ防毒檢定器ノ製造者、輸入者又ハ移入者ハ其ノ製造、輸入又ハ移入シタル第一種防毒具又ハ防毒檢定器ニ其ノ型式及製造年並ニ製造者ノ氏名(法人ニ在リテハ其ノ名稱)又ハ商號ヲ明記シ且防毒面吸收罐又ハ防毒濾函ニ別表ニ掲グル性能標識ヲ附スベシ

第五條 第一種防毒具又ハ防毒檢定器ノ製造者、輸

入者又ハ移入者ハ其ノ製造、輸入又ハ移入シタル第一種防毒具又ハ防毒檢定器ニ付內務大臣ノ定ムル所ニ依リ檢定ヲ定クベシ

前項ノ檢定ニ合格シタル第一種防毒具又ハ防毒檢定器ニハ第一號様式ノ檢定證印ヲ附ス

第六條 第二種防毒具、防毒藥物又ハ防毒具材料ヲ發賣セントスル者ハ左ノ各號ニ掲グル事項ヲ具シ見本品ヲ添ヘ主タル業務所在地ノ地方長官ノ許可ヲ受クベシ

一 氏名(法人ニ在リテハ其ノ名稱)、商號及營業所在地

二 製造所ノ名稱及所在地

三 第二種防毒具ニ在リテハ其ノ種類、型式、構造及性能

四 防毒藥物ニ在リテハ其ノ品名、品質及效能(製劑ニ在リテハ原料品名及其ノ分量並ニ製造方法ノ概要ヲ併記スルコト)

五 防毒具材料ニ在リテハ其ノ品名、品質及性能

六 第二種防毒具、防毒藥物又ハ防毒具材料ニ添付スル性能又ハ效能說明書

前項第三號乃至第六號ノ事項ヲ變更セントスルト
キハ前項ニ準ジ許可ヲ受クベシ

第一項第一號又ハ第二號ノ事項ヲ變更セントスル
トキハ第一項ニ準ジ地方長官ニ届出ヅベシ

第七條 第二種防毒具ノ發賣者ハ其ノ發賣スル第二
種防毒具ニ其ノ型式及發賣者ノ氏名(法人ニ在リ
テハ其ノ名稱)又ハ商號ヲ明記スベシ

防毒藥物ノ發賣者ハ其ノ發賣スル防毒藥物ノ容器
又ハ被包ニ防毒藥物ナル文字、品名及發賣者ノ氏
名(法人ニ在リテハ其ノ名稱)又ハ商號ヲ明記ス
ベシ

防毒具材料ノ發賣者ハ其ノ發賣スル防毒具材料ノ
容器又ハ被包ニ防毒具材料ナル文字、品名及發賣
者ノ氏名(法人ニ在リテハ其ノ名稱)又ハ商號ヲ
明記スベシ

第八條 防毒具、防毒檢定器、防毒藥物又ハ防毒具
材料ノ請賣營業ヲ爲サントスル者ハ營業所毎ニ營
業所在地ノ地方長官ニ届出ヅベシ

第九條 第五條第二項ノ規定ニ依ル檢定證印ナキ第
一種防毒具若ハ防毒檢定器又ハ第四條若ハ第七條

ノ規定ニ依ル表示若ハ性能標識ナキ防毒具、防毒
檢定器、防毒藥物若ハ防毒具材料ハ之ヲ販賣スル
コトヲ得ズ

第十條 防毒具、防毒檢定器、防毒藥物又ハ防毒具
材料ハ第三條第一項第六號ノ性能説明書又ハ第六
條第一項第六號ノ性能若ハ效能説明書ヲ添付スル
ニ非ザレバ之ヲ販賣スルコトヲ得ズ

第十一條 第一種防毒具又ハ防毒檢定器ノ修葺營業
ヲ爲サントスル者ハ營業所毎ニ營業所在地ノ地
方長官ノ許可ヲ受クベシ

第十二條 第一種防毒具又ハ防毒檢定器ノ修葺營業
者ハ其ノ修葺シタル一種防毒具又ハ防毒檢定器
ニ付内務大臣ノ定ムル所ニ依リ檢定ヲ受クベシ
前項ノ檢定ニ合格シタル第一種防毒具又ハ防毒檢
定器ニハ第二號様式ノ檢定證印ヲ附ス

前項ノ規定ニ依ル檢定證印ナキ第一種防毒具又ハ
防毒檢定器ハ之ヲ修葺シタルモノトシテ交付スル
コトヲ得ズ

第十三條 地方長官ハ當該官吏ヲシテ防毒具、防毒
檢定器、防毒藥物若ハ防毒具材料ヲ製造、貯藏若

ハ販賣スル場所ヲ巡視セシメ又ハ防毒具、防毒檢
定器、防毒藥物若ハ防毒具材料ヲ檢査セシムルコ
トヲ得

第十四條 第一種防毒具又ハ防毒檢定器ノ製造者、
輸入者又ハ移入者其ノ業務ニ關シ犯罪若ハ不正ノ
行爲アリタルトキ又ハ本令ノ規定ニ違反シタルト
キハ内務大臣ハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十五條 第二種防毒具、防毒藥物若ハ防毒具材料
ノ發賣者、防毒具、防毒檢定器、防毒藥物若ハ防
毒具材料ノ請賣營業者又ハ第一種防毒具若ハ防毒
檢定器ノ修葺營業者其ノ業務ニ關シ犯罪若ハ不正
ノ行爲アリタルトキ又ハ本令ノ規定ニ違反シタル
トキハ地方長官ハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ營業ヲ禁
止若ハ停止スルコトヲ得

第十六條 第三條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ三
月以下ノ懲役ニ處ス

第十七條 第六條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ三
月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ
罰金又ハ科料ニ處ス

一 第三條第二項、第四條、第六條第二項、第七
條乃至第九條、第十一條又ハ第十二條第三項ノ
規定ニ違反シタル者

二 第十三條ノ規定ニ依ル巡視又ハ檢査ヲ拒ミ、
妨ゲ又ハ忌避シタル者

三 第十五條ノ規定ニ依ル營業ノ停止中其ノ營業
ヲ爲シタル者

第十九條 第三條第三項、第六條第三項又ハ第十條
ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第二十條 防毒具、防毒檢定器、防毒藥物又ハ防毒
具材料ノ製造者、輸入者、移入者、發賣者、請賣
營業者又ハ修葺營業者ハ其ノ代理人、戶主、家
族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務
ニ關シ本令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デ
ザルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第二十一條 本令ニ依リ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ
法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他法人ノ業務ヲ
執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキ
ハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成
年者ト同一ノ能力ヲ有スル者ニ付テハ此ノ限ニ在

ラズ
第二十二條 本令ハ陸海軍ノ用ニ供スル防毒具、防
 毒檢定器、防毒藥物及防毒具材料ニ付テハ之ヲ適
 用セズ

附 則

本令ハ昭和十三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス
 本令公布ノ際現ニ防毒具、防毒檢定器若ハ防毒藥物
 ヲ製造若ハ發賣スル者又ハ其ノ請賣營業ヲ爲ス者ハ
 本令施行後一月以内ニ第三條、第六條又ハ第八條ノ
 規定ニ依ル手續ヲ爲スベシ
 前項ノ規定ニ依リ第三條又ハ第六條ノ許可ヲ申請シ
 タル者ニ付テハ其ノ申請ニ對スル許可又ハ不許可ノ
 處分ノ日迄第四條、第五條及第七條ノ規定ハ之ヲ適
 用セズ
 本令施行ノ際現ニ存スル防毒具、防毒檢定器若ハ防
 毒藥物又ハ第二項ノ規定ニ依リ第三條若ハ第六條ノ
 許可ヲ申請シタル者ガ其ノ申請ニ對スル許可若ハ不
 許可ノ處分ノ日迄ニ製造若ハ發賣シタル防毒具、防
 毒檢定器若ハ防毒藥物ニ付テハ昭和十四年十二月三
 十一日迄第九條及第十條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

(別 表)

防 毒 用 具	性 能	標 識
普通瓦斯用	灰色及黑色	イ
酸性瓦斯用	灰色	ロ
有機瓦斯用	黑色	ハ
粉塵用	白色	ホ
一酸化炭素用	紅色	ヘ
消 防 用	白色及紅色	ト
金 屬 用	白色及黑色	チ
ア ン モ ニ ア 用	綠色	リ
亞硫酸及硫酸用	橙 色	ヌ
青 酸 用	青 色	ル
硫 化 水 素 用	黃 色	ラ
磷化水素及砒化水素用	藍 色	ワ
各種瓦斯及煙霧用	暗 赤 色	カ
防 空 用	暗 赤 色	ヨ

備 考
 一 標識色ハ外部全面一様ニ塗色シ二色ノ場合ハ
 上下二層ニ塗色スルコト

二 標識記號ハ白字ヲ以テ表スコト但シ標識色白
 色ナルトキハ黒字ヲ以テ表スコト
第一號様式



外 圓
 直徑一五耗



外 圓
 直徑一五耗

防毒資材檢定ニ關スル告示

(昭和十四年八月一日)
 (内務省告示第四百十七號)

防毒資材取締規則第五條及第十二條ノ檢定ハ内務省
 防空研究所之ヲ行フモノトス

**警視廳防毒資材取締規則
 施行細則**

(昭和十三年五月二十八日)
 (警視廳令第十二號)

第一條 防毒資材取締規則(以下單ニ規則ト稱ス)
 又ハ本令ニ依リ内務大臣又ハ警視總監ニ提出スル
 申請書又ハ届書ハ主タル業務所又ハ主タル營業所
 所在地(防毒具、防毒檢定器、防毒藥物又ハ防毒具
 材料ノ請賣營業若ハ第一種防毒具又ハ防毒檢定器
 ノ修賣營業ヲ爲ス者ニ在リテハ各營業所所在地)
 所轄警察署長ヲ經由スベシ
第二條 規則第三條ノ申請書又ハ届書ハ二通(正副)
 提出スベシ
第三條 規則第三條ノ見本品ハ特別ノ事情アル場合

ノ外二個添附スベシ

第四條 規則第八條ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 氏名(法人ニ在リテハ其ノ名稱)商號及營業所在地

二 販賣品ノ種類

第五條 規則第十一條ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 氏名(法人ニ在リテハ其ノ名稱)商號及營業所在地

二 修履場所

三 修履品ノ種類

四 修履設備ノ概要

五 主任技術者ノ氏名及履歴

第六條 第一種防毒具又ハ防毒檢定器ノ修履營業者修履品ノ種類、修履設備又ハ主任技術者ヲ變更セントスルトキハ警視總監ノ許可ヲ受クベシ

第七條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ十日内ニ警視總監ニ届出ヅベシ

第四號及第五號ノ場合ニ於テハ戶籍法ニ依ル届出

義務者(法人ニ在リテハ清算人)前項ノ手續ヲ爲スベシ

一 第四條ノ届出事項ニ變更アリタルトキ

二 第五條第一號又ハ第二號ノ事項ニ變更アリタルトキ

三 廢業シタルトキ

四 營業者又ハ業務者死亡(法人ニ在リテハ解散)シタルトキ

五 營業者又ハ業務者所在不明三十日ニ及ビタルトキ

第八條 防毒具、防毒檢定器、防毒藥物又ハ防毒具材料ノ製造者、輸入者、移入者、發賣者又ハ請賣營業者ハ一年間ニ製造又ハ取引シタル防毒具、防毒檢定器、防毒藥物又ハ防毒具材料ノ種類、數量並ニ年末現在高ヲ翌年一月二十日迄ニ警視總監ニ届出ヅベシ

第九條 警視總監ハ防毒具、防毒檢定器、防毒藥物又ハ防毒具材料ノ製造者、輸入者、移入者、發賣者、請賣營業者又ハ修履營業者ニ對シ營業所、業務所、製造所又ハ修履場所ノ設備其ノ他ニ關シ必

要ナル事項ヲ命ズルコトアルベシ

第十條 第六條乃至第八條ノ規定ニ違反シタルトキ若ハ第九條ノ規定ニ基ク命令ニ違反シタルトキハ

科料ニ處ス

第十一條 防毒具、防毒檢定器、防毒藥物又ハ防毒具材料ノ製造者、輸入者、移入者、發賣者、請賣營業者又ハ修履營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居人、雇人其ノ他從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ

本令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第十二條 本令ニ依リ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ其ノ代表者ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル者ニ付テハ

此ノ限ニ在ラズ

附 則

本令ハ昭和十三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

警視廳防毒資材取締規則施行細則執行心得

(訓令甲第百四十一號 昭和十三年五月二十八日)

第一條 本令ニ於テ規則ト稱スルハ防毒資材取締規則ヲ、細則ト稱スルハ防毒資材取締規則施行細則ヲ謂フ

第二條 所轄警察署長ハ別記様式ニ依ル防毒資材業者臺帳ヲ備ヘ異動アル毎ニ整理スベシ主タル業務所又ハ主タル營業所所在地ヲ變更セントスル届ニシテ變更先東京府内ナルトキハ其ノ所轄警察署ニ他ノ廳府縣ナルトキハ警視廳ニ前項ノ臺帳ヲ送付スベシ

第三條 規則第六條第一項又ハ規則第十一條ニ依ル申請書ヲ受理シタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ意見ヲ具シ申達スベシ

- 一 規則又ハ細則ニ依ル所定事項ヲ具備スルヤ否ヤ
- 二 規則第十四條又ハ第十五條ノ行政處分ヲ受ケタル事實ナキヤ否ヤ
- 三 資産信用ノ程度
- 四 性行來歴

五 其ノ他参考事項

第四條 細則第三條ニ依ル見本品二個ヲ添附シ難キ

特別ノ事情アルトキハ其ノ事由ヲ具シ進達スベシ

第五條 規則又ハ細則ニ依ル申請書又ハ届書(規則

第六條第一項及規則第十一條ノ申請書ヲ除ク)ヲ

受理シタルトキハ所要事項ヲ具備スルヤ否ヤヲ調

査シ進達スベシ

第六條 細則第九條ノ特別ノ事項ヲ命ズル必要アリ

本令ハ昭和十三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

様式 防毒資材業者臺帳(カード式縦十五種横十二種)

ト認メタルトキハ其ノ事由ヲ具シ上申スベシ

第七條 規則第十四條又ハ第十五條ニ依ル行政處分

ノ必要アリト認メタルトキハ其ノ事由ヲ具シ上申

スベシ

第八條 規則又ハ細則ノ違反事實ヲ認メタルトキハ

警務部長ニ報告スベシ

附 則

考備	主任 技術者 氏名	一ヶ年ノ製造能力	製造又ハ修覆方法及其ノ設備ノ概要	販賣品ノ種類	製造、輸入、移入、發賣、修覆又ハ	届 昭和 年 月 日	許可 昭和 年 月 日 指令第 號	業務所又ハ營業所所在地商號及氏名	署長	警部	主任	取扱者
								製造所又ハ修覆場所所在地				

防空建築

市街地建築物法(抄) (大正八年四月五日 法律第三十七號)

第十二條 主務大臣ハ建築物ノ構造、設備又ハ敷地

ニ關シ衛生上、保安上又ハ防空上必要ナル規定ヲ

設クルコトヲ得

防空建築規則 (昭和十四年二月十七日 内務省令第五號)

第一條 市街地建築物法第十二條ノ規定ニ依ル建築

物ノ構造、設備又ハ敷地ニ關シ防空上必要ナル事

項ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 本令ハ内務大臣ノ指定スル區域ニ之ヲ適用

ス

第三條 本令ニ於ケル用語ハ左ノ例ニ依ル

一 耐火木材トハ耐火液ヲ注入シタル木材ニシテ

内務大臣ノ定ムル規格ニ適合シタルモノヲ謂フ

二 床又ハ屋根ノ耐彈構造トハ鐵筋「コンクリー

ト」造(鐵骨鐵筋「コンクリート」造ヲ含ム以

下之ニ同ジ)ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモ

ノヲ謂フ

イ 版ノ厚ハ四十センチメートル以上ニシテ各

部分ニ於ケル鐵ト「コンクリート」トノ容積

比ハ〇・〇四以上且複筋及繫筋ヲ配置シ主筋

ノ間隔ハ十五センチメートル以下ト爲シ上下

ノ鐵筋ハ千鳥ニ配シ適當ニ熔接シタルモノ

ロ 版ノ厚特ニ大ナルモノ等ニシテ地方長官

(東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ)前

號ト同等以上ノ耐彈効力アリト認ムルモノ

三 防護扉トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂

フ

イ 鐵製ニシテ鐵板ノ厚ノ合計三ミリメートル

以上且防毒上有效ナル構造ヲ有スルモノ

ロ 木造ニシテ厚六センチメートル以上且防毒上有効ナル構造ヲ有スルモノ
 ハ 其ノ他地方長官前各號ニ準ズト認ムルモノ
 第四條 木造(鐵骨木造ヲ含ム以下之ニ同ジ)建物ニシテ隣地疆界線又ハ幅員四メートル未満ノ道路ノ中心線ヨリノ水平距離三メートル未満ノ位置ニ在ル部分ニ付テハ左ノ構造ト爲スベシ

一 外壁、軒、庇、軒蛇腹ノ類又ハ出格子、肘掛、戸袋其ノ他建物ノ突出部ハ準耐火構造ト爲シ又ハ左ニ掲グルモノヲ以テ構成若ハ被覆スルコト

イ	鐵網「モルタル」ニシテ厚二厘以上ノモノ	鐵網「モルタル」ニシテ厚二厘以上ノモノ	塗土、漆喰	耐火木材	石綿盤又ハ金屬板	其ノ他地方長官前各號ニ準ズト認ムルモノ
ロ	塗土、漆喰等ニシテ厚二厘以上ノモノ	耐火木材	耐火木材	耐火木材	耐火木材	耐火木材
ハ	耐火木材ニシテ厚一厘以上ノモノ(水平距離〇・五米未満ノトキヲ除ク)	耐火木材	耐火木材	耐火木材	耐火木材	耐火木材
ニ	石綿盤又ハ金屬板ニシテ厚一厘以上ノモノ(水平距離〇・五米未満ノトキヲ除ク)	耐火木材	耐火木材	耐火木材	耐火木材	耐火木材
ホ	其ノ他地方長官前各號ニ準ズト認ムルモノ	耐火木材	耐火木材	耐火木材	耐火木材	耐火木材

二 窓又ハ出入口ニ防火戸又ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル戸ヲ設ケ其ノ周圍部ハ前號ニ規定スル構造ト爲スコト
 イ 耐火木材、金屬板、石綿盤又ハ網入ガラスノ類ヲ以テ構成シタルモノ
 ロ 其ノ他地方長官前號ニ準ズト認ムルモノ
 三 金屬板ヲ以テ被覆シタル屋根ノ野地ハ適當ナル厚ノ不燃材料又ハ耐火木材ヲ以テ之ヲ構成スルコト
 地盤面ヨリノ高四メートルヲ超ユル木造建物ノ部分ニシテ隣地疆界線又ハ幅員六メートル未満ノ道路ノ中心線ヨリノ水平距離五メートル未満ノ位置ニ在ルモノニ付テハ前項ノ規定ヲ適用ス同一敷地内ニ於テ隣接スル木造建物ニ在リテハ互ニ相面スル外壁間ノ中心線ヲ以テ隣地疆界線ト看做シ前二項ノ規定ヲ適用ス但シ建築面積ノ合計六百平方メートル以下ノ建物ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
 第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ付テハ地方長官前條ノ制限ヲ輕減又ハ免除スルコトヲ得

一 建物ノ屋階及地階ヲ除キタル部分ノ床面積ノ敷地面積ニ對スル割合ノ限度十分ノ五以下ノ空地地區内ニ在ル建物
 二 床面積四平方メートル以下ノ平家建ノ建物
 三 公園、廣場、河、海ノ類ニ面スル建物ノ部分
 四 塙壁、防火壁又ハ防火上有効ナル塙塙ノ類ニ面スル建物ノ部分
 五 防火上有効ナル袖壁ノ類ヲ設ケタル場合ニ於ケル其ノ後方ノ建物ノ部分
 六 適當ニ「ドレンチャイ」ヲ設備スル建物ノ部分
 七 前條第一項第一號ニ規定スル構造ヲ有スルモノニ依リ絶縁セラルル建物ノ突出部
 八 柱、桁其ノ他木材ヲ使用スル建物ノ部分
 九 其ノ他地方長官防火上支障ナシト認ムル建物又ハ建物ノ部分
 第六條 木造ノ長屋ニ在リテハ地盤ヨリ屋根ニ達スル迄土塗壁又ハ金屬板ノ類ヲ以テ各戸ヲ區劃スベシ
 木造ノ長屋ニシテ其ノ建築面積百五十平方メートル

ルヲ超ユルモノハ百五十平方メートル以内毎ニ準耐火壁ヲ設ケベシ
 第七條 準耐火壁ノ構造ハ左ノ規定ニ依ルベシ但シ準耐火壁ノ壁面ヨリ一、五メートル以上ニ互リ建物ノ外周部又ハ野地ヲ第四條第一項ノ構造ト爲シタルトキハ第二號又ハ第三號ノ規定ニ依ラザルコトヲ得
 一 厚三センチメートル以上ノ鐵網「モルタル」造ノ類ニシテ倒壊ノ虞ナキモノト爲スコト
 二 兩端ハ之ニ近接スル木部ヨリ三十センチメートル(地盤面上二、五メートル以内ノ部分ハ十五センチメートル)以上突出セシムルコト
 三 上端ハ屋根面ニ直角ニ測リ四十五センチメートル以上屋上ニ突出セシムルコト
 第八條 木造建物ノ開口ニシテ隣地疆界線ニ面シ且其ノ水平距離一メートル未満ノモノニ付テハ地方長官防火上ノ必要ニ依リ其ノ大サヲ制限スルコトヲ得
 第九條 鐵筋「コンクリート」造ノ建物又ハ建物ノ部分ニシテ階數六以上ノモノ又ハ階數五且其ノ床

面積三千平方メートルヲ超ユルモノニ在リテハ其ノ屋根ヲ耐彈構造ト爲スベシ但シ最上階ニ集會室ノ類アル爲其ノ屋根ヲ耐彈構造ト爲シ難キ場合ニ於テハ其ノ部分ニ付テハ床ヲ耐彈構造ト爲シ之ニ代フルコトヲ得

前項ノ建物又ハ建物ノ部分ニハ其ノ居室ノ床面積ノ十分ノ一以上ノ收容面積ヲ有スル防護室ヲ設クベシ

第十條 鐵筋「コンクリート」造ノ建物又ハ建物ノ部分ニシテ階數三以上且其ノ床面積六百平方メートルヲ超ユルモノニ在リテハ其ノ居室ノ床面積ノ十分ノ一以上ノ收容面積ヲ有スル防護室又ハ準防護室ヲ設クベシ

第十一條 外壁又ハ屋根木造若ハ鐵造ノ建物又ハ建物ノ部分ニシテ階數二以上且其ノ床面積六百平方メートルヲ超ユルモノニ在リテハ左ノ各號ノ一ニ依リ防護ノ施設ヲ爲スベシ

- 一 居室ノ床面積ノ十分ノ一以上ノ面積ヲ有シ且周壁及屋根又ハ上階ノ床鐵筋「コンクリート」造若ハ之ト同等以上ノ耐彈効力ヲ有スル室ヲ設

クルコト

二 前號ニ相當スル防護ノ施設ヲ爲シ得ベキ空地ヲ設クルコト

前項ノ室又ハ空地ハ地方長官ノ許可ヲ受ケ建物ノ敷地外ニ之ヲ設クルコトヲ得

第十二條 壁體ヲ以テ遮斷セラルル建物ニ付テハ前三條ノ規定ハ其ノ區劃セラルル部分ニ付之ヲ適用ス

第十三條 地方長官ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル建物ニ付準防護室其ノ他防護ノ施設又ハ防護ノ施設ヲ爲シ得ベキ空地ニ關シ第十條又ハ第十一條ノ規定ニ準ジ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

- 一 公共團體ノ公用ニ供スルモノ
- 二 學校
- 三 病院
- 四 停車場、停留場又ハ航空機若ハ汽船ノ發着場
- 五 卸賣市場
- 六 常時五十人以上ノ職工ヲ使用スル工場
- 七 劇場、映畫館、演藝場、觀物場、公會堂又ハ集會場

八 前各號ニ掲グルモノノ外地方長官命令ヲ以テ指定スルモノ

第十四條 防護室ノ構造設備ハ左ノ規定ニ依ルベシ

- 一 收容室ト前室トニ區劃シ又ハ臨時區劃ノ設備ヲ爲シ得ルモノト爲スコト但シ地方長官防護室ノ位置其ノ他ノ狀況ニ依リ支障ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ
- 二 收容室ノ床面積ハ百平方メートルヲ超エザルコト但シ地方長官建物ノ用途其ノ他ノ狀況ニ依リ已ムヲ得ズト認メ又ハ支障ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ
- 三 上部ノ床又ハ屋根ハ耐彈構造ト爲スコト但シ防護室ノ上部ニ二以上ノ版アル場合ニ於テ地方長官支障ナシト認ムルトキハ耐彈構造ノ條件ヲ輕減スルコトヲ得
- 四 周壁ハ鐵筋「コンクリート」造ト爲スコト但シ建物ノ外壁ニ接シ且第一階以下ノ階ニ防護室ヲ設クル場合ニハ其ノ部分ノ周壁ハ特ニ堅固ナル構造ト爲スベシ
- 五 防護ニ際シ使用スル出入口ニハ防護扉ヲ設ク

ルコト

六 外壁ニ設クル開口ハ其ノ面積ヲ三平方メートル以下ト爲シ且第二階以上ノ階ニ在ルモノニ付テハ防護扉ノ類ヲ設ケ又ハ之ニ代ル臨時設備ヲ爲シ得ルモノト爲シ其ノ他ノ階ニ在ルモノニ付テハ耐彈設備ヲ爲シ又ハ之ニ代ル臨時設備ヲ爲シ得ルモノト爲スコト

七 外壁ニ非ザル周壁ノ開口ニシテ面積四平方メートルヲ超ユルモノニハ防護扉ノ類ヲ設クルコト

八 出入口一ナル場合ニ於テハ適當ナル位置ニ非常脱出口ヲ設クルコト

九 防毒上有效ナル構造ト爲スコト

第十五條 準防護室ノ構造設備ハ左ノ規定ニ依ルベシ

- 一 收容室ノ床面積ハ五十平方メートルヲ超エザルコト但シ地方長官建物ノ用途其ノ他ノ狀況ニ依リ已ムヲ得ズト認メ又ハ支障ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ
- 二 上部ノ床又ハ屋根及周壁ハ鐵筋「コンクリート」

ト」造又ハ之ト同等以上ノ耐弾効力アルモノト
爲スコト

三 防護ニ際シ使用スル出入口ニハ防護上支障ナ
キ位置ニ在ルモノヲ除クノ外防護扉ヲ設クルコ
ト

四 外壁ニ設クル開口ハ其ノ面積ヲ三平方メー
トル以下ト爲シ且防護扉ノ類ヲ設ケ又ハ之ニ代
臨時設備ヲ爲シ得ルモノト爲スコト

五 外壁ニ非ザル周壁ノ開口ニシテ面積四平方
メートルヲ超ユルモノニハ防護扉ノ類ヲ設クルコ
ト

六 出入口一ナル場合ニ於テハ適當ナル位置ニ非
常脱出口ヲ設クルコト

七 防毒上有效ナル構造ト爲スコト

第十六條 地方長官ハ建物ノ用途其ノ他ノ狀況又ハ
特別ナル事由ニ因リ已ムヲ得ズト認メ又ハ支障ナ
シト認ムルトキハ第九條乃至第十一條ノ耐弾構
造、防護室、準防護室其ノ他防護ノ施設又ハ空地
ニ關スル制限ヲ輕減スルコトヲ得

第十七條 地方長官ハ第九條乃至第十一條ノ防護

室、準防護室其ノ他防護ノ施設又ハ空地ノ配置ニ
關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十八條 地方長官ハ偽裝ノ爲建築物ノ形態、色彩
又ハ偽裝準備裝置ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコト
ヲ得

第十九條 石油「タンク」ニシテ其ノ容積三千キ
リツトルヲ超ユルモノハ之ヲ地下ニ設クベシ但シ
地方長官土地ノ狀況又ハ適當ナル防護施設ノ設置
ニ依リ支障ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十條 一時ノ使用ニ供スル建築物ニシテ地方
長官支障ナシト認ムルモノニ付テハ本令ノ規定ニ
拘ラズ存続期限ヲ附シ其ノ建築ヲ許可スルコトヲ
得

附 則

本令ハ昭和十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

耐火木材規格

(昭和十四年五月四日)
(内務省告示第百七十號)

第一條 耐火木材ハ之ヲ甲種耐火木材及乙種耐火木
材(多量ノ雨雪ヲ受ケザル場所ニ使用スルモノ)

耐火木材ト見做ス

ノ二種トス

第二條 甲種耐火木材トハ左ノ各號ニ該當スル木材
ヲ謂フ

一 厚及幅各五ミリメートルノ棒狀ノ氣乾試料ヲ
採リ其ノ端部ヲ「ブゼンバーナー」ノ青色還
元焰ノ最頂部ニ十秒間挿入シ靜カニ取出シタル
後ニ於テ之ヨリ焰ノ發生セザルコト

二 長一メートル以上ノ材料ヲ七十二時間攝氏二
十度ノ清水中ニ浸漬セシメタル後攝氏百度ニテ
恒量ニ到ル迄乾燥シ其ノ中心部分が前號ニ該當
スルコト

第三條 乙種耐火木材トハ左ノ各號ニ該當スル木材
ヲ謂フ

一 前條第一號ニ該當スルコト
二 長一メートル以上ノ材料ヲ二十四時間攝氏二
十度ノ清水中ニ浸漬セシメタル後攝氏百度ニテ
恒量ニ到ル迄乾燥シ其ノ中心部分が前號ニ該當
スルコト

第四條 乙種耐火木材ニ別ニ防水處置ヲ施シタルモ
ノニシテ第二條第二號ニ該當スルモノハ之ヲ甲種

官廳防空

官廳防空令 (昭和十二年九月二十九日 勅令第五百五十九號)

第一條 本令ニ於テ官廳防空計畫ト稱スルハ國ニ於テ管理スル施設ニ關スル防空ノ實施及之ニ關シ必要ナル設備又ハ資材ノ整備ニ關スル計畫ヲ謂フ

第二條 内閣總理大臣又ハ各省大臣 (陸軍大臣及海軍大臣ヲ除ク以下之ニ同ジ) ハ自ラ官廳防空計畫ヲ設定シ又ハ其ノ監督ニ屬スル行政官廳ニシテ必要アリト認ムルモノヲ指定シ官廳防空計畫ヲ設定セシムベシ

内閣總理大臣又ハ各省大臣ノ設定スル官廳防空計畫ハ内務大臣、陸軍大臣及海軍大臣ニ、其ノ他ノ行政官廳ノ設定スル官廳防空計畫ハ地方長官及防空法施行令第七條ノ陸海軍司令官ニ協議スベシ

第三條 官廳防空計畫ノ設定者ハ其ノ防空計畫ニ基

キ防空ヲ實施シ又ハ防空ノ實施ニ關シ必要ナル設備若ハ資材ノ整備ヲ爲スベシ

第四條 内務大臣ハ防空法施行令第五條ノ規定ニ依リ防空ノ實施ノ開始又ハ終止ヲ命ズルトキハ同時ニ内閣總理大臣及各省大臣ニ其ノ旨通知スベシ

内務大臣前項ノ通知ヲ爲シタルトキ又ハ内閣總理大臣及各省大臣前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ監督ニ屬スル關係アル官廳防空計畫ノ設定者ニ其ノ旨通知スベシ

前二項ノ通知アリタル場合ニ於テ防空ノ實施ノ開始及終止ニ關シテハ防空法施行令第六條ノ規定ニ準用ス

第五條 國ニ於テ管理スル施設 (陸海軍ノ官衙學校ヲ除ク) ニ關スル燈火管制ノ實施及訓練ニ關シテハ防空法第八條及第十條第三項ノ規定並ニ之ニ基キテ發スル命令ノ規定ヲ準用ス但シ之ニ依リ難キ

事項ニ關シテハ内閣總理大臣又ハ各省大臣ハ内務大臣、陸軍大臣及海軍大臣ニ協議シ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第六條 内閣總理大臣及各省大臣ハ其ノ監督ニ屬スル官廳防空計畫ノ設定者ニ對シ防空計畫ノ全部又ハ一部ニ基キ防空ノ訓練ヲ命ズルコトヲ得

附 則

本令ハ防空法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

國有鐵道防空規則 (昭和十三年五月三日 逓省令第二號)

第一條 國有鐵道及之ニ關聯スル國營自動車並ニ其ノ附帶ノ業務ニ關スル防空 (以下鐵道防空ト稱ス) ノ實施及訓練ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 鐵道局長、大臣官房文書課長、建設事務所長、改良事務所長及電氣事務所長 (以下鐵道局長ト稱ス) ハ鐵道防空ノ實施及之ニ關シ必要ナル設備又ハ資材ノ整備ニ關スル鐵道防空計畫ヲ設定スベシ

第三條 停車場其ノ他鐵道地内ノ施設ニシテ鐵道ノ

管理ニ屬セザルモノニ付鐵道局長必要アリト認ムルトキハ當該施設ニ付キ防空計畫ヲ設定スベキ者ニ協議ノ上之ヲ包含スル鐵道防空計畫ヲ設定スルコトヲ得

第四條 鐵道局長ハ鐵道大臣ヨリ鐵道防空ノ實施ノ開始又ハ終止ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ關係箇所ニ通知スベシ

第五條 鐵道防空ヲ實施スル場合ニ於テ航空機ノ來襲ニ關シテハ左ノ各號ノ區分ニ依リ防空警報ヲ發ス

- 一 警戒 警報 航空機ノ來襲ノ虞アル場合
- 二 警戒警報解除 航空機ノ來襲ノ虞ナキニ至リタル場合
- 三 空襲 警報 航空機ノ來襲ノ危險アル場合
- 四 空襲警報解除 航空機ノ來襲ノ危險ナキニ至リタル場合

防空法施行令第七條ノ陸海軍司令官 (以下陸海軍司令官ト稱ス) 又ハ其ノ指定スル者ノ發スル防空警報ヲ以テ前項ノ防空警報トス

第六條 鐵道局長前條ノ防空警報ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ關係箇所ニ傳達スベシ

第七條 鐵道局長ハ豫メ防空警報ノ傳達系統ヲ定メ置クベシ

第八條 鐵道防空ノ實施上必要ナル通信ハ別ニ定ムル所ニ依リ他ノ通信ニ優先シテ之ヲ取扱フベシ

第九條 鐵道防空ヲ實施スル場合ニ於ケル燈火管制ハ第十二條ニ規定スル場合ヲ除クノ外警戒管制及空襲管制トス

警戒管制ハ警戒警報又ハ空襲警報解除ノ發セラレタル時ヨリ警戒警報解除又ハ空襲警報ノ發セラレル迄ノ間之ヲ行フ

空襲管制ハ空襲警報ノ發セラレタル時ヨリ空襲警報解除ノ發セラレタル迄ノ間之ヲ行フ

第十條 警戒管制又ハ空襲管制中ニ於ケル光ノ秘匿ハ日没ヨリ日出迄ノ間別表ニ掲グル程度ニ於テ之ヲ爲スベシ

第十一條 前條ノ別表中警戒管制ノ甲ノ程度ヲ適用スベキ區域ハ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ)ノ通知ニ依リ鐵道局長之ヲ定ム

前項ノ區域以外ノモノハ警戒管制ノ乙ノ程度ヲ適用スベキ區域トス
前二項ノ規定ニ依リ難キ海上ノ區域ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

第十二條 第十條ノ別表中一般屋外燈(標識燈類、街路燈類及屋外作業燈類ヲ除ク)ニシテ地方長官ノ通知ニ依リ鐵道局長ノ定ムルモノハ其ノ定ムル期間日没ヨリ日出迄ノ間警戒管制ノ程度ニ依リ其ノ光ヲ秘匿スベシ

第十三條 左ノ各號ニ掲グル光ニ付テハ本令ノ制限ヲ適用セズ
一 建築物、車輛、船舶、隧道、地下道等ノ内部ノ光ニシテ外部ニ漏レザルモノ
二 特別ノ事情ニ依リ必要アリト認メ鐵道大臣又ハ鐵道局長ノ指定スル光

前項第二號ノ規定ニ依リ光ヲ指定セントスルトキハ鐵道大臣ハ內務大臣、陸軍大臣及海軍大臣ニ、鐵道局長ハ地方長官ニ協議スベシ

第十四條 左ニ掲グル場合ニ於テハ本令ノ規定ニ拘ラズ必要最小限度ノ光ヲ使用スルコトヲ得

一 消防、人命救助等ノ爲緊急ノ必要アルトキ

二 重大ナル事故發生シ又ハ發生ノ虞アルトキ

三 其ノ他緊急ノ必要アルトキ

前項第二號ノ事由ニ因リ光ヲ使用シタルトキハ遲滯ナク陸海軍司令官及所轄警務署長ニ通報スベシ但シ空襲管制中ニ在リテハ豫メ協定シタル事項ヲ除クノ外陸海軍司令官ニ協議スベシ

第一項第三號ノ事由ニ因リ光ヲ使用スルトキハ所轄警務署長ニ協議スベシ

第十五條 第十條ノ別表中ニ於ケル協議ハ鐵道局長ニ於テ地方長官ト之ヲ爲スベシ

第十六條 鐵道防空ヲ實施スル場合ニ於ケル消防、防毒、避難及救護其ノ他鐵道防空上必要ナル事項ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム

第十七條 鐵道局長ハ其ノ鐵道防空計畫ノ全部又ハ一部ニ基キ鐵道防空ノ訓練ヲ爲スコトヲ得

第十八條 鐵道防空ノ訓練ヲ爲ス場合ニ於ケル訓練防空警報ハ鐵道局長之ヲ發ス

前項ノ訓練防空警報ハ第五條ノ區分ニ準ジ訓練警戒警報、訓練警戒警報解除、訓練空襲警報及訓練

空襲警報解除トス

內務大臣ノ指定スル者又ハ陸海軍司令官若ハ其ノ指定スル者ノ發スル訓練防空警報ヲ以テ第一項ノ訓練防空警報ト爲スコトヲ妨グズ

第十九條 鐵道防空ノ訓練ニ關シテハ第六條、第八條、第九條、第十條、第十三條及第十四條ノ規定ヲ準用ス

第二十條 燈火管制ノ訓練ヲ爲ス場合ニ於ケル光ノ秘匿ガ第十條ノ別表ニ依リ難キモノニ關シテハ別ニ定ムル程度ニ依ルコトヲ得

附 則
本令ハ昭和十三年五月十日ヨリ之ヲ施行ス

其ノ一(一般屋外燈)

電橋街 車 柱梁路 街 燈燈燈 米街 路面 一〇 五〇 燭平 光方	2 標 識 燈 類	1 廣 告 燈 類	分	
			種 類	細 別
電橋街 車 柱梁路 街 燈燈燈 米街 路面 一〇 五〇 燭平 光方	火其標防各消警救避非火 ノ識空種火察護難常災 他燈上機器官所所報報 之ニ必器控官署標標知知 類ナル動標標標標標標機機 スル各示識識識識識識	火其裝看廣 ノ他之飾板告 スル燈燈燈	警 戒 管	制
消 燈	以透 下視 =距 減離 光五 〇〇 米	消 燈	管 制	程
消 燈	且米透 遮以視 光下距 =離 減五 光〇 シ〇	消 燈	空 襲 管 制	度
	光〇透 シ米視 且以距 遮下離 光=五 減〇		遮 光 條 件	
	ルノノリス以地 コ光反モル上表 トヲ射光何ノ上 認光源レ高三 メ等又ノサ〇 得一ハ點ヲ〇 ザ切共ヨ有米		記 事	

5 燈 屋 類 外 作 業	4 門 軒 燈 類	3 街 路 燈 類	
火其ナ倉工荷 ノル庫場物 他屋等、積卸 之外ノ電氣場 ニ燈作業、水屋 スル火業、道外 燈ニ必道、燈	火其軒門 ノ他之ニ類 スル燈燈	放其地 光ノ下 スル他道 燈ニシ照 火テ地明 ニ表燈	火其驛電 ノ前廣柱 他之ニ類場街 スル照燈 燈燈燈
光以內米作 下、=業面 =一付一〇〇 減燈三燭平 光一燭光方 且六光 遮光	消 ル内類ス街但 コニニル路シ ト於關モ燈必 ヲテスノ類要 得殘ルハニ 置制該代應 ス限燈用ジ	シ八燭 且遮光 以下 =減 光	遮光以內、 下ニ一燈 光一六燭 且
消 燈 又 ハ 隱 蔽	消 燈	消 燈	消 燈
		ス度且源引遮光 以水ノキ光源 上平下タ具ノ ノ面方ルノ下 角トニ線下端 ヲ二向ガ端ヨ ナ〇ヒ光ニリ	

14		番号	分	種	類	別	管	制	程	度	事
合信 圖燈 類號		種									
其合ス入徐臨入誘其遠掩閉出 ノ圖ル換行時換導ノ方護塞發内 他ニ燈用ノ豫信信信信信信信 之ニ用フ信告號號號號號號號 類スル標機機機機機機機機機 燈諸ニ類似燈燈燈燈燈燈燈燈 火燈	場内	信機	信機	信機	信機	信機	信機	信機	信機	信機	信機
	平常ノ儘	乙	管	制	程	度	事				
	且米確 遮以認 光下距 ニ離 減三 光〇 シ〇	シ米ル米確 (モ)認 遮以ノ別 光下ハニ ニハ指六 減〇定〇 光〇セ〇	管	制	程	度	事				
ハ光〇確 消シ米認 燈且以距 遮下離 光ニ三 又減〇	遮下八定〇確 光ニ〇セ米認 又減〇ル(別 ハ光米モニ離 消シ)ノニ六 燈且以ハ指〇	空	管	制	程	度	事				
		遮	光	條	件	事					

其ノ四 (國有鐵道關係燈)

13	12
携帶燈類	普 車 輻 燈 類 通
火其個 ノ人 他ニ携 之類 スル 燈	火其荷手自 ノ他牛轉 ニ馬車 類スル 燈
平常ノ儘	平常ノ儘
ザル光ニ置ニ懐光一 ルト以限ヲ準中シ燭 コキ下リ有ズ電且光 ヲ遮減・ル點又光下 得光光三モ減ハ但ニ セス燭ノ裝之シ減	
消	消
認何ノ上其燈 メレ高三ノ器 得ノサ〇光水 ザ點ヲ〇源平 ルヨ有米ヲノ コリス以地ト トモル上表キ	

11		10	
類 自 動 車 燈		標 交 識 燈 類 通	
案	計方 向 指 示 器	案側尾 内	案側前 内照
燈	燈	燈	燈
平常ノ儘	平常ノ儘	ニヲニ光〇各合 減三於軸米燈計 光ルケニノハ二 ルル垂地燈燈 ク最直點器以 ス大ナニヨ下 以照ル於リト 下度面テ一シ	且燭筒以透 遮光所下視 光以一ニ距 下燈減離 ニト光五 減シ又〇 光テハ〇 シ五一米
消	平常ノ儘	下距各 ニ離一燈 減三〇ト 光〇シ 米透 以視	且米透 遮以視 光下距 ニ離 減五 光〇 シ〇
		遮以・ル直ニリシ合 光下七最ナ於一各計 ニ一ル大テ〇燈二 減ク度ニ軸ノ燈以 光スヲ於ニ地器下 且〇ケ垂點ヨト	トテ以距燈但 ヲ殘下離ニシ障 得置ニ三限障燈 ス減〇リ碍 ル光〇透注 コシ米視意
		ニ五發キ自 向度ス燈動 ハ以ル器車 ザ上射ヨ水 ルノ光リ平 コ上ガ直ノ ト空一接ト	ト認等ハヨス上上ノザ的ルヨノ メ一其リルノ三場ル上射リ場 得切ノモ何高〇合コ空光直合 ザノ反光レサ〇ハトニガ接ハ ル光射源ノヲ米地 向可發光 コヲ光又點有以表 ハ及ス源

17 車輛燈類		
火其知計運行 ノ他ラ器號表 ニセ表示 スル燈燈燈	車 内 照 明 燈	
平常ノ儘	ニ一ニ室 減燈付ノ 光一五廣 ○燭サ 燭光三 光以平 以下内方 下'米	シ○燭三隱 且燭光平蔽 遮光以方又 光以内米ハ 下'ニ室 ニ付ノ 減燈一廣 光五○サ
米透 以視 下距 ニ離 減三 光○ ○	燭光米室 光以ニノ 以下内廣 下'○サ ニ一・三 減燈三平 光一燭方	ニ一○サ隱 減燈、五三蔽 光二燭平又 シ燭光方ハ 且光以米室 遮光以下'ノ 光下'付廣
光○透 米視 以距 下離 ニ三 減○	度警鎖ニ管ル閉子シハ下○平室 ニ戒セ'制場鎖戸ラ窓ニ・方ノ 爲管ル'制合ノ又'一減一廣サ ス制場戸乙ハ上ハカ光燭ニハ コ甲合ヲ程警'網(鎖)光 ト程ハ閉度戒セ戸硝テ又'以付三	消 燈 又 ハ 隱 蔽
		ト部ス光 ニル源 向射ヨ ハ光リ ザガ直 ル開接 コ口發
	ザリ母 ル漏屋 コ光窓 トセヨ	

16 標車 識燈 類輛		15 標地 識燈 類上		
火其自 ノ動開 他閉式 之ニ屏 類ス表示 スル燈	後 部 標 識 燈	火其前 ノ他部 之ニ標 類識 スル燈	似其白自 燈ノ色動 他識ノ閉 ノ別塞 各燈種信 標標號機 識類ノ	火其徐燈 ノ行許容 之ニ類標 スル燈
平常ノ儘	平常ノ儘	且燭下 遮光以減 光以下光 ニ又五燭 減ハ燭光 光二○以	平常ノ儘	
且米確 遮以認 光下距 ニ離 減三 光○ シ○	且米確 遮以認 光下距 ニ離 減六 光○ シ○	且米確 遮以認 光下距 ニ離 減一 光○ シ○	且米確 遮以認 光下距 ニ離 減三 光○ シ○	且米確 遮以認 光下距 ニ離 減四 光○ シ○
光○確 シ米認 且以距 遮下離 光ニ三 減○	光○確 シ米認 且以距 遮下離 光ニ六 減○	ハ光○確 消シ米認 燈且以距 遮減離 光下三 又ニ○	ハ光○確 消シ米認 燈且以距 遮減離 光下三 又ニ○	ハ光○確 消シ米認 燈且以距 遮下離 光ニ四 又減○
		フ合ハ警ザ切其ヨ有米ハ空 ルノ空戒ルノノリス以地襲 コ遮襲管コ光反モル上表管 ト光管制トヲ射光何ノ上制 具制ノ認光源レ高三ノ ヲノ場メ等又ノサ○場 用場合得一ハ點ヲ○合		
燈一「 ヲレト 合前ロ ム照リ		含背信 ム面號 光機 ヲノ		

21 燈特殊 屋 類内	20 點檢燈類	19 省管 車燈類 自動	18 特殊車 火輪 光輻
火其車跨待詰改出業 ノ線合所集札務 他庫橋室札口用 之屋屋屋屋屋 =屋屋屋屋屋 類内内内内内 スル内内内内内 燈燈燈燈燈燈	巡 檢 燈	火其車點 ノ他之 =號檢 類スル 燈燈燈	室 内 燈
ニ一ニ室 減燈付ノ廣 光五〇燭サ シ〇燭サ 且燭光三 遮光以平 光以內方 下米	以ノシ減一ニ室下付光漏隠 上距光光燈付ノ三東光蔽又ハ ト離源シ五燭燭サ光ル一平透協 スヲト且燭光光以以平方過議 コ・口光以以平方米スノ ト八部下内方米以	平常ノ儘	平常ノ儘 但シ遮光
シ燭光米室 且光以ノ廣 遮以內付サ 光下〇サ ニ一・三 減燈五平 光二燭方	隱 蔽	減ル面距消減減ル面距消 光クノ離燈光シクノ離燈 シス照ニ又ハシス照ニ又ハ 且度於ハ二遮光下ヲ被照 遮下ヲ被照	遮以一 光下燈 又ニト ハ減シ 消光二 燭且光
消燈又ハ隱蔽	減ク度テ米消 光ヲ被ノ燈 シ〇照距又ハ 且以五面離又 遮下ノ照於一 光ニル	米視各 以距一 下離燈 ニ三ト 減〇シ 光〇透	努時發 ム間光 ルノ量 コト減 ト少發 ニ光
ト部ス光 ニル源 向射ヨ ハ光リ ザガ直 ル開接 コ口發	ザ水部ス光 ル平ノル源 コ以外射ヨ ト上側光リ ニニガ直 向於開接 ハテ口發	認何ノ上其燈 メレ高三ノ器 得ノサ〇光水 ザ點ヲ〇源平 ルヨ有米ヲノ コリス以地ト トモル上表キ	ト部ス光 ニル源 向射ヨ ハ光リ ザガ直 ル開接 コ口發

19 省管 車燈類 自動	18 特殊車 火輪 光輻					
方向 幕表示 燈	計方向 指示器 燈	停車 尾 輛 番 號 表 示 燈	案側前 内照 燈燈燈	鋼索 電氣 機車 等ノ 火花 類	蒸氣 機車 焚口 火焰	蒸氣 機車 煙突 火粉
平常ノ儘	平常ノ儘	平常ノ儘	ニヲニ光〇各合 減三於軸米燈計 光ルケニノハ二 ルケル垂地燈燈 ク最直點器以下 ス大ナニヨト 以照ル於リト 下度面テーシ	極力 防止 ニ努 ムル	平常ノ儘 但シノ儘 少ニ努 ムル コト減	平常ノ儘 但シノ儘 少ニ努 ムル コト減
米透視 以下ニ 減光〇	平常ノ儘	下距各 ニ離一 減三燈 光〇ト 〇シ透 以視	ニ七最ナニリシ合 減ル大照面テ〇燈二 光ク度ニ光米ハ燈以 シスヲ於軸ノ燈下 且〇ケ垂地器ヨト 遮下・ル直點	極力 防止 ニ努 ムル	且間發 遮ノ光量 光減少及 少ニ發 ニ努 メ時	ル間發 コノ光 ト減量 ト少及 ニ發 ニ努 ム時
消燈	消燈	米視各 以距一 下離燈 ニ三ト 減〇シ 光〇透	光ス〇最ル光ノ器ト合 シ・大面軸地ヨシ計二 且以五照ニニ點リ各燈 遮下「度ケ直於〇ハ以 光ニル度ケ直於〇ハ以 減クヲルナテ米燈下	極力 防止 ニ努 ムル	隱 蔽	努時發 ム間光 ルノ量 コト減 ト少發 ニ光
			フ合ハ警メヨ有米ハ空 ルノ空戒得リス以地襲 ニ遮襲管ザモル上表管 ト管制ル光何ノ上制 具制ノコ源レ高三ノ ヲノ場トヲノサ〇場 用場合、認點ヲ〇合		フ分開上 コノ放方 ト二部全 以上部及 ヲノ側 蔽三方	
合被牽車ヲ						

22
燈特殊屋外

誘導燈	屋外各種計照表示燈	火其給洗各荷乘工 ノ炭游種物降事 他之水臺業卸場屋屋 =類屋屋屋屋屋 スル外外外外外 燈燈燈燈燈燈	火其跨車詰 ノ線庫所 他之橋屋屋 =類屋屋 スル外外 燈燈燈	改出 集札口屋外 札口屋外 燈燈
光五消 ○燈又 ○米ハ 以透視 下距離 =減離	光以內米被 下、=照 =一付面 減燈三一 光一燭○○ シ六光平 且燭光方 遮光以	遮光以米被 光以內=照 下、付面 =一一一 減燈・○ 光一五○ シ六燭平 且燭光方	遮以改窓 光下燈集口 =ト札一 減シ口又 光一ニハ シ燭對ハ 且光シ	減ト集窓 光シ札口 シ五口一 且燭=箇 遮光對又 光以シハ 下一一 =燈改
消燈 ○透視 米以下 距離=三 減○	遮以○ルハヲ消消 光下・最被講燈燈 =三、照ジシ又ハ 減ル大面タル迅 光シ度於モノ處速 且ヲケノ置=	シス○ルハヲ消消 且、最被講燈燈 遮以、照ジシ又ハ 光下、大面タル迅 =一、照ニルル處速 減ル度於モノ置 光クヲケノ置=	遮以改窓 光下燈集口 =ト札一 減シ口又 光一ニハ シ燭對ハ 且光シ	ル遮以○ル上遮以○ルハヲ消消 コ光下・最被光下・最被講燈燈 トシニ三、照但=三、照大照ニル迅 ヲテ減ル照=協光ル照ニル迅 得殘光ク度於議シス度於モ處速 置シク度於議シス度於モ處速 且スヲケノ且スヲケノ置=
光○透視 米以下 距離=三 減○				ス度且 コ以水 ト上平 ノ面 角ト二 ヲナ○

燈入換作業用構内照明	火其列車 ノ車扱構内照明燈 他之ニ類スル燈	火其屋屋 ノ内内 他之計種 =類照表示 スル燈燈
		平常ノ儘
	消燈 ○透視 米以下 距離=三 減○	米透視 以下距離 =減三 光○
源引遮光 ノキ光源 下タ具ノ下 方ルノ下端 =線下端ヨリ 向ガ端ヨリ ヒ光ニリ		
限組操 ル成車 場驛場 =及		

33	32	31	號番	分
制第二種禁 類 炭火、マツチ等ヨリ 寫眞撮影用閃光	制第一種禁 類 ニヨリ發スル光 焚火、篝火、狼火等	火 焰 類 電鑄爐、熱爐、熔接火、鍛冶火、汽鍋、煙突、其 他ノ類スル火	種類 細別	
平常ノ儘	消光	隱蔽、消光又ハ漏光 一面ヲ透過スルハ 東ラ平方メートル以下 ニ減光	警戒管制 乙	
平常ノ儘 但シ炭火ハ透 視距離ニ三〇 メートル以下ニ 減光	消光	隱蔽、消光又ハ 漏光ノ透視距離 ニ三〇メートル 以下ニ減光	管制 甲	
隱蔽又ハ消光	消光	隱蔽又ハ消光	空襲管制	
			遮光條件	
	警報ニ使 用スル除クモ		記事	

其ノ七(火焰其ノ他ノ光)

30	號番	分
類航空機燈 左室尾機舵着照信計其火 ノ他ノ類スル燈 (右)内翼 首泊陸明號器 燈燈燈燈燈燈燈燈	種類 細別	
別ニ指示スル所ニ依ル	警戒管制 乙	管制 甲
	空襲管制	遮光條件
	記事	

其ノ六(航空關係燈)

備考 特別ノ事情ニ因リ必要アリト認め別ニ告示スル場合ニ於テハ海上衝突豫防法ニ規定スル船燈ニ關シ
テハ警戒管制ノ場合及空襲管制ノ場合ヲ通ジ警戒管制ノ乙ノ程度ニ依ル

射光等一切ノ光
ヲ認め得ザルコト

防空委員會

防空委員會令 (昭和十二年十月二十二日)

(勅令第五百九十八號)

- 第一條 防空委員會ハ中央防空委員會、道府縣防空委員會及市町村防空委員會トス
- 中央防空委員會及道府縣防空委員會ハ内務大臣、市町村防空委員會ハ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ)ノ監督ニ屬ス
- 道府縣防空委員會及市町村防空委員會ハ防空法第二條及防空法施行令第一條ノ規定ニ依リ其ノ權限ニ屬セシメタル事項ヲ調査審議ス
- 委員會ハ前項ノ外關係行政廳ノ諮問ニ應ジ防空ニ關スル重要事項ヲ調査審議ス
- 委員會ハ防空ニ關スル重要事項ニ付關係行政廳ニ建議スルコトヲ得
- 第二條 中央防空委員會ハ内務省ニ之ヲ置ク
- 道府縣防空委員會ハ道府縣毎ニ、市町村防空委員會ハ防空法第二條ノ規定ニ依リ地方長官ノ指定スル市町村長ノ統轄スル市町村毎ニ之ヲ置キ道府縣又ハ市町村ノ名ヲ冠ス
- 第三條 委員會ハ會長及委員ヲ以テ之ヲ組織ス
- 第四條 中央防空委員會ノ會長ハ内務大臣、道府縣防空委員會ノ會長ハ地方長官、市町村防空委員會ノ會長ハ市町村長ヲ以テ之ニ充ツ
- 第五條 中央防空委員會ノ委員ハ四十人以内トス
- 道府縣防空委員會ノ委員ノ定數ハ内務大臣、市町村防空委員會ノ委員ノ定數ハ地方長官之ヲ定ム
- 前二項ノ定員ノ外必要アルトキハ臨時委員ヲ置クコトヲ得
- 第六條 中央防空委員會ノ委員及臨時委員ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ズ
- 道府縣防空委員會ノ委員及臨時委員ハ内務大臣之

ヲ命ズ

市町村防空委員會ノ委員及臨時委員ハ地方長官之ヲ命ズ

第七條 委員ノ任期ハ四年トス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ任期中之ヲ解任スルコトヲ妨ゲズ

第八條 會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ中央防空委員會ニ在リテハ内務大臣ノ指名スル委員、道府縣防空委員會ニ在リテハ地方長官ノ指名スル委員、市町村防空委員會ニ在リテハ市町村長ニ代リ其ノ職務ヲ行フ者會長ノ職務ヲ代理ス

第九條 委員會ニ幹事ヲ置ク中央防空委員會ノ幹事

ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ジ道府縣防空委員會ノ幹事ハ内務大臣、市町村防空委員會ノ幹事ハ地方長官之ヲ命ズ

第十條 委員會ニ書記ヲ置ク中央防空委員會ノ書記

ハ内務大臣、道府縣防空委員會ノ書記ハ地方長官、市町村防空委員會ノ書記ハ市町村長之ヲ命ズ

書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十一條 中央防空委員會ニ關スル費用ハ國庫、道府縣防空委員會ニ關スル費用ハ道府縣、市町村防空委員會ニ關スル費用ハ市町村ノ負擔トス

第十二條 町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同處理スルモノハ本令ノ適用ニ付テハ之ヲ一町村、其ノ組合管理者ハ之ヲ町村長ト看做ス

町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ本令中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準ズベキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準ズベキ者ニ之ヲ適用ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

警 防 團

警 防 團 令

(昭和十四年二月二十四日)
勅令第二〇〇號

- 第一條 警防團ハ防空、水火消防其ノ他ノ警防ニ從事ス
- 第二條 地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ)ハ職權又ハ市町村長ノ申請ニヨリ警防團ヲ設置スルモノトス
- 第三條 前條ノ警防團ニ非ザレバ警防團ノ名稱ヲ用フルコトヲ得ズ
- 第四條 警防團ノ區域ハ市町村ノ區域ニ依ル但シ土地ノ狀況ニ依リ市町村内ニ於テ適宜區域ヲ定ムルコトヲ得
- 第五條 警防團ハ團長、副團長、分團長、部長、班長及警防員ヲ以テ之ヲ組織ス但シ分團長、部長又ハ班長ハ之ヲ置カザルコトヲ得
- 第六條 團長及副團長ハ地方長官、其ノ他ノ團員ハ警察署長之ヲ命免ス
- 第七條 團長ハ團員ヲ統率シ團務ヲ掌理ス
副團長ハ團長ヲ輔佐シ團長事故アルトキハ之ヲ代理ス
分團長、部長及班長ハ上長ノ命ヲ承ケ團員ヲ指揮シテ業務ニ從事ス
- 第八條 警防團ハ地方長官之ヲ監督ス、警察署長ハ地方長官ノ命ヲ承ケ警防團ヲ指揮監督ス
- 第九條 警防團ハ警察部長(警視總監ニ在リテハ警務部長但シ水火消防ニ關シテハ消防部長以下之ニ同ジ)又ハ警察署長ノ指揮ニ從ヒ行動スベシ但シ緊急已ムヲ得ザル場合ニ於テハ市町村長又ハ團長ノ指揮ニ從ヒ行動スルヲ妨ゲズ
市町村長ハ其ノ擔當スル防空業務ニ付警察署長ニ協議シ警防團ニ指示スルコトヲ得

- 第十條 警防團ハ警察部長又ハ警察署長ノ命ニ依リ其ノ區域外ノ警防ニ應援スベシ
- 第十一條 地方長官及警察署長ハ警防團ノ訓練ヲ行フベシ
- 第十二條 警視廳官制及特設消防署規程ニ依リ設置スル消防署ノ管轄區域ニ於テハ本令中水火消防ニ關スル警察署長ノ職務ハ消防署長之ヲ行フ
- 第十三條 警防團員ノ服務紀律及懲戒ニ關スル規程ハ地方長官之ヲ定ム
- 第十四條 警防團員ノ定員及給與並ニ警防團ニ必要ナル設備資材ハ市町村會ニ諮問シ地方長官之ヲ定ム
- 第十五條 前項ノ設備資材ハ市町村ニ於テ之ヲ備フベシ
- 第十六條 警防團ニ關スル費用ハ市町村ノ負擔トス
- 第十七條 市町村長ハ地方長官又ハ警察署長ノ諮問ニ應ジ警防團ニ關シ意見ヲ答申スベシ
- 第十八條 町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同處理スルモノハ本令ノ適用ニ付テハ之ヲ一町村、其ノ組合管理者ハ之ヲ町村長ト看做ス
- 第十九條 第四條乃至第十一條及第十五條ノ規定ハ前條ノ團體ニ之ヲ準用ス但シ地方長官又ハ警察部長トアルハ市長、警察署長トアルハ市長ノ定ムル者トス
- 第二十條 地方長官警防業務ノ統制上必要アリト認ムルトキハ第十八條ノ團體ヲ指揮スルコトヲ得警察署長職務執行上必要アリト認ムルトキハ第十八條ノ團體ニ對シ指示スルコトヲ得
- 第二十一條 第十八條ノ團體ノ名稱及組織並ニ團員ノ定員、服務方法、服務紀律、懲戒、服裝及給與ニ關スル事項ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ市長之ヲ定ム

本令ハ昭和十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ警防

圖及第十八條ノ團體ノ設置ニ必要ナル手續ニ關スル規定ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
消防組規則ハ之ヲ廢止ス

警防團操典

(昭和十四年六月六日
內務省訓令第六號)

第一章 總 則

第一條 教練ノ目的ハ警防團員(以下單ニ團員ト稱ス)ヲ訓練シテ諸制式ニ習熟セシムルト共ニ鞏固ナル警防精神ヲ涵養シ體力氣力ヲ鍛ヘ同時ニ紀律嚴正ナル警防力ヲ練成シ其ノ團體行動ヲ敏活適正ナラシメ以テ警防諸般ノ要求ニ適應セシムルニ在リ

第二條 警察署長、警防團員ノ教養ヲ掌ル部署ノ長及警防團長ハ操典ヲ遵守シテ能ク團員ヲ教育シ教練ノ目的ヲ達スベキ責任ヲ有ス

第三條 教練ハ順序ヲ逐ヒテ之ヲ行ヒ其ノ經過ヲ急遽ナラシムベカラズ之ガ實施ニ方リテハ常ニ熱心懇切事ニ從ヒ且些末ノ事項ト雖モ苟モ紀律ニ關スルモノハ決シテ之ヲ等閑ニ附スベカラズ

第四條 教練ヲ行フニ際シテハ團員ニ其ノ目的及精神ヲ説明シ其ノ心得ベキ要點ヲ會得セシメ之ヲ實施ノ上ニ現サシムルコト緊要ナリ

第五條 教練ノ要旨ハ巧妙ニ在ラズシテ熟練ニ在リ熟練ハ教育ノ懇切ナルト復習ヲ厭ハザルトニ依リテ得ラルルモノナリ故ニ教練ハ絶エズ之ヲ行フヲ必要トス

第六條 指揮者其ノ他ノ幹部ハ常ニ指揮能力ノ練成ニ努メ特ニ其ノ態度及服裝ヲ正シクシ活潑嚴正ナル動作ノ模範ヲ示スコトニ努ムベシ

第七條 指揮者ノ意圖ハ號令又ハ命令ニ依リ告達ス號令及命令ハ確固タル決意嚴正ナル態度ヲ以テ下スベシ

號令ハ明快ナル音調ヲ以テ發唱シ命令ハ簡明確切ナルヲ要ス
號令ヲ豫令及動令ニ分ツベキ場合ニ於テハ豫令ハ明瞭ニ長ク動令ハ活潑ニ短ク發唱シ其ノ間ニ適當ナル時間ヲ存スベシ

第八條 警察官吏警防部隊(以下單ニ部隊ト稱ス)ヲ指揮スル場合ト雖モ拔刀セザルモノトス

第九條 指揮者及小隊長以上ノ幹部ハ部下ノ注意ヲ喚起スル爲特ニ必要アル場合ニ於テハ左ノ信號又ハ他ノ適當ナル方法ニ依ルコトヲ得

前進 右手ヲ高く擧ゲ次之ヲ其ノ進ムベキ方向ニ伸バス
停止 右手ヲ高く擧ゲ直ニ下ス
駈歩 前進ノ信號ヲ迅速ニ數回連續ス

第二章 各個教練

要 則

第十條 各個教練ノ目的ハ團員ヲ訓練シテ諸制式ニ習熟セシムルト同時ニ警防精神ヲ鍛ヘ紀律ヲ練リ部隊教練ノ確乎タル基礎ヲ作ルニ在リ

第十一條 各個教練ニ於テ生ジタル弊習ハ常ニ固著シテ之ヲ除去スルコト難ク各個教練ノ不完全ハ部隊教練ニ於テ之ヲ補フコト亦難シ故ニ各個教練ハ綿密嚴格ニ之ヲ行ヒ必要アル場合ニ於テハ其ノ動作ヲ分チテ丁寧懇切ニ説明シ反覆練習スルコトヲ要ス

不動ノ姿勢

第十二條 不動ノ姿勢ハ教練ニ於ケル基本ノ姿勢ナ

リ警防精神内ニ充溢シ外嚴肅端正ナラザルベカラズ

第十三條 不動ノ姿勢ヲ取ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
氣ヲ著ケ

兩踵ヲ一線上ニ揃ヘテ之ヲ著ケ兩足ハ約六十度ニ開キテ齊シク外ニ向ケ兩膝ハ凝ラズシテ之ヲ伸バシ上體ハ正シク腰ノ上ニ落チ著ケ脊ヲ伸バシ且少シク前ニ傾ケ兩肩ヲ稍々後ニ引キ一様ニ之ヲ下ゲ兩臂ハ自然ニ垂レ兩掌ヲ腹ニ接シ指ハ輕ク伸バシテ之ヲ竝べ中指ヲ概ネ袴ノ縫目ニ當テ頸及頭ヲ眞直ニ保チ口ヲ閉ヂ兩眼ハ正シク之ヲ開キ前方ヲ直視ス

第十四條 休憩ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
休メ

先ヅ左足ヲ出シ爾後片足ヲ舊ノ所ニ置キ其ノ場ニ立チテ休憩ス休憩中ト雖モ濫ニ私語スルコトヲ得ズ

右(左)向、半右(左)向及後向

第十五條 右(左)向又ハ半右(左)向ヲ爲サシム

ルニハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)向ケ——右(左)

又ハ

半右(左)向ケ——右(左)

左足尖ト右足トヲ少シク上ゲ左踵ニテ九十度又ハ四十五度右(左)ニ向キ右踵ヲ左踵ニ著ケテ同線
上ニ揃フ

第十六條 後向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

廻ハレ——右

右足ヲ其ノ方向ニ引キ足尖ヲ僅ニ左踵ヨリ離シ兩足尖ヲ少シク上ゲ兩踵ニテ後ニ廻ハリ次ニ右踵ヲ左踵ニ引キ著ク

行進

第十七條 行進ハ勇往邁進ノ氣概アルヲ要ス

第十八條 速歩ノ一步ノ長サハ踵ヨリ踵マデ七十五

釐ヲ、其ノ速度ハ一分時間ニ百十四歩ヲ基準トス
速歩行進ヲ起サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

前——進メ

勅令ニテ左股ヲ少シク上ゲ脚ヲ前ニ出シ右足ヨリ七十五釐ノ所ニ足ヲ伸バシツツ踏ミ著ケテ同時ニ概

ネ脚ヲ伸バシ全ク體ノ重ミヲ之ニ移ス左足ヲ踏ミ著ケルト同時ニ右足ヲ地ヨリ離シ左脚ニ就キテ示セシ如ク右脚ヲ前ニ出シテ踏ミ著ケテ行進ヲ續ケ頭ヲ眞直ニ保チ兩臂ヲ自然ニ振ル

第十九條 止ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

分隊——止レ

後ノ足ヲ一步前ニ踏ミ出シ次ノ足ヲ引キ著ケテ止ル

第二十條 行進間右(左)向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)向ケ前へ——進メ

左(右)足ヲ約半歩前ニ足尖ヲ内ニシテ踏ミ著ケ體ヲ右(左)方ニ向ケ右(左)足ヨリ新方向ニ行進ス

第二十一條 行進間斜行進ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

斜ニ右(左)へ——進メ

左(右)足ヲ約半歩前ニ足尖ヲ内ニシテ踏ミ著ケ體ヲ半右(左)方ニ向ケ右(左)足ヨリ新方向ニ行進ス

直行進ニ復セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

斜ニ左(右)へ——進メ

斜行進ヲ爲スト同法ヲ以テ直行進ニ復ス

第二十二條 行進間後向ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

廻ハレ右前へ——進メ

左足ヲ約半歩前ニ足尖ヲ内ニシテ踏ミ出シ兩足尖ニテ百八十度右方ニ旋回シ續キテ行進ス

第二十三條 速歩行進間行進ヲ容易ナラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

步調止メ

正規ノ歩法ヲ守ルコトナク速歩ノ歩長ト速度トニ依リ姿勢ヲ崩スコトナク行進ス

再ビ正規ノ歩法ヲ取ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

第二十四條 足踏ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

足踏ミ——進メ

後ノ足ヲ一步前ニ踏ミ出シ其ノ場ニ於テ進ムコトナク少シク膝ヲ屈メ交々兩足ヲ踏ミ著ケテ調子ヲ取ル

更ニ行進セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

前——進メ

左足ヨリ踏ミ出シ續キテ行進ス

第二十五條 駈歩ハ一步ノ長サヲ踵ヨリ踵マデ約八十五釐トシ其ノ速度ハ一分時間ニ約七十歩トス

駈歩行進ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

駈歩——進メ

豫令ニテ兩手ヲ握リ腰ノ高サニ上ゲ肘ヲ後ニス勅令ニテ左脚ヲ前ニ出ス其ノ法兩脚ヲ少シク屈メテ僅ニ左股ヲ上ゲ右足ヨリ約八十五釐ノ所ニ踏ミ著ケ次ニ左脚ト同法ヲ以テ右脚ヲ前ニ出シ常ニ體ノ重ミヲ踏ミ著ケタル足ニ移シ兩肘ヲ自然ニ振り續キテ行進ス

「分隊——止レ」ノ號令ニテ二歩前進シタル後後ノ足ヲ一步前ニ踏ミ出シ次ノ足ヲ引キ著ケテ止リ兩手ヲ下ス

駈歩行進ヨリ速歩行進ニ移ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

速歩——進メ

二歩前進シタル後速歩ニ移リ兩手ヲ下シ續キテ行

進ス

第二十六條 駈歩行進間ノ諸動作ハ速歩行進間ニ於ケル要領ニ準ジテ行フ但シ速歩ニ於ケルヨリモニ歩多ク前進シタル後動作スルモノトス

第三章 部隊教練

要則

第二十七條 部隊教練ハ部隊ヲシテ如何ナル場合ニ於テモ部隊長ノ意圖ニ從ヒ衆心一致能ク警防精神ヲ發揚シ團結ヲ保持シテ部隊行動ヲ爲シ得ル如ク練成スルヲ以テ主眼トス

第二十八條 部隊教練ハ之ヲ分チテ小隊教練、中隊教練及大隊教練トス

第二十九條 大(中)隊教練ニ在リテハ中(小)隊長ハ其ノ中(小)隊ノ爲スベキ動作ヲ小聲ニテ豫告スルモ妨ナシ又整頓、隊形變換等ニ在リテハ中(小)隊ノ動作ヲ監視スルモノトス

第三十條 部隊教練ヲ準備スル爲本章ノ規定ニ從ヒ分隊ヲ以テ教練ヲ行フベシ

第三十一條 本章ニ掲グル諸運動ハ専ラ正面ニ付規定ス背面向ニ於ケル運動ハ之ニ準ジテ行ヒ其ノ要

領ヲ會得セシムルヲ以テ是レリトス

第一節 小隊教練

編成

第三十二條 小隊ハ概ネ身幹ノ順序ニ從ヒ前後二列ニ配列シテ橫隊ヲ作ル其ノ前後ニ立チタル二人ヲ伍ト謂フ人員奇數ナルトキハ左翼ノ第二列ヲ缺ク之ヲ缺伍ト謂フ

後列員ハ前列員ノ背ヨリ胸マデニ八十五種ノ距離ヲ取リテ正シク前列員ニ重ナリ同方面ニ位置ス各列員ノ間隔ハ左手ヲ腰ニ當テ肘ヲ側方ニ張リタルトキ輕ク左隣員ノ右肘ニ觸ルルヲ度トス

小隊ノ各伍ハ第一列ニ於テ右ヨリ左ニ番號ヲ附ス之ヲ小隊ノ正面トス
小隊ハ概ネ之ヲ三分隊ニ分チ右翼ヨリ順序ニ番號ヲ附ス
分隊ノ人員ハ概ネ十名トス但シ人員ノ都合ニ依リ増減スルコトヲ得

小隊ノ兩翼ニ各其ノ翼ノ分隊長ヲ置ク其ノ他ノ分隊長ハ概ネ中央ノ奇數伍ニ重ナリ後列ヨリ二歩ノ所ニ位置ス之ヲ押伍ト謂フ

隊形

第三十三條 小隊ノ隊形ハ橫隊及側面縱隊トシ其ノ隊形第一圖ノ如シ

第一圖 1 橫隊ノ隊形 2 側面縱隊ノ隊形
記號ハ1ノ凡例ニ依ル



分隊長ニ非ザル部(班)長及傳令ハ押伍列右翼ニ在リテ奇數伍ニ重ナル如ク位置ス
橫隊ハ主トシテ集合及短距離ノ運動ニ、側面縱隊ハ主トシテ運動ニ用フ

整頓

第三十四條 整頓完全ナルトキ各列員ハ整頓線上ニ正シキ姿勢ヲ取リ頭ヲ右(左)ニ廻ストキ右(左)ノ眼ヲ以テ其ノ右(左)隣員ヲ見他ノ眼ヲ以テ全線

ヲ視通スコトヲ得ルモノトス

列員整頓線ニ就クトキハ足ノ位置ヲ正シクシ頭、肩又ハ上體ヲ前後ニ出スコトナク正確ナル姿勢ヲ以テスルヲ必要トス

第三十五條 橫隊ヲ整頓セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
嚮導(何) 歩前へ

兩翼分隊長ハ前進シ小隊長ハ其ノ位置ヲ正シタル後左ノ號令ヲ下ス

右(左)へ———準へ
直レ

「準へ」ノ動令ニテ小隊ハ前進シ最後ノ一步ヲ縮メ少シク整頓線ノ後方ニ止リ次ニ頭ヲ右(左)ニ廻シ小歩ニテ靜ニ整頓線ニ就ク但シ右翼分隊長及前後列員ハ左手ヲ腰ニ當テ肘ヲ側方ニ張リ後列及押伍列ニ在ル者ハ先ヅ正シク前方ノ列員ニ重ナリテ距離ヲ取り次ニ右(左)ノ方ニ整頓ス整頓線ノ分隊長ハ速ニ整頓ノ基礎ヲ定ムル爲反對翼ノ分隊長ヲ目標トシ先ヅ己ニ近キ二三列員ノ位置ヲ正シ逐次ニ整頓ヲ正ス反對翼ノ分隊長ハ必要アル場合ニ於テハ己ニ近キ二三列員ノ位置ヲ正シ以テ整頓ヲ

補助ス

「直レ」ノ號令ニテ小隊ハ頭ヲ正面ニ復シ右翼分隊長及前後列員ハ左手ヲ下ス

其ノ位置ニ於テ整頓セシムルニハ單ニ「右(左)ヘ——準ヘ、直レ」ノ號令ヲ下ス

第三十六條 側面縱隊ヲ整頓セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

準ヘ

直レ

「準ヘ」ノ號令ニテ小隊ノ先頭分隊長ハ動クコトナク小隊舊正面ノ方ニ在ル列員及後尾分隊長ハ正シク距離ヲ取リテ先頭分隊長ニ重ナリ其ノ他ノ列員及押伍列ニ在ル者ハ前方ノ者ニ重ナリ舊正面ノ方ニ整頓ス

「直レ」ノ號令ニテ頭ヲ正面ニ復ス

右(左)向及後向

第三十七條 橫隊右(左)向ヲ爲セバ偶數員(奇數員)ハ奇數員(偶數員)ノ右(左)ニ出デ伍ヲ組ミ四列員相竝ビ側面向ト爲ル
兩翼分隊長及押伍列ニ在ル者ハ各其ノ位置ニ在リ

テ右(左)向ヲ爲ス

側面向ニ在リテ左(右)向ヲ爲セバ伍ヲ解キ正面向ト爲リ右(左)ノ方ニ整頓ス

第三十八條 橫隊後向ヲ爲セバ兩翼分隊長及缺伍ハ前列ニ就ク

行 進

第三十九條 直行進ハ常ニ右方ニ嚮導ヲ取ル若シ左方ニ取ルトキハ特ニ之ヲ示スベシ

小隊長ハ號令ヲ下スニ先ダチ通常行進目標ヲ右(左) 翼分隊長ニ示スモノトス

小隊ハ一齊ニ行進ヲ起シ嚮導ニ準ヒテ行進シ嚮導ハ列員ニ關スルコトナク正規ノ歩長ト速度トヲ保チ與ヘラレタル目標ニ向ヒ又ハ正面向ト直角ニ行進ス
行進中嚮導ヲ他翼ニ取ルヲ要スルトキハ「嚮導左(右)」ノ號令ヲ下スベシ

第四十條 行進間列員ノ守ルベキ要件左ノ如シ
歩長及速度ノ齊一ト間隔及距離ノ保持ニ注意スルコト
列員ハ常ニ頭ヲ正シク保チ嚮導ノ方ニ整頓スル爲頭ヲ廻スコトナク整頓スベキ方ニ在ル隣員竝ニ前

方ノ列員ニ注意スルコト

整頓翼ヨリ押シ來ルトキハ之ニ從ヒ反對ノ方ヨリ押シ來ルトキハ之ヲ支フルコト

整頓線ヨリ進ミ或ハ後レ又ハ間隔ヲ失ヒタルトキハ漸次ニ恢復スルコト

障礙物等ニ遭遇シ行進シ能ハザルトキハ直ニ左右ニ之ヲ避クルコトナク足踏ヲ爲シ隣員等ニ妨ナキニ至リ速ニ舊位置ニ復歸スベシ若シ歩ノ速ヒタルトキハ踏替ヲ爲シ速ニ整頓翼ノ方ナル隣員ノ歩ニ準フベシ踏替ヲ爲スニハ後ノ足ヲ前ノ足ニ引キ著ケ前ノ足ヨリ行進ス駈歩ニ在リテハ片足ニテ二步行進ス足踏間ニ在リテハ駈歩間ノ方法ニ準ズ

第四十一條 行進間ノ右(左)向ハ第三十七條ノ規定ニ從ヒ後向ハ第三十八條ノ規定ニ從フ側面向ヨリ正面向ニ移リ續キテ行進スルトキ必要アル場合ニ於テハ嚮導ヲ示スベシ

第四十二條 側面向ノ行進ニ在リテハ各列員ハ常ニ舊正面ノ方ニ整頓シ嚮導ノ後方ニ在ル列員ハ其ノ進ミタル線ヲ踏ミテ行進シ他ノ列員ハ前方ノ列員ニ重ナリテ行進ス

第四十三條 側面縱隊ニテ行進シツツアル小隊ヲ止

メ直ニ橫隊ヲ作ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

左(右)向ケ——止レ

小隊ハ停止シ第三十七條第三項ノ規定ニ從ヒ動作ヲ爲シ正面向トナル

第四十四條 斜行進ニ在リテハ各列員ノ位置正シキ

トキハ其ノ肩概ネ互ニ平行シ右(左)斜行進ニ在リテハ各列員ノ右(左)肩ハ概ネ其ノ右(左)隣員ノ左(右)肩ノ後ニ在ルモノトス
各列員ハ常ニ斜行スル方ニ整頓ス

直行進ニ復シタルトキ必要アル場合ニ於テハ嚮導ヲ示スベシ

第四十五條 「步調止メ」ノ號令アルトキ野外ニ在リ

テハ必ズシモ歩ヲ揃フルヲ要セズ

第四十六條 小隊ヲ止ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

小隊——止レ

小隊ハ停止シ橫隊ニ在リテハ各自嚮導ノ方ニ整頓シ側面縱隊ニ在リテハ動クコトナシ

方向變換

第四十七條 方向ヲ換フルニハ停止間ニ在リテハ速

歩ヲ用ヒ必要アル場合ニ於テハ駈歩ヲ用フ其ノ駈歩ヲ用フル場合ニ於テハ豫令ノ次ニ「駈歩」ノ號令ヲ加フ

行進間ニ於テハ常ニ駈歩ヲ用フ

第四十八條 横隊ノ方向ヲ換ヘシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)ニ方向ヲ換ヘ——進メ

停止間ニ在リテハ軸翼ニ在ル分隊長ハ右(左)向ヲ爲シ其ノ他ハ半右(左)向ヲ爲シ捷路ヲ經テ逐次新線ニ到リ停止シ其ノ右(左)隣員ニ整頓ス行進間ニ在リテハ方向ヲ換ヘツツ新方向ニ行進ス小隊長ハ方向ヲ換ヘ終ラントスルトキ必要アル場合ニ於テハ嚮導ヲ示スベシ

行進間方向ヲ換ヘ直ニ停止スル必要アルトキハ「右(左)ニ方向ヲ換ヘ——止レ」ノ號令ヲ下ス軸翼ニ在ル分隊長ハ停止シテ方向ヲ換ヘ列員ハ新線ニ到リテ停止シ其ノ右(左)隣員ニ整頓ス

第四十九條 側面縦隊ノ方向ヲ換ヘシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

伍々左(右)ヘ——進メ

先頭伍ハ小ナル環形ヲ歩ミ停止間ニ在リテハ前進ヲ起スト同時ニ以上ノ動作ヲ爲シ旋回軸ニ在ル列員ハ最初ノ數歩ヲ縮メ外翼ニ在ル列員ハ正規ノ歩長ヲ以テ行進シ常ニ旋回軸ノ方ニ整頓シツツ左(右)ニ方向ヲ換ヘ續キテ行進ス各伍ハ其ノ前ノ伍ト同所ニ到リ同法ヲ以テ方向ヲ換フ

第五十條 少シク方向ヲ換ヘシムルニハ豫メ新目標(方向)ヲ示スベシ

隊形變換

第五十一條 隊形ヲ換フルニハ既ニ掲グル諸制式ニ從ヒ實施スルノ外後二條ノ規定ニ依ル但シ第五十二條ノ場合ニ在リテハ第四十七條ノ規定ヲ適用ス

第五十二條 側面縦隊ヨリ同方向ニ横隊ヲ作ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

左(右)ヘ並ビ——進メ

先頭ニ在ル分隊長ハ動カザルカ又ハ續キテ行進シ各列員ハ伍ヲ解キ捷路ヲ經テ横隊ヲ作ル

側面行進間同方向ニ横隊ヲ作り直ニ停止スル必要アルトキハ「左(右)ヘ並ビ——止レ」ノ號令ヲ下ス先頭分隊長ハ直ニ停止シ各列員ハ伍ヲ解キ捷路

ヲ經テ横隊ヲ作ル

第五十三條 行進中ノ横隊ヲ同方向ニ側面縦隊ニ移ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)向ケ伍々左(右)ヘ——進メ

小隊ハ右(左)向ヲ爲シ第四十九條ノ規定ニ依リ方向ヲ換ヘ續キテ行進ス

途步

第五十四條 途歩ハ長距離ノ行進又ハ不齊地等ノ行進ノ際側面縦隊ノ隊形ニ於テ之ヲ行フモノトス途歩ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

途步

列員ハ正規ノ步調ヲ取ルヲ要セズ且談話ヲ爲スコトヲ妨ゲズ

途步行進間押伍列員ハ列中ニ入ル

途步行進間速歩(駈歩)ヲ爲サシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

速歩(駈歩)——進メ

解散及集合

第五十五條 小隊ヲ解散セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

解レ

第五十六條 小隊ヲ集合セシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

集レ

右翼分隊長ハ速ニ小隊長ノ前ニ來リ横隊ノ定位ニ就キ各列員ハ其ノ左ノ方ニ番號ノ順序ニ從ヒ二列トナリ整頓ス

第二節 中隊教練

編成

第五十七條 中隊ハ概ネ之ヲ三小隊ニ分チ第一乃至第三ノ番號ヲ附ス

中隊内ニ於ケル小隊ノ人員ハ概ネ三十名トス但シ人員ノ都合ニ依リ増減スルコトヲ得

中隊内ニ於ケル編成要領ハ第三十二條ノ規定ニ從フ

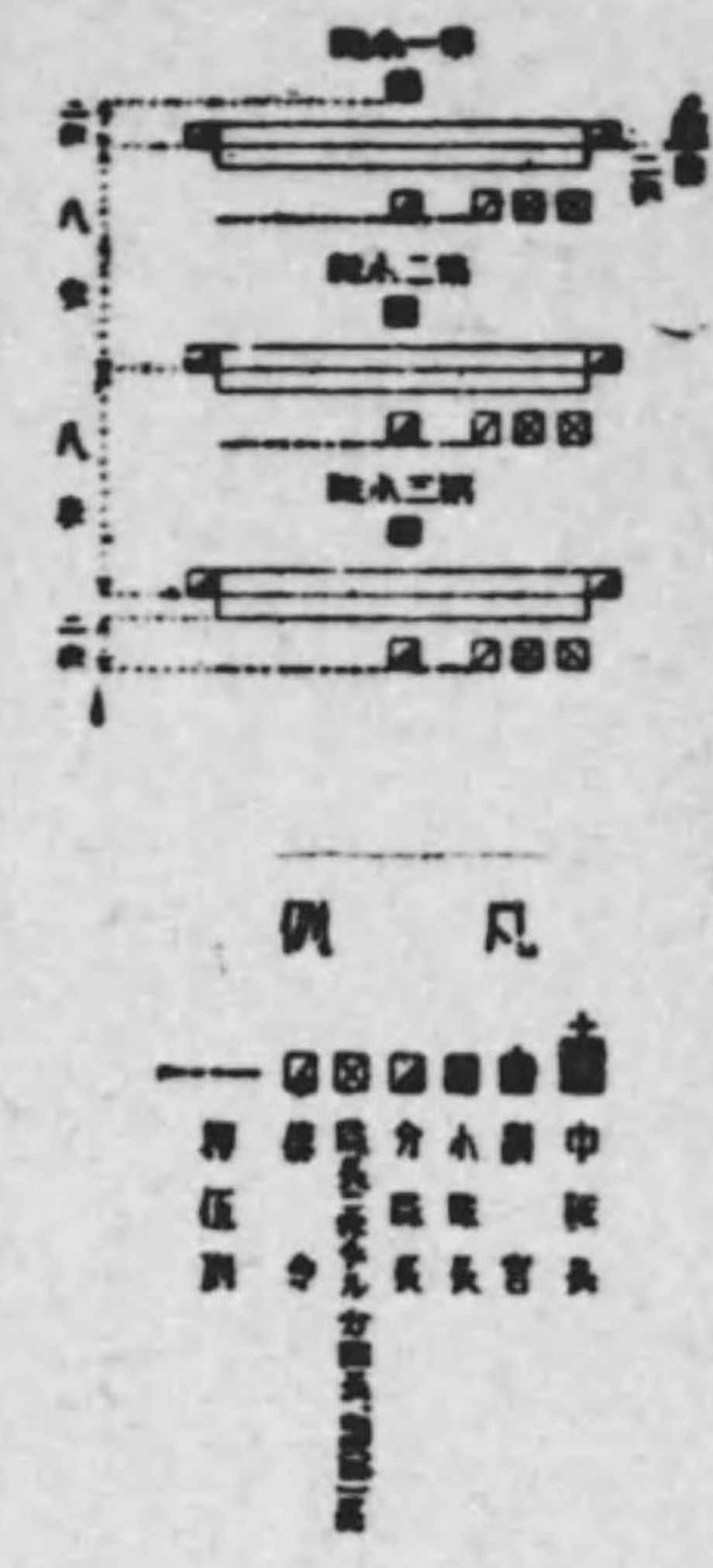
隊形

第五十八條 中隊ノ隊形ハ中隊縦隊、併立縦隊、側面縦隊及中隊横隊トス

第五十九條 中隊縦隊ノ隊形第二圖ノ如シ

小隊ハ其ノ順序ニ拘ラズ重疊スルコトヲ得ルト共ニ小隊間ノ距離ハ時宜ニ依リ之ヲ伸縮スルコトヲ

第二圖 中隊縦隊ノ隊形



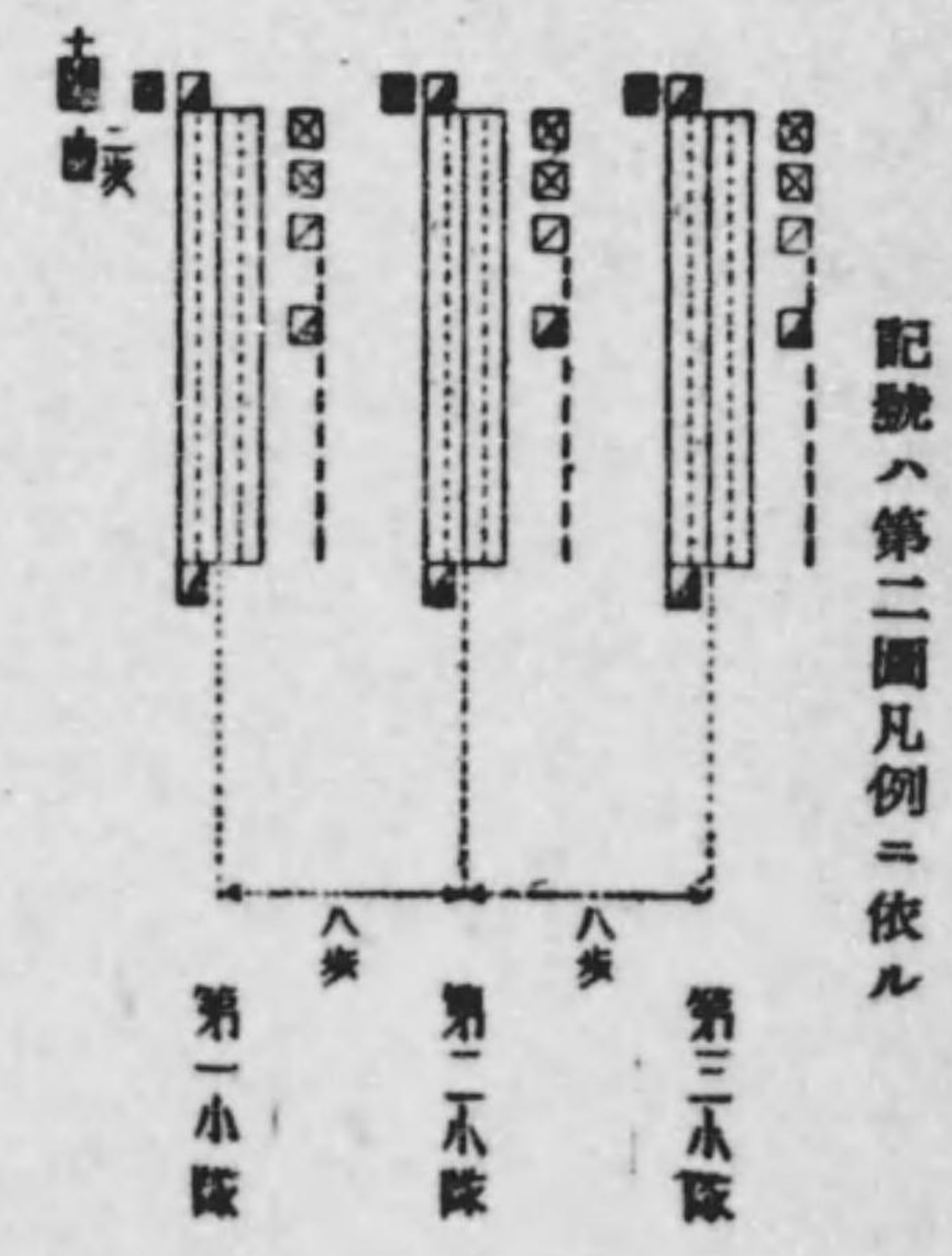
第六十條 併立縦隊ハ中隊縦隊ヲ側面ニ向ケタルモノニシテ其ノ隊形第三圖ノ如シ

側面縦隊ハ側面ニ向キタル小隊ヲ重疊シタルモノニシテ通常四列トシ其ノ隊形第四圖ノ如シ

第四圖 側面縦隊ノ隊形 記號ハ第二圖凡例ニ依ル



第三圖 併立縦隊ノ隊形 記號ハ第二圖凡例ニ依ル



兩隊形ニ於ケル押伍列ニ在ル者ハ各其ノ伍ニ列ビ小隊長ハ其ノ先頭分隊長ノ外側ニ接シテ位置ス

第六十一條 中隊横隊ハ小隊ヲ横ニ聯繫シタルモノニシテ各小隊ノ隊形ハ中隊縦隊ノ場合ニ準ズ

第六十二條 中隊長ハ時宜ニ依リ前三條ニ定ムル小隊長分隊長及押伍列員ノ位置ヲ變更スルコトヲ得

整頓

第六十三條 中隊ヲ整頓セシムルニハ第三十四條乃至第三十六條ノ規定ニ從ヒ實施スルノ外後三條ノ規定ニ依ル

第六十四條 中隊縦隊ニ在ル中隊ニ在リテハ「嚮導(何)歩前へ」ノ號令ニテ先頭小隊ノ兩翼分隊長ノミ前進シ中隊長ハ其ノ位置ヲ正ス

「右(左)へ」ノ號令ニテ後方小隊ノ整頓

第五圖 中隊横隊ノ隊形 記號ハ第二圖凡例ニ依ル



翼ノ分隊長ハ列員ト共ニ前進シ正シク距離ヲ取リ前方小隊整頓翼ノ分隊長ニ重ナルモノトス

第六十五條 併立縦隊ニ在ル中隊ニ在リテハ通常基準小隊ヲ示シ左ノ號令ヲ下ス

「準へ」ノ號令ニテ基準小隊ハ第三十六條ノ規定ニ從ヒ動作ヲ爲シ其ノ他ノ小隊ハ基準小隊ノ方ニ整頓ス

「直レ」ノ號令ニテ頭ヲ正面ニ復ス

第六十六條 中隊横隊ニ在ル中隊ニ在リテハ「嚮導(何)歩前へ」ノ號令ニテ各小隊兩翼分隊長ハ一齊ニ前進シ中隊長ハ其ノ位置ヲ正ス

右(左)向及後向

第六十七條 中隊縦隊ニ在ル中隊右(左)向ヲ爲セバ各小隊ハ第三十七條第一項及第二項ノ規定ニ從ヒ動作ヲ爲シ第六十條第一項ニ定メタル位置ニ就キ併立縦隊トナル

第六十八條 併立縦隊ニ在ル中隊左(右)向ヲ爲セバ各小隊ハ第三十七條第三項ノ規定ニ從ヒ動作ヲ

爲シ第五十九條ニ定メタル位置ニ就キ中隊縱隊トナリ各自右(左)ノ方ニ整頓ス

第六十九條 中隊横隊ニ在ル中隊右(左)向ヲ爲セバ各小隊ハ第三十七條第一項及第二項ノ規定ニ從ヒ動作ヲ爲シ第六十條第二項ニ定メタル位置ニ就キ側面縱隊トナル

第七十條 側面縱隊ニ在ル中隊左(右)向ヲ爲セバ各小隊ハ第三十七條第三項ノ規定ニ從ヒ動作ヲ爲シ第六十一條ニ定メタル位置ニ就キ中隊横隊トナリ各自右(左)ノ方ニ整頓ス

第七十一條 中隊縱隊ニ在ル中隊及中隊横隊ニ在ル中隊後向ヲ爲セバ各小隊ハ第三十八條ノ規定ニ從ヒ動作ヲ爲シ小隊長ハ其ノ位置ニ在リテ後向ヲ爲ス

行 進

第七十二條 中隊ノ行進ニ付テハ第三十九條乃至第四十六條ノ規定ニ從ヒ實施スルノ外後五條ノ規定ニ依ル

第七十三條 中隊縱隊ノ直行進ニ在リテハ後方小隊ノ嚮導ハ其ノ前方小隊ノ嚮導ノ進ミタル線ヲ踏ミ

常ニ八歩ノ距離ヲ保ツベシ

第七十四條 併立縱隊ノ行進ニ在リテハ中隊長ハ通常基準小隊ヲ示シ且必要アル場合ニ於テハ其ノ小隊ノ嚮導ノ行進目標ヲ示スベシ

第七十五條 行進間ノ右(左)向及後向ハ第六十七條乃至第七十一條ノ規定ニ從ヒ實施スベシ

第七十六條 中隊横隊ニ於ケル長距離行進ハ通常之ヲ行ハザルモノトス

第七十七條 併立縱隊又ハ側面縱隊ニ在リテ行進シツツアル中隊ヲ止メ直ニ側面ニ向ヒ中隊縱隊又ハ中隊横隊ヲ作ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

左(右)向ケ——止レ
中隊ハ停止シ第六十八條又ハ第七十條ノ規定ニ從ヒ中隊縱隊又ハ中隊横隊トナリ行進セシ方ニ整頓ス

方 向 變 換

第七十八條 中隊ノ方向ヲ換フルニハ既ニ掲グル諸制式ニ從ヒ實施スルノ外後三條ノ規定ニ依ル

第七十九條 中隊横隊ノ方向ヲ換ヘシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)ニ方向ヲ換ヘ——進メ

停止間ニ在リテハ先頭小隊ハ第四十八條ノ規定ニ從ヒ動作ヲ爲シ後方小隊ハ各自己ノ占ムベキ位置ニ到リ右(左)ノ方ニ整頓ス

行進間ニ在リテハ先頭小隊ノ方向變換ヲ爲シタルト同所ニ到リ號令ナクシテ方向ヲ換ヘツツ先頭小隊ニ續行ス

第八十條 併立縱隊ノ方向ヲ換ヘシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)ニ方向ヲ換ヘ——進メ

停止間ニ在リテハ軸翼ニ在ル小隊ハ伍々右(左)ニ方向ヲ換ヘ小隊ノ深サダケ新方向ニ進ミテ停止シ他ノ小隊ハ逐次其ノ齊頭面ニ到リテ停止ス

行進間ニ在リテハ軸翼ニ在ル小隊ハ前ト同法ヲ以テ方向ヲ換ヘツツ行進シ其ノ他ノ小隊ハ逐次其ノ齊頭面ニ到リ續キテ行進ス

第八十一條 中隊横隊ノ方向變換ハ通常之ヲ行ハザルモノトス

隊 形 變 換

第八十二條 中隊ノ隊形ヲ換フルニハ既ニ掲グル諸

制式ニ從ヒ實施スルノ外後四條ノ規定ニ依ル

第八十三條 側面縱隊ヨリ同方向ニ中隊縱隊ヲ作ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

中隊縱隊作レ——進メ

小隊長ノ指示ニ從ヒ先頭ニ在ル分隊長ハ動かザルカ又ハ續キテ行進シ先頭小隊ノ列員ハ伍ヲ解キ捷路ヲ經テ横隊ヲ作り後方小隊ハ先頭小隊ニ準ジテ小隊毎ニ横隊ヲ作り制規ノ距離ヲ取ル

第八十四條 側面縱隊ヨリ同方向ニ併立縱隊ヲ作ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

併立縱隊作レ——進メ

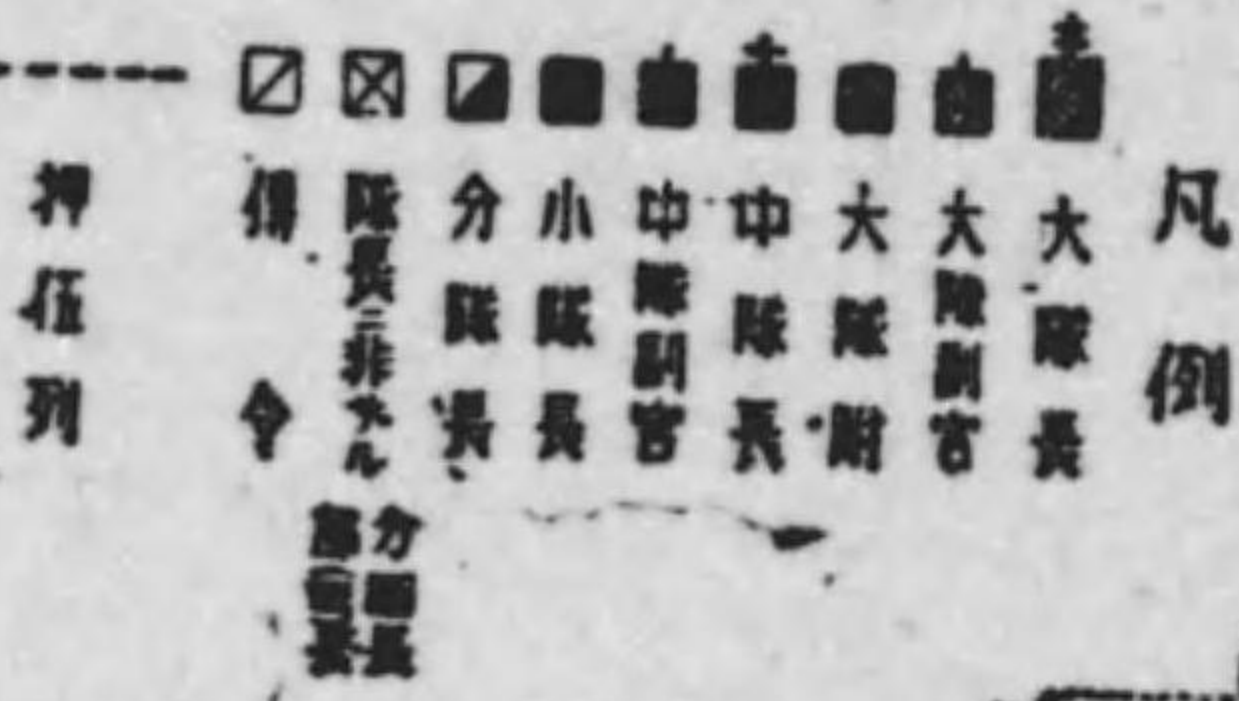
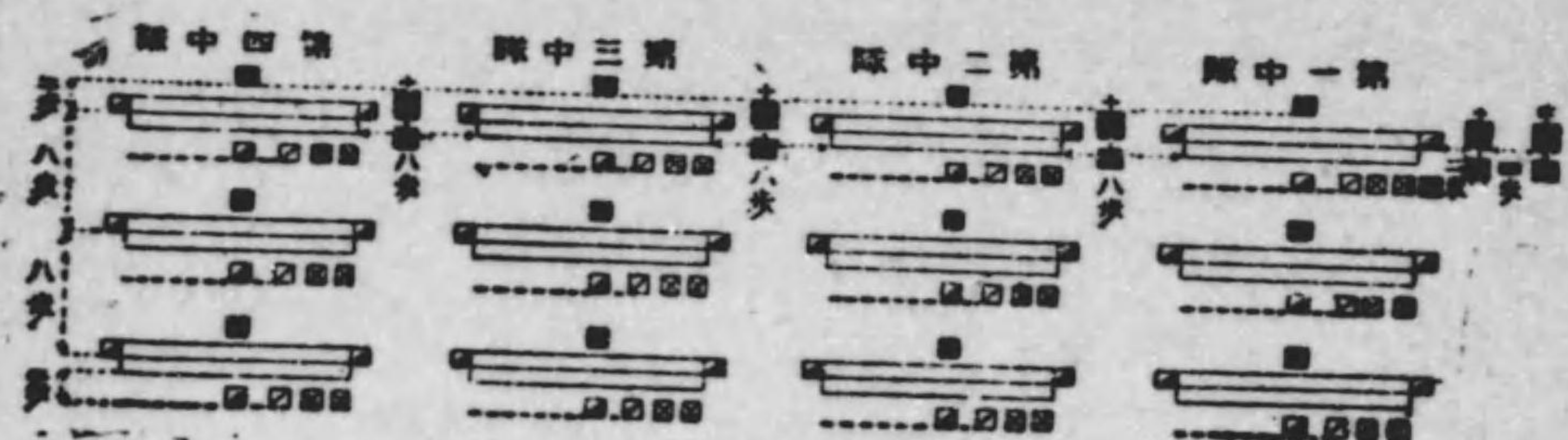
小隊長ノ指示ニ從ヒ先頭小隊ハ動かザルカ又ハ續キテ行進シ中央(後尾)小隊ハ右(左)方ニ制規ノ間隔ヲ取ル如ク進出シ先頭小隊ト齊頭面ニ到ル一側ニ併立縱隊ヲ作ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

右(左)ニ併立縱隊作レ——進メ

小隊長ノ指示ニ從ヒ先頭小隊ハ動かザルカ又ハ續キテ行進シ後方小隊ハ右(左)方ニ制規ノ間隔ヲ取ル如ク進出シ先頭小隊ト齊頭面ニ到ル

第八十五條 中隊縱隊ヨリ同方向ニ中隊横隊ヲ作ラ

形隊ノ隊機隊縦 圖六第



第七圖 大隊縦隊ノ隊形 記號ハ第六圖凡例ニ依ル

大隊縦隊ハ中隊縦隊ヲ縦ニ重疊シタルモノニシテ其ノ隊形第七圖ノ如シ

第九十一條 大隊教練ヲ行フニハ既ニ掲グル諸制式ニ從ヒ實施スベシ

大隊長ハ各中隊ヲシテ同時ニ同一ノ動作ヲ爲サシムルヲ要スル場合ニ於テハ號令ヲ用フベシ
 大隊長ハ整頓、行進、方向變換及隊形變換等ヲ爲スニ方リ必要アル場合ニ於テハ基準中隊及中隊ノ關係位置等ヲ中隊長ニ示スベシ
 各中隊間ノ距離間隔ハ各中隊整頓翼ノ分隊長之ヲ保ツベシ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 消防組操典ハ之ヲ廢止ス

シムルニハ左ノ號令ヲ下ス

中隊橫隊作レ——進メ

小隊長ノ指示ニ從ヒ先頭小隊ハ其ノ位置ヲ動かズ中央(後尾)小隊ハ半右(左)向ヲ爲シ捷路ヲ經テ先頭小隊ノ右(左)方制規ノ位置ニ到リテ停止シ中央小隊ニ整頓ス

一側ニ中隊橫隊ヲ作ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

左(右)へ中隊橫隊作レ——進メ

小隊長ノ指示ニ從ヒ先頭小隊ハ其ノ位置ヲ動かズ後方小隊ハ半左(右)向ヲ爲シ捷路ヲ經テ順次先頭小隊ノ左(右)方制規ノ位置ニ到リテ停止シ右(左)ノ方ニ整頓ス

行進間ニ於テハ本運動ハ通常之ヲ行ハザルモノトス

第八十六條 中隊橫隊ヨリ同方向ニ中隊縦隊ヲ作ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス

中隊縦隊作レ——進メ

小隊長ノ指示ニ從ヒ中央小隊ハ其ノ位置ヲ動かズ右(左)小隊ハ中央小隊ノ後方自己ノ占ムベキ位置ニ到リテ停止シ右ノ方ニ整頓ス

一側ニ中隊縦隊ヲ作ラシムルニハ左ノ號令ヲ下ス
 右(左)へ中隊縦隊作レ——進メ

小隊長ノ指示ニ從ヒ右(左)小隊ハ其ノ位置ヲ動かズ其ノ他ノ小隊ハ右(左)小隊ノ後方各自自己ノ占ムベキ位置ニ到リテ停止シ右ノ方ニ整頓ス
 行進間ニ於テハ本運動ハ通常之ヲ行ハザルモノトス

途 步

第八十七條 中隊ノ途歩ハ側面縦隊ノ隊形ニ於テ之ヲ行ヒ第五十四條ノ規定ヲ適用ス

解散及集合

第八十八條 中隊ノ解散及集合ニハ第五十五條及第五十六條ノ規定ヲ準用ス

中隊ノ集合隊形ハ通常中隊縦隊トス

第三節 大隊教練

第八十九條 大隊ノ隊形ハ縦隊橫隊及大隊縦隊トス但シ大隊長ハ時宜ニ依リ別ニ隊形ヲ定ムルコトヲ得

第九十條 縦隊橫隊ハ中隊縦隊ヲ横ニ併列シタルモノニシテ其ノ隊形第六圖ノ如シ

警防團禮式令

(昭和十四年六月六日
内務省令第七號)

第一章 總 則

第一條 本令ハ警防團員及其ノ部隊ノ禮式ヲ定ム
第二條 本令中禮式ト稱スルハ敬禮及觀閱式ヲ謂フ

第三條 禮式ノ目的ハ尊皇ノ大義ヲ闡明ニシ敬神崇祖ノ念ヲ涵養スルトトモニ禮節ヲ明カニシテ上下ノ別ヲ正シ信義ヲ敦クシテ和衷協同ノ實ヲ擧ゲ以テ鞏固ナル警防精神ヲ練成スルニ在リ

第四條 禮式ヲ行フニ當リテハ動作ノ熟達形式ノ整齊固ヨリ必要ナリト雖モ内ニ精神充溢セザレバ其ノ效ナシ故ニ至誠之ニ當リ苟モ等閑ニ流レ粗略ニ陥ルガ如キコトアルベカラズ

第五條 本令中警防團員ト稱スルハ警防團令第二條ニ依ル職員ニシテ制服ヲ着用セル者ヲ謂フ
第六條 本令中警防部隊ト稱スルハ指揮者アル警防團員ノ隊伍ヲ謂フ

第七條 本令中上級者ト稱スルハ左ノ各號ノ一ニ該

當スル者ヲ謂フ

- 一 上級ノ職ニ在ル警防團員
- 二 指揮監督ノ職權ヲ有スル官吏
- 三 指揮ノ任ニ在ルモノ

第二章 敬 禮

第一節 通 則

第八條 最敬禮ハ不動ノ姿勢ヲ取り先ヅ正面ニ注目シ次ニ體ノ上部ヲ約四十五度前ニ傾ケ頭ヲ正シク上體ノ方向ニ保チ之ヲ行フモノトス帽ヲ手ニスルトキハ右手ニ其ノ前底ヲ摘ミ内部ヲ右股ニ對セシメテ之ヲ垂直ニ提ゲ左手ハ之ヲ垂下スベシ

第九條 室内ノ敬禮ハ體ノ上部ヲ約十五度前ニ傾ケ受禮者又ハ敬スベキ物ニ注目スルノ外前條ノ規定ニ同ジ

第十條 舉手注目ノ敬禮ハ受禮者又ハ敬スベキ物ニ面シテ姿勢ヲ正シ右手ヲ舉ゲ諸指ヲ接シテ伸ベシ食指ト中指トヲ帽ノ前底ノ右端ニ當テ掌ヲ稍外方ニ向ケ肘ヲ肩ノ方向ニテ略其ノ高サニ齊シクシ受禮者又ハ敬スベキ物ニ注目シ之ヲ行フモノトス

第十一條 警防部隊ノ敬禮ハ先ヅ隊列ヲ正シ指揮者

ノ「頭——右(左)」又ハ「注目」ノ號令ニテ受禮者又ハ敬スベキ物ニ對シ指揮者ハ舉手注目ノ敬禮ヲ行ヒ隊員ハ注目シ「直レ」ノ號令ニテ舊ニ復スルモノトス

第十二條 警防團員及警防部隊ハ特定アル場合ヲ除クノ外上級者ニ對シテハ敬禮ヲ行ヒ上級者ハ之ニ答禮シ同級者ハ互ニ敬禮ヲ交換スベシ
敬禮ヲ行フトキハ通常受禮者ノ答禮終ルヲ待チ舊ニ復スルモノトス

第十三條 二人以上ノ上級者ニ對スル敬禮ハ警防部隊ニ在リテハ最上級者ニ對シ之ヲ行ヒ警防團員ニ在リテハ先ヅ最上級者ニ對シ次ニ他ノ上級者一同ニ對シ之ヲ行フベシ

第十四條 皇族、王公族、御名代、勅使又ハ御眞影ニ對スル敬禮ハ特定アル場合ヲ除クノ外
天皇ニ行フ敬禮ニ準ジ之ヲ行フベシ

第十五條 外國ノ君主、大統領又ハ皇族ニ對シテハ公式ノ場合ニ限り前條ニ準ズ

第十六條 大臣、大臣ノ禮遇ヲ受クル者又ハ公式ノ場合ニ於ケル外國使節ニ對スル敬禮ハ上級者ニ準

ズ外國ノ君主、大統領又ハ皇族ニ對シ公式ノ場合ニ非ザルトキ亦同ジ

第十七條 賢所參拜、御眞影奉安所參拜、皇居遙拜其ノ他拜神ノトキハ拜禮ヲ行フベシ
拜禮ハ最敬禮ト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ行フモノトス

玉串奉奠ノ際ハ先端ヲ右ニ廻シテ前方ニ向ケ左手ヲ右手ノ元ニ下シ玉串ノ中程ヲ裏ヨリ右手ニテ持チ本ヲ神前ニ向ケ左手ヲ副ヘテ案上ニ置キ拜禮ヲ行フモノトス

第十八條 勅語、詔書又ハ命令ノ奉讀アルトキハ其ノ始終ニ於テ室内ニ在リテハ最敬禮、室外ニ在リテハ室外ノ敬禮ヲ行フベシ

第十九條 儀式、會同其ノ他廉アル場合ニ於テ陛下ノ萬歲唱和又ハ「君が代」ノ奏樂ヲ聞クトキハ其ノ間姿勢ヲ正スベシ

第二十條 軍旗ニ對シテハ敬禮ヲ行フベシ但シ上覆ヲ附シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
國旗ノ掲揚、降下ノ式ニ臨ムトキハ之ニ面シテ敬禮ヲ行フベシ

第二十一條 警防團旗ニ對シテハ敬禮ヲ行フベシ
第二十二條 式典ニ參與シ又ハ參列シタルトキハ其ノ式典ノ爲ニスル敬禮ノ外敬禮ヲ行ハザルモノトス

第二十三條 防空、水火消防其ノ他ノ警防、演習、點檢、教練、操車其ノ他特別ノ注意ヲ要スル職務ニ從事スルトキハ通常敬禮ヲ行ハザルモノトス

第二十四條 職務上隨從スル者ハ通常敬禮ヲ行ハズ職務上隨從スル者ニ對シ亦同ジ

第二十五條 警防部隊ノ敬禮ハ室内又ハ夜間ニ在リテハ特ニ定アル場合ヲ除クノ外之ヲ行ハザルモノトス

第二十六條 警防團員制服ノ服裝ヲ著セザルトキト雖モ上級者ニ對シテハ相當ノ敬禮ヲ行フヲ禮トス

第二十七條 警察官吏、消防官吏又ハ其ノ部隊ニ對シテハ相當ノ敬禮ヲ行フヲ禮トス

第二十八條 敬禮ヲ受ケタルトキハ何人ニ對シテモ答禮スベシ

第二十九條 旗ヲ把持スルトキハ其ノ下端ヲ右股ニ當テ右肘ヲ後ニシ其ノ拳ヲ肩ノ高サニシテ尖端ヲ

僅ニ前方ニ傾クルモノトス

第三十條 旗ノ敬禮ハ其ノ下端ヲ右股ニ當テタル儘右手ヲ充分ニ前ニ伸ベシ之ヲ行フモノトス
旗ヲ把持スル者ハ敬禮ヲ行ハザルモノトス

第三十一條 居室、事務室、休憩室等ハ室内トシ廊下、階段、車内、望樓、機械置場、甲板、短艇等ハ室外トス但シ宮中、行在所等ノ廊下、賢所正門内、神前及祭場ハ室内ト看做ス

第三十二條 室内ニ入ルトキハ室外ニ於テ帽ヲ脱スベシ

第三十三條 上級者ヲ稱呼スルトキハ其ノ官名又ハ職名ノ下ニ勲任官ニ對シテハ閣下其ノ他ノ者ニ對シテハ殿ノ敬稱ヲ附シ同級又ハ下級ノ者ニ對シテハ氏ノ下ニ其ノ職名ヲ附スベシ

第二節 天皇ニ行フ敬禮
第三十四條 天皇ニ行フ警防團員ノ室内ニ於ケル敬禮ハ先ヅ御室ノ外ニ於テ敬禮シタル後御室ニ入り直ニ敬禮シ更ニ進ミテ玉座ヲ離ルルコト約六歩ノ所ニ於テ最敬禮ヲ爲シ終リテ退歩シ御室ノ出口ニ於テ敬禮シ御室ヲ出デ更ニ敬禮ヲ行ヒタル後退去

スベシ但シ特ニ定アル場合ハ之ニ從フ

第三十五條 天皇ニ行フ警防團員ノ室外ニ於ケル敬禮ハ兩簿ノ通路ニ正面シテ不動ノ姿勢ヲ取り車駕約八歩前ニ近ヅクトキ目迎シテ舉手注目ノ敬禮ヲ行ヒ約八歩ヲ過グル迄其ノ姿勢ヲ保チ目送スベシ

第三十六條 天皇ニ行フ警防部隊ノ敬禮ハ兩簿ノ通路ニ正面シテ停止シ車駕隊列ノ約三十歩前ニ近ヅクトキ目迎シテ之ヲ始メ隊列ヨリ約十五歩過グル迄目送シテ之ヲ止ム

第三十七條 御召列車、御召艦艇等ニテ通御ノ際ハ前二條ノ規定ニ準ジ敬禮ヲ行フベシ

第三十八條 天皇ニ行フ警防船舶ノ敬禮ハ船ノ進行ヲ止メ乗員ハ甲板上適宜ノ場所ニ整列シ第三十六條ノ規定ニ準ジ敬禮ヲ行フベシ但シ敬禮ハ御召艦艇約三十米ニ近ヅクトキ之ヲ始メ約十五米過グルトキ之ヲ止ム

第三節 警防團員ノ敬禮

第一款 室内ノ敬禮

第三十九條 上級者ノ室ニ入ラントスルトキハ先ヅ戸ヲ敲キテ許諾ヲ得其ノ席ヲ離ルルコト約三步ノ

所ニ於テ敬禮ヲ行フベシ其ノ室ヲ去ルトキ亦同ジ

前項ノ場合ニ於テ在室ノ上級者二人以上ニシテ主客ノ別アルトキハ第十三條ノ規定ニ拘ラズ先ヅ主

客ノ別アルトキハ第十三條ノ規定ニ拘ラズ先ヅ主客ノ別アルトキハ第十三條ノ規定ニ拘ラズ先ヅ主客ノ別アルトキハ第十三條ノ規定ニ拘ラズ先ヅ主

客ノ別アルトキハ第十三條ノ規定ニ拘ラズ先ヅ主客ノ別アルトキハ第十三條ノ規定ニ拘ラズ先ヅ主客ノ別アルトキハ第十三條ノ規定ニ拘ラズ先ヅ主

客ノ別アルトキハ第十三條ノ規定ニ拘ラズ先ヅ主客ノ別アルトキハ第十三條ノ規定ニ拘ラズ先ヅ主客ノ別アルトキハ第十三條ノ規定ニ拘ラズ先ヅ主

客ノ別アルトキハ第十三條ノ規定ニ拘ラズ先ヅ主客ノ別アルトキハ第十三條ノ規定ニ拘ラズ先ヅ主客ノ別アルトキハ第十三條ノ規定ニ拘ラズ先ヅ主

客ノ別アルトキハ第十三條ノ規定ニ拘ラズ先ヅ主客ノ別アルトキハ第十三條ノ規定ニ拘ラズ先ヅ主客ノ別アルトキハ第十三條ノ規定ニ拘ラズ先ヅ主

客ノ別アルトキハ第十三條ノ規定ニ拘ラズ先ヅ主客ノ別アルトキハ第十三條ノ規定ニ拘ラズ先ヅ主客ノ別アルトキハ第十三條ノ規定ニ拘ラズ先ヅ主

客ノ別アルトキハ第十三條ノ規定ニ拘ラズ先ヅ主客ノ別アルトキハ第十三條ノ規定ニ拘ラズ先ヅ主客ノ別アルトキハ第十三條ノ規定ニ拘ラズ先ヅ主

ルルコト約三步ノ所ニ於テ敬禮ヲ行ヒタル後適宜

ニ前進シ之ヲ承ケ又ハ陳述シ若ハ申告シ終リテ原

位ニ復シ再ビ敬禮ヲ行ヒ退去スベシ
第四十三條 室内ニ於テ上級者ニ應答スルトキハ起立シ姿勢ヲ正スベシ但シ上級者許可スルトキハ著席ノ儘應答スルモ妨ゲナシ

第四十四條 上級者室内ニ來ルトキハ起立シテ敬禮ヲ行フベシ上級者室ヲ去ルトキ亦同ジ

第四十五條 訓授場又ハ教養場ニ訓授者又ハ教養者來ルトキハ在場者中ノ上級者又ハ豫メ定メラレタル者「氣ヲ著ケ」ノ號令ヲ下シ訓授者又ハ教養者定位ニ著キタルトキ「敬禮」ノ號令ニテ一齊ニ敬禮ヲ行フモノトス

訓授者又ハ教養者其ノ場ヲ去ルトキ亦前項ニ準ズ
第四十六條 室内ニ於テ訓授、教養又ハ作業中上級者來ルトキハ訓授者又ハ教養者若ハ監督者ノミ敬禮ヲ行フモノトス上級者室ヲ去ルトキ亦同ジ

第四十七條 同級又ハ下級ノ者室内ニ來リ敬禮ヲ行フトキハ同級ナルトキハ起立シテ答禮シ下級ナルトキハ其ノ儘答禮スルヲ妨ゲズ

第二款 室外ノ敬禮

第四十八條 室外ニ於テハ特ニ定アル場合ヲ除クノ外舉手注目ノ敬禮ヲ行フベシ但シ右手ヲ舉グルコト能ハザルトキハ其ノ儘受禮者ニ注目シ體ノ上部ヲ少シク前ニ傾クベシ

前項ノ敬禮ハ受禮者ヲ離ルルコト約六歩ノ所ニ於テ之ヲ行フモノトス

第四十九條 行進間ノ敬禮ハ歩調ヲ取ルコトナク速歩ニ於テ之ヲ行フモノトス

第五十條 上級者ノ許ニ到ルトキハ停止シテ敬禮ヲ行フベシ

第五十一條 船車内ノ敬禮ハ乗座ノ儘姿勢ヲ正シテ之ヲ行フヲ妨ゲズ但シ時宜ニ依リ注目シ體ノ上部ヲ少シク傾クルニ止ムルコトヲ得

船車内ニ於テハ上級者ニ其ノ席ヲ讓ルヲ禮トス
第五十二條 室外ニ於ケル書類其ノ他ノ物品授受ノ敬禮及上級者ヨリ命令若ハ諭告ヲ受ケ又ハ上級者ニ陳述若ハ申告ヲ爲ストキノ敬禮ハ第四十八條ノ規定ニ依ルノ外其ノ動作ハ概ネ第四十條乃至第四十二條ノ規定ニ準ジ之ヲ行フモノトス

第五十三條 上級者ト同行スルトキ單獨ナルトキハ

左側又ハ後方ニ著キ二人以上ナルトキハ其ノ兩側又ハ後方ニ著キ上級者ノ歩調ニ合スヲ禮トス但シ誘導者ハ此ノ限ニ在ラズ

第五十四條 廊下階段又ハ狹隘ナル通路橋梁等ニ於テ上級者ニ出會シタルトキハ立止リ又ハ便宜立戻リテ其ノ通過ヲ待ツベシ

第五十五條 自動車ニ乗車スルトキハ上級者ヲ先ニシ其ノ左側ニ著席シ下車スルトキハ上級者ヲ後ニスルヲ禮トス

第五十六條 警防部隊ニ對スル敬禮又ハ答禮ハ其ノ指揮者ニ對シ之ヲ行フベシ

第五十七條 非列ニ對スル敬禮ハ概ニ對シ之ヲ行フモノトス

第四節 警防部隊ノ敬禮
第五十八條 警防部隊ノ敬禮ハ受禮者隊列ノ約八歩前ニ近ヅクトキ之ヲ始メ隊列ヲ過ギタルトキ之ヲ止ム

第五十九條 行進間ニ於ケル警防部隊ノ敬禮ハ速歩ニ於テ之ヲ行フモノトス但シ時宜ニ依リ隊員ハ途

歩ノ儘トシ指揮者ノミ第四十九條ノ規定ニ準ジ敬禮ヲ行フヲ妨ゲズ

第六十條 警防團員ニ對スル警防部隊ノ敬禮ハ其ノ指揮者ヨリ上級ノ者ニ非ザレバ之ヲ行フコトナシ

第六十一條 警防部隊相互ノ敬禮ハ其ノ指揮者ノ階級下ナル者ヨリ先ヅ之ヲ行ヒ同級ナルトキ又ハ階級明ナラザルトキハ先後ヲ論ゼズ之ヲ行フモノトス

第六十二條 警防部隊ノ敬禮ハ獨立スル分隊、小隊又ハ中隊ニ在リテハ各隊毎ニ大隊ニ在リテハ中隊毎ニ之ヲ行フモノトス

第五節 警防船舶ノ敬禮
第六十三條 警防船舶ノ敬禮ハ第三十八條ノ場合ヲ除クノ外船舶ノ進行ヲ緩メ指揮者ノミ起立シテ第四十八條ノ規定ニ準ジ之ヲ行フベシ

前項ノ敬禮ハ受禮者ノ乗リタル船舶ヲ離ルルコト約十米ノ所ニ於テ之ヲ行フモノトス

第三章 禮閱式

第一節 通則

第六十四條 本令中觀閱式ト稱スルハ廉アル場合ニ

於テ行フ檢閱式及分列式ヲ謂フ

第六十五條 觀閱式ヲ閱スル者ヲ觀閱者ト稱ス

第六十六條 觀閱式ノ指揮者ハ觀閱者廳府縣長官又ハ之ト同等以上ノ者ナルトキハ警察部長(警視廳ニ在リテハ警務部長)又ハ其ノ代理者其ノ他ノ者ナルトキハ適宜之ヲ定ム

第六十七條 觀閱式ノ整頓ハ常ニ右方ヲ基準トス

第六十八條 檢閱式ニ列シ分列式ニ列セザル部隊ハ指揮者ノ定ムル位置ニ整列スルモノトス

第二節 檢閱式

第六十九條 檢閱式ノ隊形ハ縱隊橫隊ヲ一線ニ配列シタルモノトス但シ警防自動車其ノ他警防機具ハ

部隊ノ後方ニ其ノ先端ヲ一線ニ配列ス
前項ノ隊形ハ附圖第一圖ノ如シ

指揮者土地ノ狀況ニ依リ第一項ノ隊形ニ據リ難シト認ムルトキハ適宜他ノ隊形ト爲スコトヲ得

第七十條 檢閱ヲ受クルトキハ警防團旗ノ位置ハ其ノ部隊ノ右翼トス

第七十一條 觀閱者臨場シタルトキハ指揮者ハ「氣ヲ著ケ」ノ號令ヲ下シ觀閱者定位置ニ著キタルト

キハ第十一條ノ規定ニ依ル敬禮ヲ行フ次ニ指揮者ハ前進シテ人員ヲ報告シ次デ「休メ」ノ號令ヲ下シタル後觀閱者ヲ誘導ス

第七十二條 觀閱者各大隊ノ先頭約十步前ニ近ヅキタルトキ當該大隊長ハ「氣ヲ著ケ」ノ號令ヲ下シ舉手注目ノ敬禮ヲ行フベシ觀閱者各中隊ノ約八步前ニ近ヅキタルトキ當該中隊長ハ「頭——右」ノ號令ヲ下シ小隊長以上ハ舉手注目ノ敬禮ヲ行ヒ隊員ハ觀閱者ヲ目送スルモノトス

觀閱者當該中隊ヨリ約八步過ギタルトキ中隊長ハ「直レ」ノ號令ヲ下ス
觀閱者當該大隊ヨリ約十步過ギタルトキ大隊長ハ「休メ」ノ號令ヲ下ス

第七十三條 觀閱者退場ノトキハ臨場ノトキト同一ノ敬禮ヲ行フベシ

第三節 分列式

第七十四條 分列式ノ隊形ハ徒步部隊ニ在リテハ大隊縱隊トシ警防自動車部隊ニ在リテハ一列縱隊トス

徒步部隊ニ警防自動車部隊參加スルトキハ警防自

動車部隊ハ徒步部隊ノ後ニ續クモノトス

前各項ノ隊形ハ附圖第二圖ノ如シ

第七十五條 指揮者ハ敬禮始點及敬禮終點ニ標員ヲ置カシメタル後分列行進ヲ命ズ

前項標員ノ位置ハ附圖第三圖ノ如シ
前進ノ命令ニ依リ音樂隊又ハ喇叭隊ハ前進ヲ起シ吹奏ヲ始メ各大隊長ハ所定ノ距離ヲ得ルヲ待テ

「分列ニ前——進メ」ノ號令ヲ下スベシ
自動車ノ速度ハ毎時十六軒トス

第七十六條 指揮者ハ敬禮始點ニ到リタルトキ舉手

注目ノ敬禮ヲ行ヒ敬禮終點ヲ過ギタルトキ直ニ舊ニ復シ歩ヲ以テ右方ニ進出シ觀閱者ノ右側後ニ到リ舉手注目ノ敬禮ヲ行ヒタル後分列式終ル迄同所ニ位置スベシ

第七十七條 音樂隊又ハ喇叭隊ハ敬禮始點ヨリ約二十步前ニ到リタルトキ左側面行進ヲ爲シ適當ノ距離ニ於テ右ニ方向ヲ換ヘ觀閱者ニ正面シテ止リ連續吹奏スルモノトス

第七十八條 各中隊長ハ敬禮始點ニ達シタルトキ左ノ號令ヲ下スベシ

「頭——右」

小隊長以上ハ舉手注目ノ敬禮ヲ行ヒツツ行進ス但シ徒步部隊ノ分列式ニ在リテハ嚮導タル分隊長警防自動車部隊ノ分列式ニ在リテハ運轉者ハ始終正面ヲ直視スルモノトス
中隊後尾敬禮終點ヲ過ギタルトキ中隊長ハ左ノ號令ヲ下スベシ

「直レ」

小隊長以上ハ舉手注目ノ敬禮ヲ止メ隊員ハ頭ヲ舊ニ復シ引續キ行進スルモノトス

第七十九條 分列終リタル各隊ハ逐次指揮者ノ定ムル位置ニ到リ觀閱者退場ニ對スル敬禮ノ準備ヲ爲スベシ

第八十條 分列全ク終リタルトキハ指揮者ハ標員及音樂隊又ハ喇叭隊ヲ撤收シ歩ヲ以テ觀閱者ノ前面ニ到リ舉手注目ノ敬禮ヲ爲シ命ヲ俟ツベシ

第八十一條 觀閱者臨場及退場ノトキニ於ケル敬禮ハ第七十一條及第七十三條ノ規定ニ準ズ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

團旗把持セル者ハ他ニ特別ノ規定アル場合ノ外ハ列外ニ位置ス

前各項ノ準備終レバ指揮者ハ「休メ」ノ號令ヲ下シ點檢官（點檢者以下同ジ）ノ臨場ヲ待ツベシ
（第一圖参照）

第十條 點檢官第六條第一號ノ點檢ヲ行フ爲臨場シタルトキハ指揮者ハ「氣ヲ著ケ」ノ號令ヲ下シ次ニ點檢官定位ニ著キタルトキハ「注目」ノ號令ヲ下シ點檢官ニ對シ舉手注目ノ敬禮ヲ行ヒ各隊長及隊員ハ注目スベシ點檢官ノ答禮アリタルトキハ指揮者ハ「直レ」ノ號令ヲ下シタル後前進シテ人員ノ報告ヲ爲シ終リテ定位ニ著キテ順次左ノ號令ヲ下スベシ

- 一 番 號
- 二 嚮導（何）步前へ
- 三 右へ——準へ
- 四 直レ
- 五 前列五步前へ押伍列二步後へ——進メ（押伍列後へノ號令ハ押伍列アルトキニ限り附加スルモノトス後退ノ一步ノ長サハ概ネ四十程トス）

ラシムル爲ニ「（何）番基準（何）步間隔一列横隊作レ——進メ」ノ號令ヲ下シ次ニ「休メ」ノ號令ヲ下ス列員ハ豫メ指示セラレタル敬禮目標ニ對シ規定ニ從ヒ不動ノ姿勢ヲ取り敬禮ヲ行フベシ點檢官ハ適宜ノ地點ニ位置シ又ハ列ノ右方ヨリ其ノ前面ヲ通過シ點檢ヲ行フベシ但シ指揮者ハ點檢官ニ隨行スルモノトス

前條第二號ノ點檢ヲ行ハントスルトキハ列ノ右翼ニ出發點ヲ定メ點檢官及指揮者ハ適當ノ地點ニ位置シ指揮者ハ「休メ」ノ號令ヲ下シ次ニ「始メ」ノ號令ヲ下ス列員ハ右翼嚮導ヨリ順次左翼嚮導ニ至リ後列、押伍列ニ及ビ前進シ點檢官ニ對シテ敬禮ヲ行ヒ元ノ左翼嚮導ノ位置ニ相對シテ停止ス
（第二圖参照） 列員ハ出發點ニ到リタルトキハ不動ノ姿勢ヲ取り前者ノ敬禮終レバ指揮者ノ指揮ヲ待タズシテ出發スベシ

前條第三號乃至第五號ノ點檢ヲ行ハントスルトキハ指揮者ハ「前列一步前へ——進メ」ノ號令ヲ下シタル後列ノ中央前ニ出發點ヲ定メ點檢官及指揮者ハ適當ノ場所ニ位置シ指揮者ハ「休メ」ノ號令

六 後列五步押伍列六步前へ——進メ（押伍列前へノ號令ハ押伍列アルトキニ限り附加スルモノトス）

點檢官ハ前項第五號ノ號令ニ依ル動作終リタルトキハ第一列ノ右翼前面ヨリ左翼ヲ通過シ背後ニ回ハリ第二列及押伍列ニ及ボシ服裝、姿勢ヲ検査シ終リテ定位ニ著クモノトス其ノ間指揮者ハ點檢官ニ隨行スルモノトス

前項ノ點檢中點檢官ハ其ノ一部ニ對シ休憩ヲナサシムルコトヲ得

- 第十一條 點檢ヲ行フ禮式左ノ如シ
- 一 天皇ニ行フ警防團員ノ室外ノ敬禮
 - 二 警防團員ノ室内ノ敬禮
 - 三 天皇ニ行フ警防團員ノ室内ノ敬禮
 - 四 警防團員ノ室内ノ敬禮
 - 五 辭令書、物品等授受ノ敬禮
 - 六 天皇ニ行フ警防部隊ノ敬禮
 - 七 警防部隊ノ敬禮
- 第十二條 前條第一號ノ點檢ヲ行ハントスルトキハ指揮者ハ列員ヲ一列トナシ成ルベク廣ク間隔ヲ取

ラ下シ次ニ「始メ」ノ號令ヲ下ス但シ第三號ノ點檢ニ在リテハ豫メ敬禮目標ヲ指示スルモノトス前列員ハ各其ノ位置ヨリ出發點ニ到リ點檢終レバ左翼嚮導ノ背後ヨリ前後列員ノ中間ヲ通過シ舊位置ニ復シ後列員ハ各其ノ位置ヨリ右翼嚮導ノ右端ヲ通過シテ出發點ニ到リ點檢終レバ左翼嚮導ノ左端ヨリ後列ノ背後ヲ通過シテ舊位置ニ復スベシ押伍列員ハ後列員ノ例ニ倣フ點檢終レバ指揮者ハ「後列一步前へ——進メ」ノ號令ヲ下スベシ（第三圖参照） 出發及行進ニ付テハ前項ノ例ニ依ル

前條第六號ノ點檢ヲ行ハントスルトキハ指揮者ハ定位ニ著キ點檢官ハ列ノ右方ヨリ其ノ前面ヲ通過スベシ指揮者及列員ハ豫メ指示セラレタル敬禮目標ニ對シ規定ニ從ヒ敬禮ヲ行フベシ

前條第七號ノ點檢ノ方法ハ點檢官受禮者トナルノ外前項ニ準ズ

第十三條 禮式及教練ノ點檢ハ點檢官其ノ種目ヲ指定シテ之ヲ行フ

第十四條 中隊及大隊ニ在リテハ通常點檢ノ一部ヲ行ハザルコトヲ得

第十五條 第六條第二號ノ點檢ハ機械器具ノ保存手
入ノ良否及應急準備ノ適否ヲ検査スルモノトス
第十六條 第六條第三號ノ點檢ハ點檢官其ノ種目ヲ
指定シテ之ヲ行フ

第十七條 通常點檢終リテ點檢官退場スルトキハ第
十條第一項ノ規定ニ準ジ敬禮ヲ行フベシ

第三章 特別點檢

第十八條 特別點檢ハ左ノ各號ノ事項ニ付検査ヲ行
フモノトス

一 物品

二 機械及器具

第十九條 前條ノ點檢ハ毎年一回以上之ヲ行フモノ
トス

第二十條 第十八條第一號ノ點檢ハ被服、携帯品等
ノ正否及使用保存ノ當否ヲ検査スルモノトス其ノ
不適當ト認ムルモノハ速ニ修繕セシムベシ

第二十一條 第十八條第二號ノ點檢ハ左ノ各號ノ事
項ニ付検査ヲ行フモノトス但シ時宜ニ依リ其ノ一
部ヲ省略スルヲ妨グズ

一 機械

(イ) 腕用ポンプハ分解内部検査、真空試験及放
水試験

(ロ) 蒸氣ポンプハ汽罐ノ水壓試験、ポンプノ真
空試験及放水試験

(ハ) ガソリンポンプハ原動機ノ氣筒壓縮壓力試
験、ポンプノ真空試験及放水試験

二 器具

(イ) 吸管、水管ノ修理及保存ノ良否

(ロ) ポンプ附屬品ノ完否

(ハ) 各豫備品及消耗品ノ整否

(ニ) 救護救命器具、破壊器具並工作器材及救急
衛生材料ノ整否及其ノ保存手入ノ良否

(ホ) 防毒具、檢定器、消毒用器具及藥品ノ整否
性能ノ良否並ニ保存方法ノ適否

第二十二條 指揮者ハ前條ノ點檢ニ先チ検査ニ便ナ
ル準備ヲ爲サシムベシ

當該機械ヲ擔當スル者ハ機械ノ後方ニ整列シ必要
アルトキハ其ノ操作運用ニ從事スベシ

第二十三條 點檢官ハ第二十一條ノ規定ニ依リ検査
ヲ爲シ必要ト認ムルトキハ修理又ハ補充ヲ命ズベシ

第四章 現場點檢

第二十四條 現場點檢ハ防空、水火消防、其ノ他ノ
警防作業終リタルトキ現場ニ於テ左ノ各號ノ事項
ニ付検査ヲ行フモノトス

一 人員及服裝

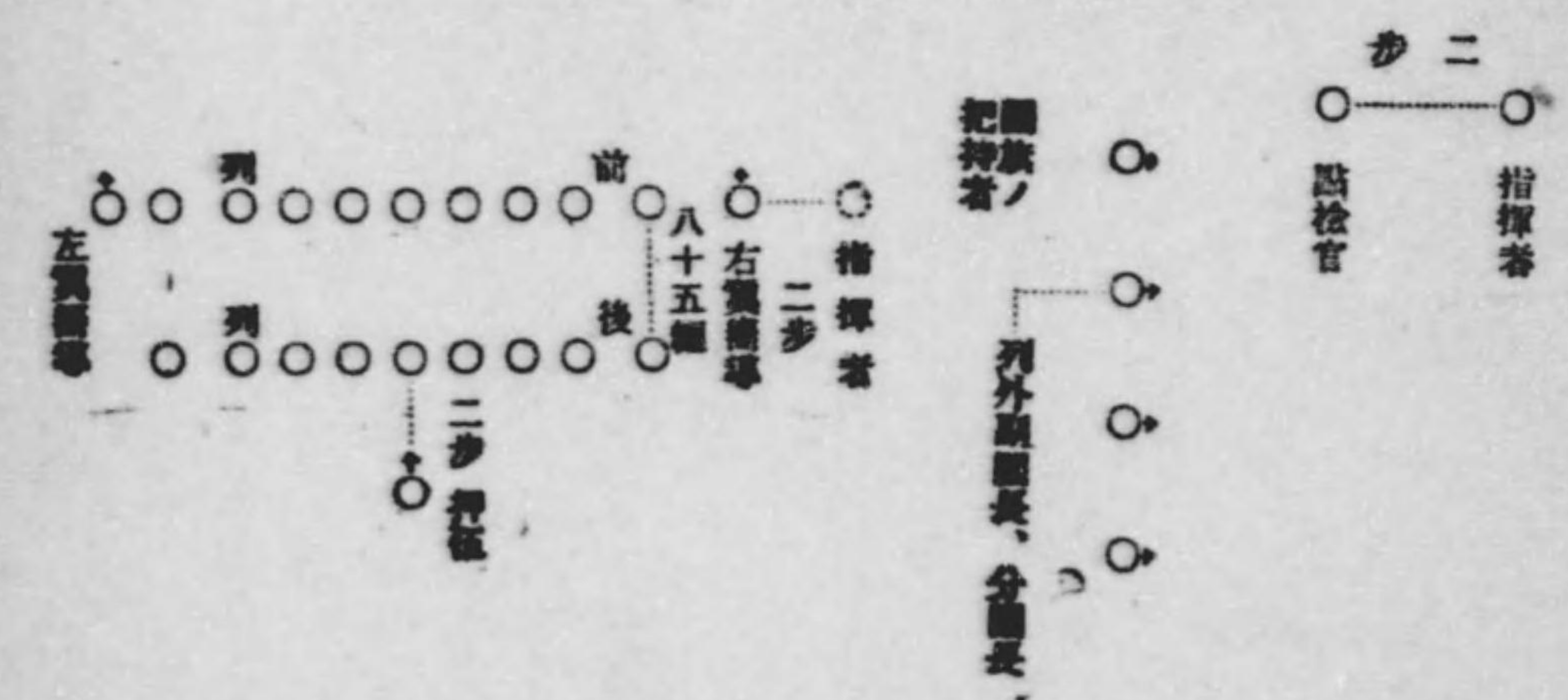
二 機械及器具

第二十五條 警防團員ニシテ傷痕ヲ受ケ又ハ物品若
ハ機械器具ヲ毀損シ又ハ滅失シタルトキハ集合後
指揮者ニ申告シ點檢官ノ検査ヲ受クベシ

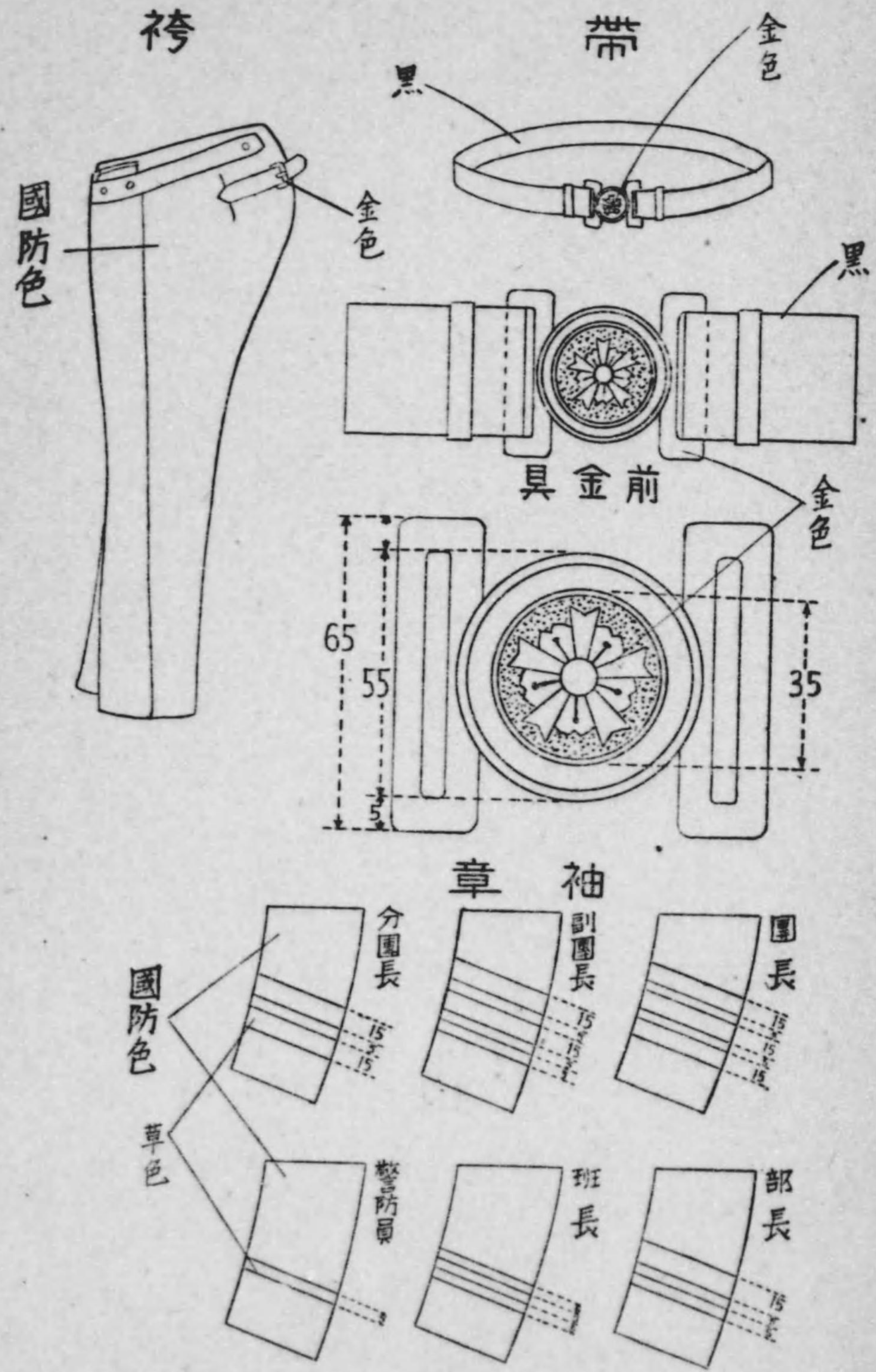
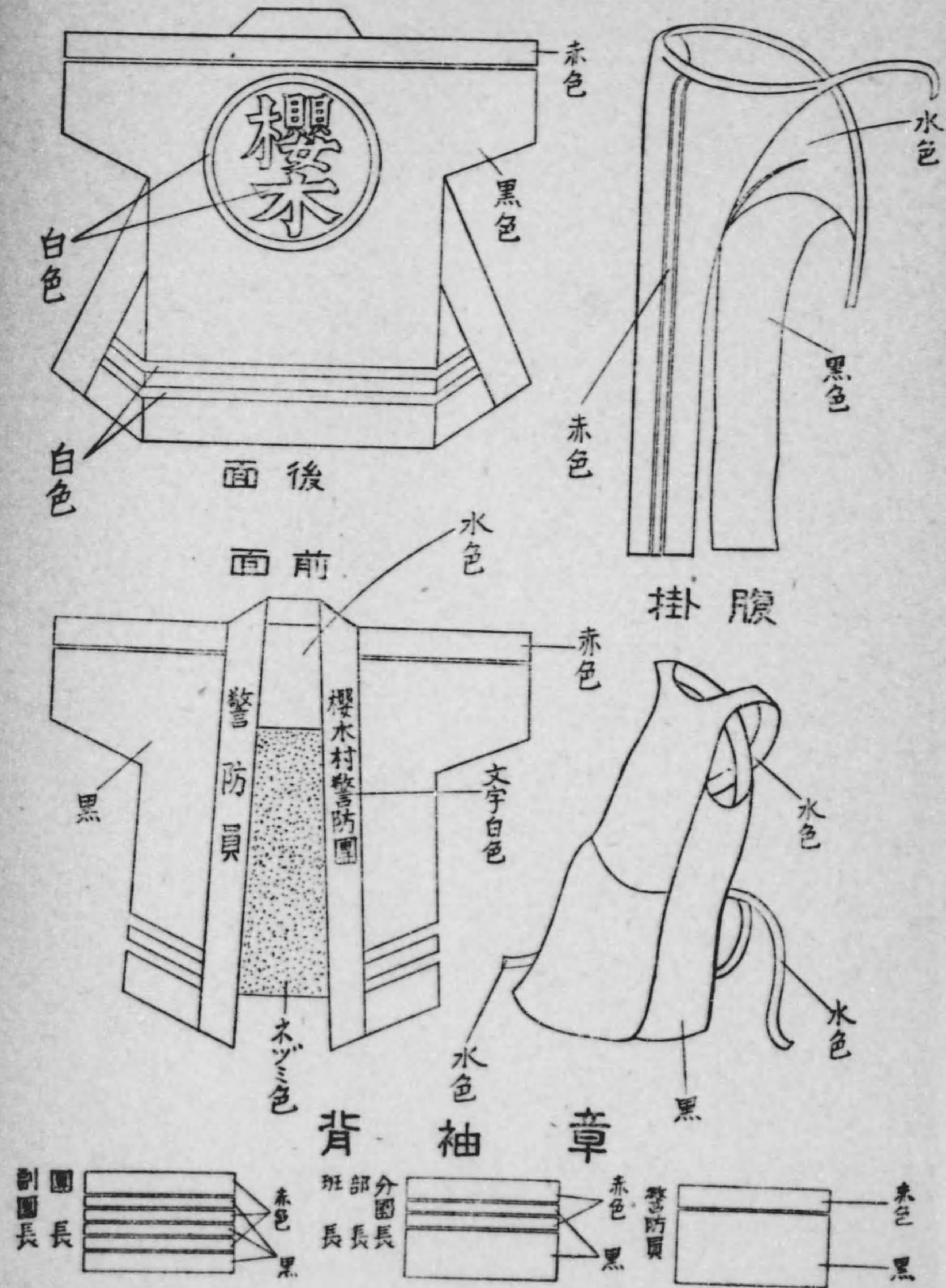
附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
消防組點檢規則ハ之ヲ廢止ス

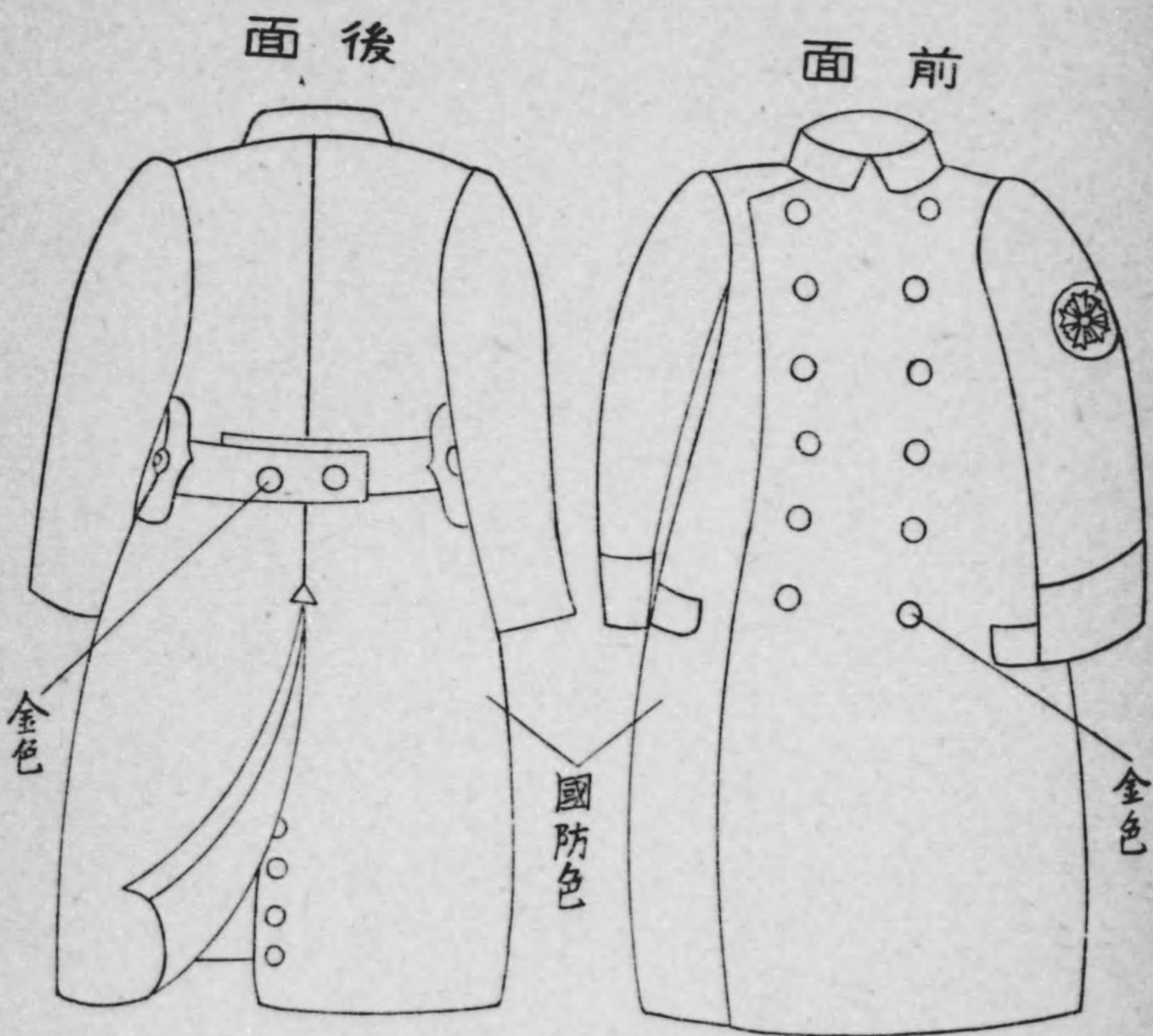
附 圖 一 (條九第)



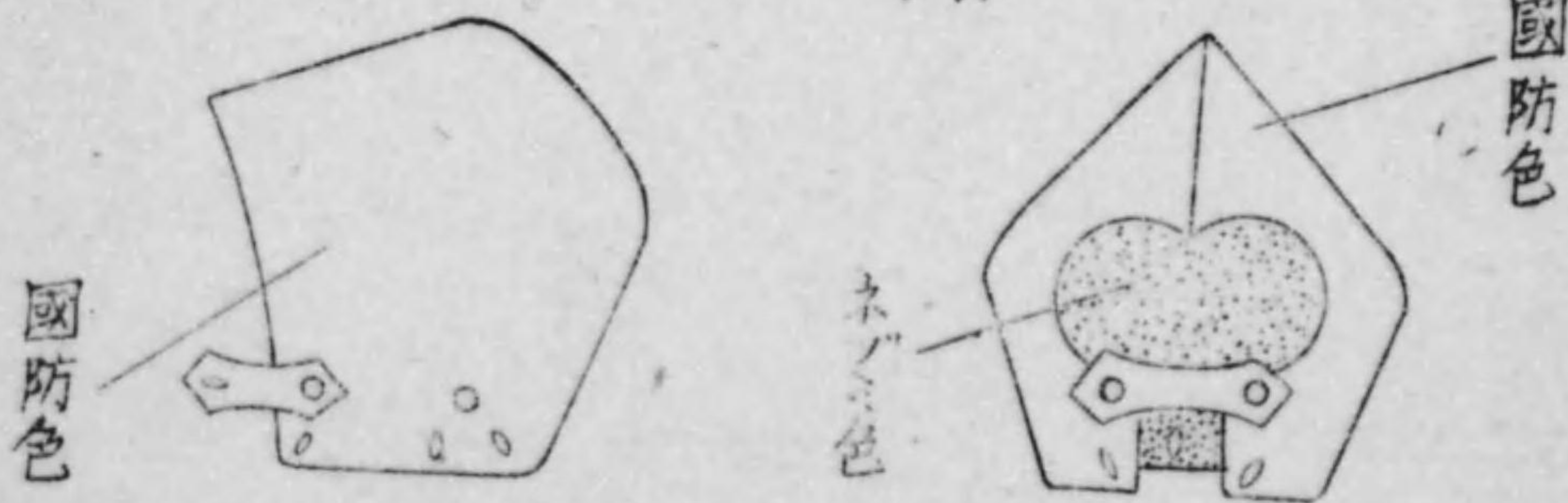
被法種乙引股



外套



頭巾



警防團ノ服制ニ關スル件

(昭和十四年三月三十日警保局長、計畫局長)
(甲第五十二號)

警防團員ノ服制ニ關シテハ目下當省ニ於テ考究中ニ有之近ク之ヲ決定訓令相成ルベキ管ナルモ之ガ決定迄ハ概ネ左記ニ依リ警防團員ノ標識ヲ定メ之ガ統一ヲ圖ララル様致度

記

一 帽 章

從來消防組員又ハ防護團員等ノ帽ヲ使用スル場合ハ其ノ徽章ヲ消防組員服制甲號ニ依ル帽章ハ徑四五耗ノ眞鍮打出又ハ之ガ類似品ニ依ル警防團徽章ニ戰團帽型ノ帽章ハ黃絨徑二〇耗ノ警防團徽章ニ改ムルコト(圖例參照)

二 法 被

1 從來消防組員ノ使用セル法被ヲ使用セシムル場合ハ左襟ノ消防組名及右襟ノ消防組名職名ノ部分ヲ縫付又ハ貼付其ノ他適當ノ方法ニ依リ警

防團名及警防團員職名ニ改ムルコト

2 背袖章ハ其ノ儘トシ消防組頭用ノモノハ團長及副團長ニ消防小頭用ノモノハ分團長部長及班長ニ消防手用ノモノハ警防員ニ用キシムルコト

三 胸 章

白絨地又ハ之ガ類似品ニ青線ヲ以テ製セル徑約五〇耗ノ警防團徽章ヲ洋服ノ右胸部ニ附シ一見警防團員タルコトヲ明ニスルコト(圖例參照)

四 腕 章

腕章ハ各府縣ニ於テ業務別又ハ階級別等適宜其ノ必要ニ應ジ色若ハ文字ヲ以テ統一制定スルコト(圖例) 省略

警防團員服制ニ關スル件

(昭和十四年七月十九日內務省發令)
(第五十七號 警保局長、計畫局長)

今般內務省訓令第十二號ヲ以テ警防團員服制訓令相成候處右ハ警防團員ノ服制ヲ齊一ニシ規律ノ嚴正ト活動ノ敏活ヲ期セントスルノ趣旨ニ依リタルモノナルモ之ガ實施ニ際シテハ現下ノ時局ニ鑑ミ早急ニ調

製シテ俄ニ物資ヲ費消シ且ハ市町村經費ヲ増昂セシムルガ如キハ極力之ヲ避ケ已ムヲ得ズ新調ヲ要スルモノヨリ順次齊整スル方法ヲ講ゼラレ度、尙左記各項ニ御留意相成様致度右申進候

記

- 一 從來ノ消防組員制服又ハ防護團員服其ノ他之ニ類スル服ヲ有スル向ニ付テハ本年三月三十日付警保局警發甲第五十二號通牒ノ趣旨ニ依リ之ヲ使用セシムルコト
- 二 服裝ヲ分チテ甲乙二種トシタルハ地方ノ實狀、團員ノ勤務狀況、市町村財政ノ狀慮其ノ他ニ稽ヘ適宜之ヲ選擇セシメムトスルノ趣旨ニ依ルモノナルヲ以テ其ノ兩種ヲ併セテ給與セザルハ勿論故ラニ甲種ヲ用ヒシムルガ如キコト無キ様注意セラレタキコト
- 三 同一警防團ノ團員ニシテ甲種、乙種ヲ混用スルハ規律統制上望マシカラザルモ差當リ可成班又ハ部等比較的小單位ヲ基準トシテ服裝ヲ統一シ順次其ノ齊整ヲ期スベキコト但シ分團長以上ハ甲種ヲ

- 用ヒ部(班)長以下ハ乙種ヲ用フル等ハ妨ゲナキコト
- 四 甲種ノ著裝ヲ爲シ儀式ニ參列シ又ハ特ニ指定スル場合ハ卷脚絆ヲ用ヒザルコトヲ得但シ團體行動ヲ爲ス場合ニハ之ガ著裝ノ齊一ヲ期スルコト
- 五 卷脚絆及短靴ニ代ヘ黑色長靴ヲ、卷脚絆ニ代ヘ皮製ゲートルヲ用ヒ又ハ短靴ニ代ヘ黑色地下足袋ヲ用フルモ妨ゲナキコト
- 六 長靴又ハ卷脚絆ヲ用フルトキハ短袴ヲ使用スルモ妨ゲナキコト
- 七 業務上必要アル場合ニ於テハ短靴又ハ地下足袋ヲ代ヘ鞋ヲ用フルモ妨ゲナキコト
- 八 乙種制服ノ法被ヲ刺子トスルモ差支ナキコト
- 九 分團長以下ノ乙種制服左襟ノ所屬表示ハ團名(必要アル場合ハ分團名)ニ止メ部、班名ハ表示セザルコト
- 一〇 佩刀ニ類スルモノハ一切之ヲ帶用セシメザルコト
- 一一 顧問ノ服裝ハ團長ニ準ジ之ヲ定ムルコト、但シ襟章ハ徑一〇耗ノ金色警防團徽章三個ニ代フル

コト (別圖参照)

- 一 地方ノ情況ニ依リ特ニ外套ヲ用キシムル必要アル場合ハ別記外套例ニ依リ其ノ制式ヲ定メラルコト
- 二 班別又ハ勤務別ヲ表示スル腕章ハ適宜其ノ必要ニ應ジ色若ハ文字ヲ以テ統一制定スルコト
- 三 分團長以上ハ左膊部ニ外套例中腕章ト同一制式ノ腕章ヲ附スルコト
- 四 警防團關係官公吏ハ顧問ノ服裝ニ準ズル服裝ヲ爲シ得ルモ其ノ他一般人ニ對シテハ警防團服制類似ノ服裝ヲ禁ズルコト

警防團員服制ニ關スル件

(昭和十四年八月十七日 警保局長 警發甲第百三十九號)

標記ノ件實施上疑義ニ關シ往々照會ノ向モ有之候處之ガ實施ニ關シテハ本年七月十九日付内務省發警第五七號警防團員服制ニ關スル件依命通牒ニ依ルノ外左記各項ニ御留意相成度

記

- 一 甲種服制襟部ニハ規定以外ノ徽章等ハ之ヲ附セザルコト、所屬團、分團又ハ業務等ノ標識ヲ必要トスル場合ハ適宜腕章ニ之ヲ表示スルコト
- 二 副分團(部、班)長ノ服制ハ甲種、乙種共分團(部、班)長ノ服制ニ依ルコト但シ腕章ニ副等ノ表示ヲ爲スコト
- 三 常備消防部長其ノ他警防團本部長等ニハ地方ノ實狀又ハ業務ノ特殊性等ヲ考慮シ適宜副團長又ハ分團長等ヲ之ニ充ツルコトヲ得ベキヲ以テ斯ル場合ハ其ノ服制ハ副團長、分團長ノ服制ニ依ルコトヲ得ルコト
- 四 顧問ノ服制ニ付テハ曩ニ通牒セル所ナルガ警防團活動ニ直接關係ナキ者等ニハ可及的通常服裝ノ腕部ニ顧問タルノ表示ヲ附セシムルニ止メルコト
- 五 曩ニ通牒セル警防團關係官公吏ハ警察官等ノ如ク他ニ服制ノ定メアル者ヲ除キ職務上直接警防團ニ關係アル官公吏ノ意ニシテ其ノ範圍ハ廳府縣長官、市町村長等成ルベク小範圍ニ限ラルルコト

警防團員服制ニ關スル件
依命通牒

(昭和十六年三月二十八日)
警防團長 計畫局長

警防團分團長以上ノ者甲種制服着用ノトキハ昭和十四年七月十九日內務省發警第五七號依命通牒ニ依リ左上膊部ニ警防團徽章付腕章ヲ附スルコトト相成居候處爾今之ヲ用ヒザルコトト致度候

附 錄

內務省官制(抄)

第九條 計畫局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 都市計畫ニ關スル事項

二 防空ニ關スル事項

第十二條ノ三 內務省ニ専門委員ヲ置キ防空ニ關スル専門ノ事項ヲ調査セシム

専門委員ハ內務大臣ノ奏請ニ依リ學識經驗アル者ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズ

専門委員ノ任期ハ二年トス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ任期中之ヲ解任スルコトヲ妨ゲズ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス (內務省官制(抄) 附則 第三百七十五號)

第十二條ノ四 內務大臣ハ防空研究所ヲ置キ防空ニ關スル研究、講習及防空資材ノ檢定ノ事務ヲ掌ラ

シム

防空研究所ニ所長ヲ置キ技師ヲ以テ之ニ充ツ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス (昭和十四年七月三十一日 內務省官制 第五百十七號)

內務省防空研究所分課規程

(昭和十四年七月三十一日 內務省官制 第五百十七號)

第一條 防空研究所ニ左ノ課及部ヲ置ク

庶務課

研究部

講習部

檢定部

第二條 庶務課ハ左ノ事項ヲ掌ル

一 人事ニ關スル事項

二 所長ノ官印並所印ノ管守ニ關スル事項

本規程ハ昭和十四年七月三日ヨリ之ヲ施行ス

防空救護組織要綱

第一總則

- 一 空襲ニ因ル傷病者(毒瓦斯被害者ヲ含ム以下之ニ同ジ)ノ救護ハ左ノ救護機關ニ於テ之ヲ行フコト
 - (一) 警防團救護部(班)
 - (二) 救護所
 - (三) 特設救護班
- 二 各救護機關ノ組織、編成、擔任區域、業務等ニ關シテハ法令及本要綱ニ依ルノ外道府縣防空計畫又ハ市町村防空計畫ノ定ムル所ニ依ルコト
- 三 本要綱ハ原則トシテ防空法第二條ノ規定ニ依ル指定市町村ノ區域ニ之ヲ適用スルモノナルコト

第二 警防團救護部(班)

- 一 警防團救護部(班)ハ空襲時現場ニ於ケル傷病者ノ救急處置、收容等ノ應急救護業務ニ從事スルコト

- 三 會計ニ關スル事項
- 四 文書ノ接受及發送ニ關スル事項
- 五 成案文書ノ審査及進達ニ關スル事項
- 六 他ノ所管ニ屬セザル事項

第三條 研究部ハ左ノ事項ヲ掌ル

- 一 防空監視、通信及警報ニ關スル調査研究
- 二 燈火管制及偽裝ニ關スル調査研究
- 三 防空消防ニ關スル調査研究
- 四 防毒及救護ニ關スル調査研究
- 五 防空土木施設ニ關スル調査研究
- 六 防空建築ニ關スル調査研究
- 七 防空資材ニ關スル調査研究
- 八 其ノ他防空ニ關スル調査研究

第四條 講習部ハ左ノ事項ヲ掌ル

- 一 防空委員ノ講習ニ關スル事項
- 二 其ノ他防空ニ關スル講習ニ關スル事項

第五條 檢定部ハ左ノ事項ヲ掌ル

- 一 防毒資材取締規則ニ依ル檢定ニ關スル事項
- 二 防毒資材ノ試験ニ關スル事項

附則

- 二 警防團救護部(班)ハ必要ニ應ジ其ノ區域内ニ應急處置所ヲ設置スルコト
- 三 警防團救護部(班)ハ常ニ救護所、特設救護班等ト緊密ナル連絡ヲ保持シ傷病者ノ救護上遺漏ナキヲ期スルコト
- 四 警防團救護部(班)ハ消防機關、防毒機關ト特ニ緊密ナル連絡ヲ保持スルコト
- 五 地方長官ハ道府縣醫師會ト協議ノ上警防團救護部(班)ノ部(班)長等ニハ成ルベク醫師ヲ以テ之ニ充ツルコト

第三 救護所

- 一 救護所ハ主トシテ空襲ニ因ル傷病者ノ治療、收容ヲ擔當スルコト
- 二 救護所ハ成ルベク既存ノ救護所防護室、官公署ノ管理スル診療所、一般診療所及之ニ所屬スル醫師、齒科醫師、藥劑師、看護婦等ヲ以テ之ニ充ツルコト

尙一時ニ多數患者ノ救護ヲ要スル場合アルベキヲ豫想シ學校、寺院其ノ他適當ト認ムル場所ヲ救護所トシテ指定シ置クコト

- 三 救護所ハ敏速ニ救護ノ處置ヲ講ジ得ル様成ルベク多數之ヲ配置スルコト
- 四 警察署長又ハ市町村長ハ道府縣防空計畫又ハ地方長官ノ指示ニ基キ關係官公署及醫師會、齒科醫師會又ハ藥劑師會ト協議シ當該市町村ノ區域内適當ナル箇所ニ救護所ヲ開設シ區域内ノ醫師、齒科醫師、藥劑師、看護婦其ノ他ノ者ヲシテ救護ニ從事セシムル計畫ヲ設定スルコト
- 五 警察署長又ハ市町村長ハ前項ノ計畫ニ基キ看護婦會、女子青年團等ト空襲時救護ニ從事スベキ者ノ出動等ニ關シ豫メ協議ヲ爲シ置クコト
- 六 醫師會、齒科醫師會ハ第四項ノ計畫ニ基キ所屬ノ醫師、齒科醫師ヲシテ救護所ヲ開設セシメ救護業務ニ從事セシムルコト
- 七 藥劑師會ハ第四項ノ計畫ニ基キ所屬ノ藥劑師ヲシテ救護所ニ於テ調劑ノ業務ニ從事セシムルコト
- 七 救護所ノ所有者又ハ管理者ハ警戒警報發令アリタルトキハ直ニ救護所ヲ開設シ何時ニモ救護ヲ爲シ得ル如ク設備資材其ノ他諸般ノ準備ヲ爲スコト

八 救護所ノ所有者又ハ管理者前項ノ準備完了シタルトキハ救護所ノ所在及入口ヲ著明ニ標示シ夜間ハ標識燈ヲ掲グルコト

第四 特設救護班

一 道府縣、市町村並ニ地方長官又ハ市町村長ヨリ指定セラレタル者ハ救護所ニ於テ救護ニ從事スル者以外ノ所屬ノ現有機關ヲ以テ直屬救護班ヲ設ケ地方長官、警察署長又ハ市町村長ノ指示ヲ受ケ警防團救護部(班)又ハ救護所ノ應援ニ從事セシムルコト

二 醫師會、齒科醫師會ハ警防團救護部(班)又ハ救護所ニ於テ救護ニ從事スル者以外ノ所屬ノ醫師、齒科醫師ヲ以テ適宜救護班ヲ設ケ地方長官、警察署長又ハ市町村長ノ指示ヲ受ケ他ノ救護機關ノ應援共ノ他救護業務ニ從事セシムルコト

家庭防空隣保組織要綱

一方 針

(一) 家庭防空隣保組織ハ國民防空ガ國民全般ノ

自衛行爲ヲ基調トスルモノナルコト特ニ我國都市構成ノ現狀ヨリシテ應急ノ自衛消防ノ強化充實ヲ急務トスルモノナルニ鑑ミ防空ニ關スル自主的自衛的機關タラシムルコト

(二) 家庭防空隣保組織ハ前項ノ趣旨ニ基キ小單位ノ機構タラシメ我國古來ノ隣保團結、近隣相扶ノ舊慣ノ發揚ニ資セシムルコト

(三) 家庭防空隣保組織ハ自治的機關タラシムルコトヲ本旨トシ官公署ハ必要ニ應ジ適宜之ヲ指導スルコト

(四) 家庭防空隣保組織ノ指導ニ當リテハ有事ニ處スル精神訓練ヲ第一義トシ併セテ實際ニ即シタル有效適切ナル活動要領ヲ訓練スルコトヲ主眼トシ豫メ必要ナル設備資材ヲ整備シ且所要ノ計畫ヲ準備セシムルコト

二 任務

家庭防空隣保組織ハ組織内ニ於ケル消防、燈火管制、警報傳達其ノ他防護ノ共助ヲ任務トシ就中都市ニ於テハ應急消防ニ重點ヲ置キ其ノ他ノ地域ニ於テハ情況ニ依リ適宜重點ヲ定ムルコト

三 組織及編成

(一) 家庭防空隣保組織ハ國民ノ自發的積極的發意ニ基キ設置スルヲ本旨トシ市町村長及警察消防署長ハ協力シテ之ガ幹旋ニ當ルコト

(二) 家庭防空隣保組織ハ可成全國ニ之ヲ設置シ特ニ都市ニ於テハ速カニ之ガ充實強化ヲ期スルコト

(三) 家庭防空隣保組織ハ隣保協力ニ便ナル十戸内外ヲ以テ之ヲ組織スルコト

(四) 衛生教化、親睦、經濟更生等ノ爲ニ存スル隣保協同組織ニシテ本要綱ニ適合スルモノアル場合ニ於テハ之ヲシテ家庭防空隣保組織ノ任務ヲ行ハシムルコト

(五) 家庭防空隣保組織ヲ聯合シタル組織ハ活動團體トシテハ之ヲ認メザルコト

(六) 家庭防空隣保組織ト市町村長又ハ警察消防署長トノ連絡機關トシテハ前項ノ聯合組織又ハ既存ノ町會、部落會等ヲ以テ之ニ充ツルコト

(七) 家庭防空隣保組織ニハ責任者二名(正副各一名トス)ヲ置キ組織内各戸ノ長ノ合議ニ依リ

之ヲ定ムルコトトシ其ノ他ニハ役員ヲ設ケザルコト

(八) 家庭防空隣保組織ノ責任者ハ組織ヲ代表シ組織ノ任務達成ニ努ムルコト

四 育成及指導

(一) 家庭防空隣保組織ノ育成ハ主トシテ市町村長之ニ當ルコト

但シ土地ノ情況ニ依リ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

(二) 家庭防空隣保組織ノ行動ノ指導統制ハ市町村長、警察消防署長各其ノ擔當スル防空業務ニ應ジ之ニ當ルコト

五 經費

(一) 家庭防空隣保組織ニ關スル費用ハ組織内各戸ノ負擔ヲ原則トスルコト

必要ニ依リ市町村費又ハ部落協議費ヨリ之ヲ支出シ又ハ補助スルコトヲ得ルコト

工場防空研究会

會 則

- 第一條 本會ハ工場、鑛山其ノ他事業場ニ關スル防空事項ヲ調査研究シ其ノ促進ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ハ前條ノ目的ヲ達スル爲左ノ事項ヲ行フ
- 一 防空ニ關スル諸般ノ調査研究
 - 二 防空施設ノ整備普及
 - 三 其ノ他必要ト認ムル事項
- 第三條 本會ハ規模大ナル工場、鑛山其ノ他事業場ノ關係者並ニ官公署ノ關係官及學識經驗アル者ヲ以テ之ヲ組織ス
- 第四條 本會ハ防空事項ノ調査研究ノ便ニ資スル爲業應其ノ他ニ依リ部門ヲ設ク
- 第五條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
- 幹事長 一名

幹事 若干名
書記 若干名

第六條 幹事長ハ内務省計畫局長ノ職ニ在ル者ヲ以テ之ニ充ツ

幹事及書記ハ幹事長之ヲ委嘱ス

第七條 本會ニ顧問若干名ヲ置クコトヲ得

顧問ハ幹事會ノ推薦ニ依リ幹事長之ヲ委嘱ス

第八條 會議ハ總會、部會及幹事會トシ幹事長之ヲ招集ス

第九條 本會ノ事務所ハ内務省計畫局内ニ之ヲ置ク

第十條 本則ニ規定スルモノノ外必要ナル事項ハ幹事長ノ定ムル所ニ依ル

研究項目

- 一 工場位置ノ選定及配置ニ關スル事項
 - 二 工場敷地ノ單位ニ關スル事項
 - 三 工場ノ建物其ノ他ノ施設ノ配置ニ關スル事項
 - 四 空地及綠地ニ關スル事項
 - 五 建物其ノ他ノ施設ノ防空的構造ニ關スル事項
- (1) 建物ノ防火及耐彈構造ニ關スル事項

(2) 重要施設ノ防火、耐彈及防毒構造ニ關スル事項

(3) 貯藏施設ノ防護構造ニ關スル事項

(4) 工場、鑛山ノ防空ノ原則ニ關スル事項

(5) 防空計畫(防護計畫)ノ設定ニ關スル事項

(6) 監視、通信及警報傳達方法ニ關スル事項

(7) 一般ノ燈火及特殊火焰ノ秘匿方法ニ關スル事項

(8) 統一管制ノ實施及之ガ必要處置ニ關スル事項

(9) 燈火管制時ニ於ケル作業能率ニ關スル事項

(10) 防火方法ニ關スル事項

(11) 防毒方法ニ關スル事項

(12) 待避ノ方法及統制ニ關スル事項

(13) 救護方法及救護施設ノ利用ニ關スル事項

(14) 工作方法ニ關スル事項

(15) 偽裝方法ニ關スル事項

(16) 防空資材ノ需給ニ關スル事項

(17) 防護機關ニ關スル事項

(18) 防護機關(特設防護團)ノ組織ニ關スル事項

(2) 防護要員及一般従業員ノ教養訓練ニ關スル事項

八 設備資材ノ整備ニ關スル事項

部 門

第一部門 製絲業、紡績業、織物業、人造絹絲業、製紙業、其ノ他

第二部門 金屬精鍊業、金屬品製造業、窯業、船舶製造業、機械製造業、車輛製造業、器具製造業、其ノ他

第三部門 發火物製造業、瓦斯業、製藥業、染料製造業、人造肥料製造業、製油業、其ノ他

第四部門 電氣業、其ノ他

第五部門 鑛山

財團 大日本防空協會寄附行爲

(昭和十四年四月二十八日許可)
(昭和十六年三月三十一日一部改正)

第一章 總 則

第一條 本會ハ財團法人大日本防空協會ト稱ス

第二條 本會ハ事務所ヲ東京市麹町區永田町一丁目十七番地ニ置ク

第二章 目的及事業

第三條 本會ハ防空思想ヲ普及徹底シ防空事業ノ促進ヲ圖リ以テ國土防空ノ完成ニ寄與スルコトヲ目的トス

第四條 本會ハ前條ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ

- 一 防空ニ關スル調査研究
- 二 防空知識ノ普及徹底
- 三 防空勤務員ノ養成
- 四 防空ニ關スル設備及資材ノ整備ノ獎勵
- 五 防空機關ノ援助
- 六 防空訓練ノ援助
- 七 防空功勞者ノ表彰並ニ防空殉職者傷病者及其ノ遺家族ノ弔慰援護
- 八 防空ニ關シ關係當局ニ對スル意見ノ具申
- 九 前各號ノ外本會ノ目的ヲ達スル爲必要ナル事項

第三章 資産及會計

第五條 本會ノ資産ハ左ニ掲グルモノトス

- 一 本會設立ノ際ニ於ケル資産
- 二 本會ノ事業又ハ財産ヨリ生ズル收益
- 三 支部分擔金
- 四 政府補助金
- 五 寄附金
- 六 其ノ他ノ收入

第六條 本會ノ資産ハ郵便官署、確實ナル銀行ニ預入レ若ハ信託ニ付シ又ハ國債地方債其ノ他確實ナル有價證券ヲ買入ルモノトス但シ特別ノ事情アル場合ハ常議員會ノ議決ヲ經テ不動産ヲ買入ルコトヲ得

第七條 本會ハ常議員會ノ議決ヲ經テ資産中ヨリ基本財産ヲ定ム基本財産ハ常議員三分ノ二以上ノ同意アル場合ニ限り之ヲ處分スルコトヲ得

第八條 本會ノ經費ハ資産ヲ以テ之ニ充ツ

第九條 本會ノ豫算ハ毎年度常議員會ノ議決ヲ經テ之ヲ定メ決算ハ其ノ認定ニ付スルモノトス

第十條 本會ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

第四章 會 員

第十一條 本會ノ會員ヲ分チテ左ノ七種トス

- 一 名譽會員 學識名望アル者又ハ本會ノ益特ニ功勞アル者ニシテ常議員會ニ於テ推薦シタル者
- 二 特別有功會員 金一萬圓以上ヲ一時ニ若ハ五ヶ年以内ニ寄附スル者又ハ之ニ相當スル功勞アリタル者
- 三 有功會員 金一千圓以上ヲ一時ニ若ハ五ヶ年以内ニ寄附スル者又ハ之ニ相當スル功勞アリタル者
- 四 特別會員 金一百圓以上ヲ一時ニ若ハ五ヶ年以内ニ寄附スル者又ハ之ニ相當スル功勞アリタル者
- 五 正會員 金五十圓以上ヲ一時ニ若ハ五ヶ年以内ニ寄附スル者又ハ之ニ相當スル功勞アリタル者
- 六 普通會員 金三十圓以上ヲ一時ニ若ハ五ヶ年以内ニ寄附スル者又ハ之ニ相當スル功勞アリタル者
- 七 贊助會員 金一圓以上ヲ一時ニ寄附スル

者又ハ贊助ノ實績アリタル者

第十二條 會員ニシテ本會ノ名譽ヲ毀損シ又ハ本會ニ不利益ナル行爲アリト認ムルトキハ常議員會ノ議決ヲ以テ除名スルコトアルベシ

會員ニシテ退會セムト欲スルモノハ書面ヲ以テ届出ヅベシ

第五章 總裁、會長、副會長、顧問、委員及役職員

第十三條 本會ニ總裁ヲ置ク

總裁ニハ皇族ヲ奉戴ス

第十四條 本會ニ會長一名、副會長五名以内ヲ置ク

第十五條 會長ハ内閣總理大臣ノ職ニ在ル者ヲ推薦ス

副會長中三名ハ内務大臣、陸軍大臣及海軍大臣ノ職ニ在ル者ヲ推戴シ其ノ他ハ會長ノ推薦ニ依リ總裁之ヲ委嘱ス

第十六條 本會ニ顧問若干名ヲ置ク

顧問ハ會長ノ推薦ニ依リ總裁之ヲ委嘱ス

顧問ハ總裁ノ諮問ニ應ズ

第十七條 本會ノ事業遂行ノ爲必要アリト認ムルト

キハ委員ヲ置クコトヲ得委員ハ會長ノ推薦ニ依リ
總裁之ヲ委囑ス

第十八條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

- 一 理事 一 名
- 二 理事 若干名
- 三 監事 若干名
- 四 常議員 若干名
- 五 評議員 若干名

第十九條 理事長、理事、監事及常議員ハ評議員中
ヨリ會長ノ推薦ニ依リ總裁之ヲ委囑ス

理事中若干名ヲ常務理事トシ會長之ヲ囑託ス

第二十條 評議員ハ會長之ヲ囑託ス

第二十一條 理事長ハ本會ヲ代表シ會務ヲ總理ス
理事長事故アルトキハ會長ノ指定シタル理事其ノ
職務ヲ代理ス

第二十二條 監事ハ本會ノ會計及報告ヲ監査ス

第二十三條 評議員ハ會長ノ諮問ニ應ジ意見ヲ陳述
ス

第二十四條 理事長、理事、監事及常議員ノ任期ハ
二年トス但シ重任ヲ妨グズ

官職ニ在ルノ故ヲ以テ役員タル者ノ任期ハ其ノ在
職期間トス役員ノ任期満了ノ場合ニ於テハ其ノ後
任者ノ就任スル迄ハ前任者ニ於テ其ノ職務ヲ行フ

第二十五條 本會ニ左ノ職員ヲ置ク

- 幹事 若干名
- 主事 若干名
- 書記 若干名

第二十六條 幹事ハ會長之ヲ囑託ス

幹事ハ理事長ノ指揮ヲ承ケ會務ヲ掌理ス

第二十七條 主事及書記ハ理事長之ヲ命免ス
主事及書記ハ上職ノ命ヲ受ケ庶務ニ従事ス

第六章 理事會及常議員會

第二十八條 理事會ハ左ノ事項ヲ議決ス

- 一 常議員會ニ提出スベキ議案
- 二 常議員會ノ議決ヲ要スルモノニシテ臨時急施
ヲ要シ理事長ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナシト認
メタル事項
- 三 常議員會ノ議決ヲ要スルモノニシテ其ノ委任
ヲ受ケタル事項
- 四 其ノ他理事長ニ於テ必要ト認メタル事項

前項第二號ノ規定ニ依ル處置ニ付テハ理事長ハ次
回ノ會議ニ於テ之ヲ常議員會ニ報告スベシ

第二十九條 常議員ハ豫算其ノ他重要ナル事項ヲ議
決ス

第三十條 理事會及常議員會ハ理事長之ヲ招集ス

會議ノ議長ハ理事長之ニ當ル理事長事故アルトキ
ハ其ノ指名スル者之ニ當ル

第三十一條 常議員會ハ常議員三分ノ一以上出席ス
ルニ非ザレバ會議ヲ開クコトヲ得ズ

常議員會ノ議決ハ出席員ノ過半数ニ依リ之ヲ決シ
可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

常議員ハ豫メ出席員ニ委任シ書面ヲ以テ議決ヲ爲
スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ出席員ト看做ス

第三十二條 會議ヲ招集スベキ場合ニ於テ理事長ハ
時宜ニ依リ書面ヲ以テ意見ヲ徵シ會議ニ代フルコ
トヲ得

第七章 會員章、有功章

第三十三條 會員ニハ本會所定ノ會員章ヲ交付ス

第三十四條 防空ニ關シ功績アル者又ハ本會ノ事業
ニ特ニ功勞アル者ニ對シテハ別ニ定ムル所ニ從ヒ

有功章ヲ贈與ス

第八章 支部

第三十五條 本會ニ支部ヲ置ク

支部ニ關スル規則ハ別ニ之ヲ定ム

第九章 雜則

第三十六條 本會附行爲ハ常議員三分ノ二以上ノ同
意ヲ得主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ變
更スルコトヲ得ズ

第三十七條 本會附行爲施行ノ爲必要ナル細則ハ會
長之ヲ定ム

第三十八條 總裁奉戴ニ至ル迄ノ間ハ副會長(官職
ニ在ルノ故ヲ以テ副會長タル者ヲ除ク)、理事長、
理事、監事及常議員ハ會長之ヲ委囑ス

第三十九條 本會附行爲ニ依ル理事ノ就任スルニ至
ル迄ノ間ハ左ノ者ヲ以テ理事トス

內務次官 館 哲 二

內務省計畫局長 松村 光 磨

陸軍省兵務局長 中村 明 人

海軍省軍務局長 井上 成 美

附 則 (昭和十六年三月三十一日一部訂正附則)

第二條改正ノ施行期日ハ會長之ヲ定ム
本改正ハ改正以前ノ事實ニ對シテモ之ヲ適用ス
但シ改正以前ニ於テ一圓未満ノ釀出金ヲ納付シタル
者ハ本改正規定ニ拘ラズ贊助會員トス

財團 法人大日本防空協會支部規則

(昭和十四年四月二十八日制定)

第一條 本會支部ハ別ニ定ムル場合ヲ除クノ外道府
縣ニ之ヲ置ク
第二條 支部ノ會則ハ會長ノ承認ヲ受クベシ
第三條 支部ニ左ノ役員ヲ置ク
支部長 一名
副支部長 若干名
評議員 若干名
幹事 若干名
第四條 支部長及副支部長ハ會長之ヲ囑託ス
支部長ハ支部ノ事務ヲ統轄ス
副支部長ハ支部長ヲ補佐シ支部長事故アルトキハ
支部長ノ指定スル副支部長之ヲ代理ス

第五條 評議員ハ支部長之ヲ囑託ス
第六條 幹事ハ支部長之ヲ囑託ス
幹事ハ支部長ノ指揮ヲ承ケ事務ヲ掌理ス
第七條 官職ニ在ル者ヲ除キ役員ノ任期ハ二年トス
但シ重任ヲ妨ゲズ

第八條 支部ニ顧問ヲ置クコトヲ得
顧問ハ支部長ノ推薦ニ依リ會長之ヲ囑託ス
顧問ハ支部長ノ諮問ニ應ズ
第九條 支部ノ事務施行ノ爲必要ナル職員ヲ置キ支
部長之ヲ命免ス
第十條 評議員會ハ支部長之ヲ招集ス
評議員會ハ重要事項ヲ審議ス
第十一條 支部ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル
第十二條 支部ノ豫算及決算ハ會長ニ報告スルモノ
トス
支部ハ毎年度事業計畫ヲ定メ會長ニ報告スルモノ
トス
第十三條 支部ハ寄附金ヲ募集セムトスルトキハ豫
メ會長ニ報告スルモノトス
第十四條 支部ハ毎年四月末日迄ニ前年度ノ事務ヲ

左記ニ依リ會長ニ報告スルモノトス
イ 會員ノ種類別員數
ロ 財産ノ狀況
ハ 實施シタル事業ノ概要
第十五條 支部處務ノ細則ハ支部長之ヲ定メ會長ニ
報告スルモノトス

財團 法人大日本防空協會(何)道府縣

(昭和十四年四月二十八日制定)

支部會則準則

第一條 本支部ハ財團法人大日本防空協會(何)道
府縣支部ト稱ス
第二條 本支部ハ事務所ヲ(何)道府縣廳内ニ置ク
第三條 本支部ハ財團法人大日本防空協會支部規則
ニ依ル支部トス
第四條 本支部ノ所管財産ハ支部長之ヲ保管ス
第五條 本支部ノ所管財産中現金ハ郵便官署又ハ確
實ナル銀行ニ預入レ若ハ確實ナル信託會社ニ信託
シ又ハ國債證券其ノ他確實ナル有價證券ヲ買入レ
之ヲ保管スルモノトス

第六條 本支部ノ經費ハ本支部所管財産及之ヨリ生
ズル收入、補助金、寄附金其ノ他ノ收入ヲ以テ支
辨ス
第七條 本支部ノ豫算ハ毎年評議員會ノ議決ヲ經テ
之ヲ定メ財團法人大日本防空協會會長ニ報告スルモノ
トス

第八條 本支部ノ決算ハ評議員會ノ認定ニ附シ財團
法人大日本防空協會會長ニ報告スルモノトス

第九條 支部長ハ北海道廳長官(何)府縣知事ノ官
職ニ在ル者ニ就キ財團法人大日本防空協會會長之ヲ
囑託ス

第十條 支部長ハ本支部ノ事務ヲ統轄シ本支部ヲ代表ス
副支部長ハ左ノ者ニ就キ財團法人大日本防
空協會會長之ヲ囑託ス

一 道府縣警察部長ノ官職ニ在ル者
二 其ノ他支部長ノ推薦シタル者
副支部長ハ支部長ヲ補佐シ支部長事故アルトキ警
察部長タル副支部長其ノ職務ヲ代理ス
(二ノ參考 重要都市ノ市長又ハ助役、商工會議
所會頭ノ職ニ在ル者其ノ他名望家學識經驗者等)

第十一條 幹事ハ防空主務課長ノ職ニアル者及本支部ノ事業ニ密接ノ關係アル官公職ニ在ル者ノ中ヨリ支部長之ヲ囑託ス

第十二條 評議員ハ本支部ノ事業ニ密接ノ關係アル官職ニ在ル者、本支部ニ功績アル者及本支部ノ事業ニ關シ知識經驗アル者ノ中ヨリ支部長之ヲ囑託ス

第十三條 役員ハ任期滿了後ト雖モ後任者ノ就任スル迄其ノ職ヲ行フモノトス

第十四條 本支部ノ事務施行上ノ爲メ左ノ職員ヲ置ク

主事 若干名
書記 若干名

第十五條 主事及書記ハ支部長之ヲ命免ス

主事及書記ハ上職ノ命ヲ受ケ庶務ニ從事ス

第十六條 評議員會ノ議長ハ支部長之ニ當ル

第十七條 評議員會ノ議事ハ出席者ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十八條 評議員會ノ職務權限左ノ如シ

一 歳入歳出豫算ヲ議決スルコト

二 歳入歳出決算ヲ認定スルコト
三 毎年度ノ事業計畫ヲ決定スルコト
四 其ノ他支部長ニ於テ必要ト認メタル事項

第十九條 評議員會ノ議決ヲ要スル事項ニシテ臨時急施ヲ要スルモノ又ハ輕易ナルモノハ支部長ニ於テ之ヲ專決處理スルコトヲ得

財團 大日本防空協會寄附行爲 施行細則

(昭和十四年四月二十八日制定)

第一條 本會ニ左ノ三部ヲ置ク

一 第一部
一 第二部
一 第三部

第二條 各部ニ於ケル事務分掌左ノ如シ

第一部
一 文書及人事ニ關スル事項
一 防空機關ノ援助ニ關スル事項
一 表彰及弔慰授護ニ關スル事項
一 會計經理ニ關スル事項

一 其ノ他他部ニ屬セザル事項

第二部

一 調査研究ニ關スル事項

一 防空勤務員ノ養成ニ關スル事項

一 設備及資材ノ整備ノ獎勵ニ關スル事項

第三部

一 防空知識ノ普及及徹底ニ關スル事項

一 防空訓練ノ援助ニ關スル事項

第三條 各部ノ分課ハ理事長之ヲ定ム

第四條 部長ハ常務理事ヲ以テ之ニ充テ其ノ分掌ハ會長之ヲ定ム

第五條 課長ハ主事又ハ書記ヲ以テ之ニ充テ理事長之ヲ命免ス

第六條 事務ノ都合ニ依リ囑託、雇員ヲ置クコトヲ得

囑託及雇員ハ理事長之ヲ命免ス

第七條 本會ハ財産目錄ヲ備ヘ本會財産ノ種類員數ヲ明ニス

第八條 本會ハ常議員會ノ議決ヲ經テ特別會計ヲ設クルコトヲ得

第九條 常議員會ノ認定ニ付スベキ決算ニハ監事ノ意見ヲ添付スベシ

第十條 常議員會ハ豫算ニ關シテハ毎年三月中ニ、決算ニ關シテハ九月中ニ開催スルヲ例トス

第十一條 常議員會ニ於ケル議事ノ願末ハ議事録ニ登錄シ理事長及出席常議員二名以上之ニ署名捺印スベシ

第十二條 役員等ガ本會ノ用務ノ爲要シタル經費ハ之ヲ支辨シ又其ノ慰勞等ノ爲金品ヲ贈與スルコトヲ得

第十三條 處務、會計、職員ノ給與其ノ他必要ナル規程ハ理事長之ヲ定ム

附 則

本則ハ昭和十四年四月二十八日ヨリ之ヲ實施ス

財團 大日本防空協會表彰規程

(昭和十五年三月二十六日制定)

第一條 寄附行爲第四條第七號ノ規定ニ依ル表彰ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ行フ

一 特別有功章 防空ニ關シ功績拔群ニシテ一般ノ勳績タルベキ者

二 有功章 防空ニ關シ功績特ニ顯著ナル者

三 表彰狀 防空ニ關シ功績顯著ナル者
前項第一號及第二號ノ規定ニ依リ表彰ヲ受クル者團體ナルトキハ特別有功章又ハ有功章ニ代ヘ特別有功章又ハ有功章ヲ贈與ス

第二條 特別有功章(又ハ特別有功章)及有功章(又ハ有功章)ニハ表彰狀ヲ併セ贈與ス

表彰狀ニハ金品ヲ併セ贈與スルコトヲ得

第三條 本會支部長ハ第一條ニ該當スル者アリト認ムルトキハ之ヲ會長ニ具申スベシ

附 則

本規程ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ本規定施行前ノ事實ニ對シテモ之ヲ適用スルヲ妨グズ

財團大日本防空協會弔慰援護規程

(昭和十五年三月二十六日制定)

第一條 寄附行爲第四條第七號ノ規定ニ依ル弔慰援護

護ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ行フ

一 弔 慰 金 職務ノ爲死亡シタルトキ一時金千圓以内

二 瘡疾見舞金 職務ノ爲不具瘡疾トナリタルトキ一時金五百圓以内

三 傷痍見舞金 職務ノ爲傷痍疾病ヲ受ケ醫療久シキニ涉リタルトキ一時金貳百圓以内

第二條 前條第一號ノ弔慰金ヲ受領スベキ遺家族及其ノ順位左ノ如シ

第一 配偶者

第二 直系卑屬

第三 直系尊屬

第四 戶 主

第五 兄弟姉妹

前項第二號及第五號ニ該當スル者數人アルトキハ其ノ順位ニ付テハ民法第九百七十條、同第三號ニ該當スル者數人アルトキハ其ノ順位ニ付テハ民法第九百八十四條ノ規定ヲ準用ス

第一項第二號、第三號及第五號ニ該當スル者ハ殉職者死亡ノ時ヨリ引續キ其ノ家ニ在ルコトヲ要ス

二 空襲ニ際シ職務執行中死亡シタルトキ

五〇〇圓以上七〇〇圓以下

三 空襲ニ際シ職務執行ノ爲赴キ又ハ赴カムトシ事故又ハ疾病ニ因リ死亡シタルトキ

二〇〇圓以上五〇〇圓以下

四 防空訓練ニ際シ重大ナル過失ナク職務上事故又ハ疾病ニ因リ死亡シタルトキ

一〇〇圓以上四〇〇圓以下

第三條 弔慰援護規程第一條第二號ノ規定ニ依ル瘡疾見舞金ノ給與ハ左ノ區分ニ依ル

一 一眼ノ視力ガ視標〇、一ヲ二メートル以上ニテハ辨別シ得ザルモノ、兩耳ノ聽力が耳鼓ニ接セザレバ大聲ヲ解シ得ザルモノ、咀嚼又ハ言語ノ機能ニ大ニ妨ゲアルモノ、一肢以上(腕關節若ハ足關節以上)ヲ失ヒタルモノ

前條第一、二號ノ場合
三〇〇圓以上五〇〇圓以下

同條第三、四號ノ場合
一〇〇圓以上四〇〇圓以下

二 其ノ他前號ニ準ズル精神的又ハ肉體的の不具障

但シ殉職者死亡後出生シタル嫡出子ハ死亡ノ時ヨリ引續キ其ノ家ニ在ルモノト看做ス

第三條 本會支部長ハ第一條ニ該當スル者アリト認ムルトキハ之ヲ會長ニ具申スベシ

附 則

本規程ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ本規定制定前ノ事實ニ對シテモ之ヲ適用スルヲ妨グズ

財團大日本防空協會弔慰援護規程

(昭和十五年十一月二十二日制定)

施行細則

第一條 大日本防空協會弔慰援護規程(以下弔慰援護規程ト稱ス)第一條ノ規定ニ依ル弔慰金瘡疾見舞金及傷痍見舞金ノ給與ハ本細則ノ定ムル所ニ依リ之ヲ行フ

第二條 弔慰援護規程第一條第一號ノ規定ニ依ル弔慰金ノ給與ハ左ノ區分ニ依ル

一 空襲ニ際シ危害ヲ豫想シ得ルニ拘ラズ之ヲ同シテ職務執行中死亡シタルトキ

七〇〇圓以上一、〇〇〇圓以下

害ヲ受ケタルモノ

一〇〇圓以上四〇〇圓以下

第四條 弔慰授護規程第一條第三號ノ規定ニ依ル傷

痍見舞金ノ給與ハ左ノ區分ニ依ル

醫療三十日以上

第二條第一、二號ノ場合 三〇圓以下

同 條第三、四號ノ場合 二〇圓以下

醫療六十日以上

第二條第一、二號ノ場合 七〇圓以下

同 條第三、四號ノ場合 五〇圓以下

醫療百日以上

第二條第一、二號ノ場合 一五〇圓以下

同 條第三、四號ノ場合 一〇〇圓以下

醫療三百日以上

第二條第一、二號ノ場合 二〇〇圓以下

同 條第三、四號ノ場合 一五〇圓以下

前項ノ醫療日數ニハ醫師ノ指示ニ依ル柔道整復術

ノ治療若ハ之ニ準ズルモノヲ包含ス

第五條 弔慰授護規程第二條ノ親族中ニハ法定ノ手

續ヲ缺クモ其ノ實アルモノハ之ヲ包含スルモノトス

第六條 支部長弔慰金又ハ見舞金給與ノ具申ヲ爲サ

ムトスルトキハ左ノ事項ヲ具申スベシ

一 事故(死亡又ハ不具癡疾若ハ傷害)ノ原因ト

ナリタル事實ノ生ジタル場所、日時及發生狀況

(事故ノ發生ガ本人ノ過失ニ因リタルモノナル

トキハ其ノ程度詳細)

二 本人ノ本籍地、現住所地、氏名、職業、年齢

及閱歴ノ大要(警防團員ナリヤ否ヤノ點ヲモ附

記)

三 弔慰金ノ給與ニ在リテハ前各號ノ外死亡診斷

書又ハ死體檢案書、戶籍謄本、弔慰金ヲ受領ス

ベキ者ノ氏名、年齢、死亡者トノ續柄(前條ノ

規定ニ該當スル者ナルトキハ之ヲ證スルニ足ル

書類)及遺家族ノ生活狀態

四 見舞金ノ給與ニ在リテハ第一號及第二號ノ外

機能障害ノ程度又ハ傷害ノ程度ヲ詳記シタル診

斷書

五 防空法第十二條ノ規定ニ依リ葬祭ニ要スル費

用ノ支給ヲ受クル者ナルトキハ其ノ旨並ニ支給

ヲ受クル額

六 事故ニ對シ支部ノ探リタル措置

七 其ノ他參考トナルベキ事項

財團 大日本防空協會會員取扱規程

(昭和十六年三月制定)

第一條 本會ノ趣旨ニ賛同シ金圓ヲ寄附セムトスル

者ハ別記第一號様式ニ依リ本會又ハ本會道府縣支

部長(以下單ニ支部長ト稱ス)ニ申込マルベシ

第二條 寄附金ハ指定期日迄ニ之ヲ納付セラルベシ

但シ寄附申込ミト同時ニ其ノ全額又ハ一部ヲ納付

スルヲ妨グズ

第三條 本會本部又ハ支部ハ會員名簿ヲ備ヘ會員ノ

住所地、氏名、會員ノ種別其ノ他必要ナル事項ヲ

登録シ之ヲ保存スベシ

本會本部ニ於テ會員名簿ニ登録シタル者ニ在リテ

ハ其ノ謄本ヲ會員ノ住所所轄支部ニ移送ス

第四條 寄附金第一回分以上(贊助會員ハ全額)ヲ

納付シタルトキハ相當會員章及章記ヲ交付ス

第五條 會員章交付後更ニ寄附金ノ増額申込ミアリ

タルトキハ既納付金額ヲ通算シ前條ノ例ニ依リ相

當會員章及章記ヲ交付ス

第六條 寄附行爲第十一條第一號及第二號乃至第七

號後段ノ規定ニ依リ本會ノ會員ト爲リタル者ニ對

シテハ其ノ都度相當會員章及章記ヲ交付ス

第七條 寄附行爲第十二條第二項ノ規定ニ依ル會員

退會届ハ別記第二號様式ニ依ラルベシ

第八條 會員除名ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ會員

章及章記ヲ支部ニ返還セラルベシ

第九條 會員章ハ之ヲ左肋ニ佩用セラルベシ

會員章ハ本人ニ限り終身之ヲ佩用スルコトヲ得

第十條 會員章ヲ毀損シ又ハ紛失シタルトキハ第三

號様式ニ依リ相當ノ料金ヲ添ヘ再交付ヲ請求スル

コトヲ得

第十一條 會員住所地ヲ變更シタルトキハ別記第四

號様式ニ依リ直ニ其ノ旨支部、新住所地支部所轄

ヲ異ニスルトキハ前住所地所轄ノ支部ニ届出デラ

ルベシ

第十二條 支部長前條後段ノ届出ヲ受理シタルトキ

ハ速ニ新住所地所轄支部ニ對シ會員名簿(又ハ謄

本ノ送付、届出人ノ新住所地ノ通知其ノ他必要ナル手續ヲ爲スベシ

第十三條 會員死亡シタルトキハ其ノ遺族ヨリ別記

第五號様式ニ依リ直ニ其ノ旨支部ニ届出デラルベシ

第十四條 本規程ノ施行ニ關シ支部ニ於テ必要ナル細則ハ支部之ヲ定ム

第一號様式

寄附申込書

貴會ノ趣旨ニ賛同シ金何圓也寄附致シ度此段申込候也

追テ寄附金ハ一時ニ(向フ何ケ年間年々金何圓)納付可致候

年 月 日

住所地

何 某 團

財團法人大日本防空協會長又ハ何支部長殿

第二號様式

會員退會届

會員種別

退會事由

年 月 日

住所地

何 某 團

財團法人大日本防空協會長又ハ何支部長殿

第三號様式

會員章再交付請求書

會員種別

再交付ヲ要スル事由

年 月 日

住所地

何 某 團

財團法人大日本防空協會長又ハ何支部長殿

第四號様式

住所移轉届

舊住所地

新住所地

右ノ通り 年 月 日 住所移轉ニ付及届出候

會員種別

何 某 團

財團法人大日本防空協會長又ハ何支部長殿

第五號様式

會員死亡届

會員氏名

會員種別

右ノ者 年 月 日 死去致シ候ニ付及届出候

住所地

會員トノ續柄 氏 名 團

財團法人大日本防空協會長又ハ何支部長殿

財團法人大日本善防協會寄附行爲

(昭和四年九月十七日內務省警務第五號政令許可) 十四年五月二十六日改正法第十五条三月四日認可)

第一章 總 則

第一條 本會ハ財團法人大日本善防協會ト稱ス

第二條 本會ハ事務所ヲ東京市麹町區丸ノ内一丁目八番地五ニ置ク

第三條 本會ハ皇族ヲ總裁ニ奉戴ス

第二章 目的及事業

第四條 本會ハ善防思想ヲ普及徹底シ善防活動ノ改善發達ヲ圖リ以テ善防ノ完備ニ寄與スルヲ目的トス

第五條 本會ハ前條ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ

- 一 善防ニ關スル調査研究
- 二 善防思想ノ普及徹底
- 三 雜誌圖書ノ刊行頒布
- 四 善防團員(善防團令第十八條ノ團體員ヲ含ム以下之ニ同シ)及善防關係者ノ知識技能ノ向上

五 警防團員又ハ其ノ遺族ニ對スル弔慰救濟
六 警防團(警防團令第十八條ノ團體ヲ含ム以下
之ニ同ジ)並ニ警防團員又ハ警防ニ關シ特ニ功績
顯著ナルモノノ表彰

七 其ノ他本會ノ目的ヲ達スル爲必要ナル事項

第三章 會 員

第六條 本會ニ左ノ會員ヲ置ク
一 名譽會員 學識名望アル者及本會ノ爲特ニ功
勞アル者

二 特別會員 本會ノ事業ヲ翼賛シ其ノ功績顯著
ナル者

三 贊助會員 本會ノ趣旨ヲ贊助シ金品ヲ寄贈シ
タル者

四 正會員 警防團員

第七條 名譽會員、特別會員及贊助會員ハ理事會ニ
於テ之ヲ推薦ス

第四章 役員、顧問及職員

第八條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
一 會 長
二 副會長

三 理 事
四 監 事
五 常 議 員
六 代 議 員

第九條 會長ハ内務大臣ノ職ニ在ル者ヲ推戴ス
會長ハ本會ヲ代表シ會務ヲ總理ス

第十條 副會長ハ二名トシ理事中ヨリ會長之ヲ囑託
ス

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ其ノ職
務ヲ代理ス

第十一條 理事ハ二十名以内トス
會長ハ理事トス 其ノ他ノ理事ハ常議員中ヨリ會
長之ヲ囑託ス

第十二條 理事中三名ヲ常務理事トシ會長之ヲ囑託
ス

常務理事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ事務ヲ管理シ會長及
副會長共ニ事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第十三條 監事ハ三名以内トシ名望アル者ニ付會長
之ヲ囑託ス

第十四條 常議員ハ左ニ掲タル者ニ付會長之ヲ囑託
ス

一 第十五條第一項第一號ノ代議員ニ於テ互選シ
タル者

二 學識經驗ヲ有スル者

三 内務次官、内務省警保局長、内務省計畫局
長、警保局警務課長及計畫局防空課長ノ職ニ在
ル者

前項第一號ニ規定スル互選ハ別表ノ定ムル互選區
毎ニ各別ニ之ヲ行フ、各互選區ニ於ケル常議員ノ
定員ハ互選者タル代議員數十名迄ノモノニ在リテ
ハ一名トシ、之ヲ超ユルモノニ在リテハ代議員數
十名又ハ其ノ端數毎ニ一名トス

第十五條 代議員ハ左ニ掲タル者ニ付會長之ヲ囑託
ス

一 警防團長(警防團令第十八條ノ團體長ヲ含ム
以下之ニ同シ)ノ職ニ在ル者ニ付支部長(朝鮮
ニ在リテハ地方部長以下之ニ同シ)ノ推薦シタ
ル者

二 廳府縣並ニ在リテハ警防主管課長(警
視廳官制及特設消防署規定ニ依リ消防署ヲ設置

スル府縣ニ在リテハ消防主管課長ヲ含ム)臺灣
總督府及朝鮮總督府ニ在リテハ其ノ課ノ主任ノ
職ニ在ル者

前項第一號ノ代議員ノ各支部(朝鮮ニ在リテハ地
方部以下之ニ同シ)ニ於ケル定員ハ其ノ選任ノト
キノ屬スル年度ニ於ケル其ノ支部分擔金カ支部分
擔金平均額迄ノモノニ在リテハ一名トシ之ヲ超ユ
ルモノニ在リテハ平均額又ハ其ノ端數毎ニ一名ト
ス但シ三名ヲ超ユルコトヲ得サルモノトス

前項ノ定員ハ任期滿了ニ因ル改任ノ場合ニ非サレ
ハ之ヲ變更セズ

第十六條 役員ノ任期ハ二年トス但シ官職ニ在ルノ
故ヲ以テ役員タル者ノ任期ハ其ノ在職期間トス警
防團長タルノ故ヲ以テ役員ニ選任セラレタル者其
ノ任期中團長ヲ辭任シタルトキハ其ノ職ヲ失フモ
ノトス補缺ニ依リ就任シタル役員ノ任期ハ前任者
ノ殘任期間トス

役員ハ任期滿了後ト雖後任者ノ就任ニ至ル迄ノ間
尙ホ其ノ職務ヲ行フ

第十七條 本會ニ顧問並ニ技術顧問ヲ置ク

顧問、技術顧問ハ會長之ヲ囑託ス

本會會長及副會長タリシ者ハ本會ノ顧問トス

顧問ハ會長ノ諮問ニ應シ意見ヲ開申ス

技術顧問ハ本會ノ調査研究ヲ指導シ若ハ會長ノ諮問ニ應シ技術上ノ意見ヲ開申ス

第十八條 本會ニ幹事ヲ置キ會長之ヲ命免ス

幹事ハ常務理事ノ指揮ヲ承ケ事務ヲ掌理ス

第十九條 本會ニ主事、技師、書記、技手ヲ置キ會長之ヲ命免ス

主事、技師、書記、技手ハ幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第二十章 會議

第二十一條 代議員會ハ豫算其ノ他ノ重要ナル事項ヲ議決ス

第二十二條 常議員會ハ左ノ事項ヲ議決ス

一 代議員會ニ提出スヘキ議案

二 代議員會ノ議決ヲ要スルモノニシテ臨時急務ヲ要シ會長ニ於テ之ヲ召集スルノ暇ナシト認メタル事項

三 代議員會ノ議決ヲ要スルモノニシテ其ノ委任ヲ受ケタル事項

ヲ受ケタル事項

四 其ノ他會長ニ於テ必要ト認メタル事項

第二十二條 理事會ハ左ノ事項ヲ議決ス

一 常議員會ノ議決ヲ要スル事項ニシテ臨時急務ヲ要シ會長ニ於テ之ヲ召集スルノ暇ナシト認メタル事項

二 其ノ他會長ニ於テ必要ト認メタル事項

前項ノ規定ニ依ル處置ニ付テハ會長ハ次回ノ常議員會ニ之ヲ報告スヘシ

第二十三條 代議員會、常議員會及理事會ハ會長之ヲ召集ス

會議ノ議長ハ會長之ニ當ル

第二十四條 會議ノ議事ハ出席者ノ過半数ニ依リ之ヲ決シ可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第二十五條 會議ヲ召集スヘキ場合ニ於テ會長ハ時宜ニ依リ警面ヲ以テ意見ヲ徵シ會議ニ代フル事ヲ得

第六章 資産及會計

第二十六條 本會ノ資産ハ別紙資産目錄ノ動産及不動産トス

前項ノ資産中現金ハ之ヲ本會ノ基金トス

基金ハ之ヲ處分スルコトヲ得ス但シ已ムヲ得サル事由ニ依リ代議員會ノ議決ヲ經タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條 本會ノ資産及收入中現金ハ郵便貯金、銀行預金若ハ信託預金トシ又ハ國庫證券若ハ確實ナル有價證券ニ替ヘ會長之ヲ管理ス但シ會長必要ト認メタルトキハ支部長ニ其ノ一部ヲ保管セシムルコトヲ得

第二十八條 支部長ニ於テ保管スル本會ノ資産ノ保管方法ハ別ニ之ヲ定ム

第二十九條 本會ノ事業ハ毎年度豫算ヲ以テ之ヲ執行ス

第三十條 本會ノ經費ハ左ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

一 資産及事業ヨリ生スル收入

二 補助金又ハ公私ノ寄贈ニ係ル動産、不動産

三 支部分擔金

四 其ノ他雜收入

前項第二號ノ内公私ノ寄贈ニ係ル動産不動産中目的ヲ定メテ寄贈セラレタルモノハ其ノ目的ノ範圍

ニ於テ之ヲ使用スルモノトス

第三十一條 支部分擔金ノ分擔割合ハ代議員會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第三十二條 本會ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始まり翌年三月三十一日ニ終ル

第三十三條 本會ノ決算ハ代議員會ノ承認ヲ經ルモノトス

第七章 支部

第三十四條 本會ハ北海道、府縣、樺太及臺灣ニ支部ヲ朝鮮ニ地方部ヲ置ク

第三十五條 支部ニ支部長ヲ置ク地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監）樺太廳長官及臺灣總督府警務局長ノ職ニ在ル者ニ對シ會長之ヲ囑託ス朝鮮地方部ニ地方部長ヲ置キ朝鮮總督府政務總監ノ職ニ在ル者ニ對シ會長之ヲ囑託ス

第三十六條 支部ニ副支部長ヲ置ク左ニ掲クル者ニ對シ會長之ヲ囑託ス

一 警防團長ノ職ニ在ル者ニ付支部長ノ推薦シタル者一名

二 廳府縣、樺太廳警察部長（警視廳ニ在リテハ

警務部長及消防部長) 及臺灣總督府警務課長ノ職ニ在ル者朝鮮地方部ニ地方部副長ヲ置キ朝鮮總督府警務局長ノ職ニ在ル者ニ對シ會長之ヲ囑託ス副支部長(朝鮮ニ在リテハ地方部副長)ハ支部長ノ命ヲ承ケ支部ノ事務ヲ掌理ス

第三十七條 支部長副支部長ノ任期ハ第十六條ノ規定ヲ準用ス

第三十八條 支部ニ役員及職員ヲ置クコトヲ得前項役員及職員ノ選任、職務權限並任期ニ關スル規定ハ支部長ニ於テ之ヲ定ム

第三十九條 本寄附行爲ニ特別ノ規定アルモノノ外支部ニ關シ必要ナル規定ハ細則ヲ以テ之ヲ定ム

第八節 補則
第四十條 本寄附行爲ハ代議員會ノ議決ヲ經テ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第四十一條 本寄附行爲施行ノ爲必要ナル細則ハ常議員會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム其ノ變更ニ付亦同シ

改正本寄附行爲第五條第五號及第六條第四號ノ規定

ハ昭和十四年四月一日ヨリ適用ス

改正本寄附行爲施行ノ際現ニ本會理事、常議員、代議員タル者ノ中從前消防組頭タルノ故ヲ以テ選任セラレタル者引續キ警防團長ニ就任シタルトキハ從前囑託セラレタル相當役員ニ囑託セラレタルモノト看做ス但シ其ノ任期ハ改正本寄附行爲ニ基キ新ナル役員ノ囑託アル迄トス

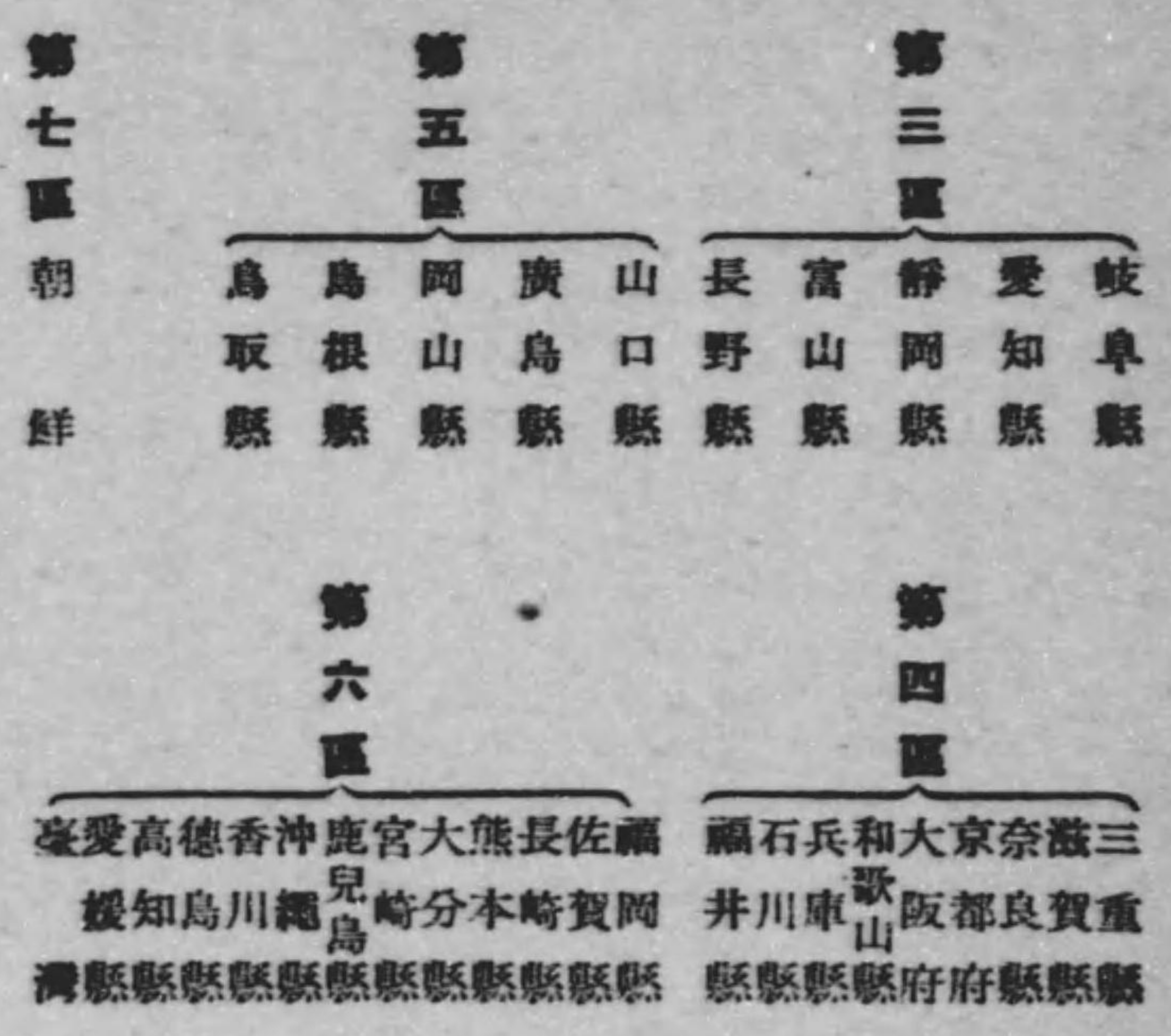
改正本寄附行爲施行ノ際現ニ副支部長タル者ニシテ消防組頭タルノ故ヲ以テ推薦セラレタル者亦前項ニ同シ

改正本寄附行爲ニ於テ警防團、警防團員ト稱スルハ朝鮮、臺灣、樺太ニ於テハ各之ニ相當スル團體、團體員トス

(別表)

第一區
北海道 青森縣 岩手縣 宮城縣 秋田縣 福山縣 山形縣 津島縣 太田縣

第二區
東京府 神奈川縣 千葉縣 埼玉縣 群馬縣 茨城縣 栃木縣 新潟縣 山梨縣



財團法人大日本善防協會寄附行爲施行細則

第一條 財團法人大日本善防協會寄附行爲(以下單ニ寄附行爲ト稱ス)第五條第三號ノ雜誌ハ毎月發

行シ各警防團(警防團令第十八條ノ團體ヲ含ム)下之ニ同シ)ニ配布ス

第二條 寄附行爲第五條第五號ノ弔慰金、救済金ハ左ノ區分ニ依ル

- 一 弔慰金 職務ノ爲死亡シタル者ニ對シ一時金千圓以內ヲ贈與ス
- 二 瘡疾見舞金 職務ノ爲不具瘡疾ト爲リタル者ニ對シ一時金五百圓以內ヲ贈與ス
- 三 傷痍見舞金 職務ノ爲傷痍ヲ受ケ醫療久シキニ涉リタル者ニ對シ一時金貳百圓以內ヲ贈與ス

第三條 前項第一號ノ弔慰金ヲ受領スヘキ者及其ノ順位左ノ如シ

- 第一 配偶者
- 第二 直系尊屬
- 第三 直系尊屬
- 第四 戶主
- 第五 兄弟姉妹

前項第二號及第五號ニ該當スル者數人アルトキ其ノ順位ニ付テハ民法第九百七十條ノ規定ヲ準用シ第三號ニ該當スル者數人アルトキ其ノ順位ニ付テ

ハ民法第九百八十條ノ規定ヲ準用ス

第一項第二號、第三號及第五號ニ該當スル者ハ警防團員(警防團令第十八條ノ團體員ヲ含ム以下之ニ同シ)死亡ノ時ヨリ引續キ其ノ家ニ在ルコトヲ要ス但シ警防團員ノ死亡後出生シタル嫡出子ハ警防團員死亡ノ時ヨリ引續キ其ノ家ニ在ルモノト看做ス

第四條 寄附行爲第五條第六號ノ表彰ハ左ノ區分ニ依ル

- 一 表彰 功績アル警防團ニ贈與ス
- 二 功績 警防ノ改善發達ニ特段ノ功績ヲ積ミタル警防團員ニ贈與ス
- 三 功勞 警防業務ニ付功勞拔群一般ノ勳績タルヘキ警防團員ニ贈與ス

功績章又ハ功勞章ハ警防ニ關シ特ニ功績顯著ナル者ニ對シ贈與スルコトヲ得

第五條 支部長(朝鮮ニ在リテハ地方部長以下之ニ同シ)ハ弔慰金、發疾見舞金若ハ傷疾見舞金ノ贈與ヲ爲シ又ハ表彰ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキハ之ヲ會長ニ具申スヘシ

第六條 寄附行爲第十四條ノ規定ニ依ル互選ニ關スル手續ハ其ノ都度會長之ヲ定ム

第七條 定例代議員會ハ毎年一回之ヲ開ク

定例代議員會ニハ前年度決算承認案及翌年度豫算案ヲ附議スヘシ

第八條 理事會及常議員會ハ必要ニ應シ隨時之ヲ開ク

第九條 會長ハ寄附行爲第三十一條ノ規定ニ依ル支部分擔金ノ割合決定シタルトキハ其ノ金額ヲ支部長ニ通知ス

支部長ハ支部分擔金ヲ毎年五月末日迄ニ會長ニ送付スヘシ

第十條 豫算ハ經常臨時ノ二部ニ分チ各部ヲ款項目ニ區分ス款項ヲ流用セムトスルトキハ常議員會ノ議決ヲ要スルモノトス

第十一條 豫備費ハ豫算外ノ支出若ハ豫算超過ノ支出ニ充當スルモノトス

第十二條 財産目錄ハ毎年度其ノ年度ノ終ニ於テ之ヲ作り定例代議員會ニ提出スルモノトス

附 則

第十三條 本則ニ規定スルモノノ外支部ニ關シ必要ナル事項ハ支部長之ヲ定ム

支部長支部ニ關スル規定ヲ設ケタルトキハ之ヲ會長ニ報告スヘシ

財團大日本警防協會表彰規程

第一條 財團法人大日本警防協會寄附行爲第五條第六條及同施行細則(以下單ニ細則ト稱ス)第四條ノ表彰ハ本規程ニ依ル

第二條 細則第四條第一項第一號ノ表彰旗ハ左ニ掲グル警防團ニ對シ之ヲ贈與ス

- 一 規律嚴肅ニシテ技能熟達シ且各般ノ施設充實シ平素能ク警防ノ使命達成ニ努メ其ノ成績拔群一般ノ勳績タルモノ
- 二 警防ノ現場ニ於テ團トシテ功勞拔群ノ活動ヲ爲シ以テ一般ノ勳績タルモノ

第三條 細則第四條第一項第二號ノ功績章ハ左ニ掲グル警防團員ニ對シ之ヲ贈與ス

- 一 其ノ地方ノ警防ニ劃期的刷新ヲ加ヘ地方ノ名

望ヲ一身ニ受クルモノ

二 永年ニ互リ勤務勉勵技能熟達且平素能ク率先垂範シテ警防ノ使命ニ盡瘁シ其ノ功績顯著タルモノ

第四條 細則第四條第一項第三號ノ功勞章ハ左ニ掲グル警防團員ニ之ヲ贈與ス

一 警防ノ現場ニ於テ危險ヲ冒シテ功勞拔群ノ活動ヲ爲シ以テ一般ノ勳績タルモノ

第五條 細則第四條第二項ノ功績章又ハ功勞章ハ左ニ掲グル者ニ對シ之ヲ贈與ス

一 警防團員以外ノ者ニシテ前二條ニ相當スル功績功勞アルモノ

第六條 表彰旗及竿頭綬並功績章及功勞章ノ樣式ハ別ニ之ヲ定ム

財團大日本警防協會弔慰救濟金給與規程

第一條 財團法人大日本警防協會寄附行爲第五條第五號及同施行細則(以下單ニ細則ト稱ス)第二條

ノ弔慰金救済金ノ給與ハ本規程ニ依ル

第二條 細則第二條第一號ノ職務ノ爲死亡シタル者

(重傷ヲ負ヒ爲ニ死亡シタル者ヲ含ム)ニ對スル弔慰金ノ給與ハ左ノ場合ニ分チ左ノ區分ニ依ル

- 一 災害現場又ハ之ニ準ズベキ場所ニ於テ危害ヲ豫想シ得ルニ拘ラズ之ヲ冒シテ其ノ職務ヲ執行シタル場合 七〇〇圓以上 一、〇〇〇圓以下
- 二 災害現場又ハ之ニ準ズベキ場所ニ於テ職務執行中ノ場合 五〇〇圓以上 七〇〇圓以下
- 三 災害現場又ハ之ニ準ズベキ場所ニ職務執行ノ爲赴キ又ハ赴カムトシ事故又ハ病氣ニ依ル場合 二〇〇圓以上 五〇〇圓以下
- 四 警防訓練等ニ際スルモノニシテ自己ノ重大ナル過失ニ依ラザル場合 一〇〇圓以上 四〇〇圓以下

第三條 細則第二條第二號ノ痼疾者ニ對スル見舞金ノ給與ハ左ノ區分ニ依ル

- 一 一眼ノ視力ガ視標〇・一ヲ二メートル以上ニテハ辨別シ得ザルモノ、兩耳ノ聽力ガ耳鼓ニ接セザレバ大聲ヲ解シ得ザルモノ咀嚼又ハ言語ノ機能ニ大ニ妨アルモノ、一肢以上(腕關節若ハ足關節以上)ヲ失ヒタルモノ

機能ニ大ニ妨アルモノ、一肢以上(腕關節若ハ足關節以上)ヲ失ヒタルモノ

第二條一、二號ノ場合 三〇〇圓以上 五〇〇圓以下

第二條三、四號ノ場合 二〇〇圓以上 四〇〇圓以下

二 其ノ他前一號ニ準ズル精神的又ハ肉體的不具障害ヲ受ケタルモノ

第二條一、二號ノ場合 二〇〇圓以上 四〇〇圓以下

第二條三、四號ノ場合 一〇〇圓以上 三〇〇圓以下

第四條 細則第二條第三號ノ傷疾見舞金ノ給與ハ豫算ノ範圍内ニ於テ左ノ區別ニ依ル

醫療 十日以上

第二條一、二號ノ場合 二〇〇圓以下

第二條三、四號ノ場合 一〇〇圓以下

醫療 三十日以上

第二條一、二號ノ場合 三〇〇圓以下

第二條三、四號ノ場合 二〇〇圓以下

醫療 六十日以上

第二條一、二號ノ場合 七〇〇圓以下

第二條三、四號ノ場合 五〇〇圓以下

醫療 三百日以上

第二條一、二號ノ場合 一五〇〇圓以下

第二條三、四號ノ場合 一〇〇〇圓以下

前項ノ醫療日數ニハ醫師ノ指示ニ依ル柔道整復術ノ治療若ハ之ニ準ズルモノヲ包含ス

第五條 第二條乃至第四條ニ依ル給與ノ金額ハ勸績年數ニ依リ幾分酌スルコトヲ得

第六條 細則第三條ノ親族中ニハ法定ノ届出ナキモ其ノ實アル者ハ之ヲ包含スルモノトス

第七條 弔慰金、見舞金贈與ノ具申書ニハ死亡又ハ不具痼疾若ハ傷害ノ原因トナリタル事實ノ發生シタル場所、日時、本人ノ活動狀況及本人ノ閱歴ヲ詳記スベシ

弔慰金ニ在リテハ前項ノ外贈與金受領者ノ氏名、年齢及死亡者トノ續柄ヲ記載スベシ

第八條 前條ノ外弔慰金贈與具申ニハ死亡診斷書又ハ死體檢案書及戸籍謄本ヲ、見舞金贈與具申ニハ機能障害ノ程度又ハ傷害ノ程度ヲ詳記シタル醫師ノ診斷書ヲ添付スベシ

各國防空法發布年月日一覽表 (一九四〇年七月現在)

國名	發布年月日	說明
ルーマニア	一九三〇年二月二十八日	空襲ニ對スル受働防禦規定
イタリ	一九三四年三月五日	國土及國民ノ對空襲防禦施行細則(勅令)ニシテ他國ノ防空法ト異ル所ハ防空義務ヲ國民ノ當然ノ義務ナリト云フニ在ル
ポーランド	一九三四年三月十五日	防空義務ヲ規定シテキル
スイス	一九三四年九月二十九日	國民ノ受働防空ニ關スル聯邦ノ議決デアッタガ一九三六年九月二十九日ニ防空義務ヲ規定シタ
フランス	一九三五年四月八日	一九二一年ニ防空ノ規定ガアツタガ試案ニ過ギナカッタ 一九三一年一月二十五日政府ノ指令ニヨリ民防ヲ內務大臣ニ任シタガ一九三四年六月大統領ノ指令ニヨリ民防ヲ內務大臣ニ任シタガ一九三四年七月ノ新國防法ニ依リ民防ヲ國防大臣ノ管掌ニシタ
デンマーク	一九三五年五月十一日	一九三七年五月四日三種ノ施行細則ヲ發布シタ
ドイツ	一九三五年六月二十六日	航空大臣兼空軍總司令官ハ軍民兩防空ヲ一手ニ管掌シ、防空義務ヲ規定シテキル
ハンガリー	一九三五年七月十五日	軍ノ適切ナル指導ニヨリ內務省ガ民防ヲ建設シツツアル
ギリシヤ	一九三五年十一月一日	緊急法令ニシテ一九三六年二月改正セラレ國民ノ防空義務ヲ規定シテキル
ベルギー	未發布	一九三五年十二月二十七日ノ法令ニヨリ國防大臣ノ下ニ民防ノ長官ヲ置イタガ防空法ハ未ダ發布サレズ國民ノ愛國心ニヨリ強ヒテ防空法ヲ作ラザルモ可ナリト認メテキル様デアアル

エストニア	一九三六年四月九日	
オランダ	一九三六年四月二十三日	一九二七年三月九日陸軍大臣ノ命ニヨリ民防ノ指針ヲ與ヘラレテキタガ新ニ防空法ヲ發布シテ防空義務ヲ規定シタ
ブルガリア	一九三六年七月二十八日	六月十八日トモアリ不明デアアルガ防空義務ニ關シ廣汎ニ規定シテアル
ルクセンブルグ	一九三六年八月二十二日	
スエーデン	一九三七年七月一日	民防空ノ建設ハ社會省ガ之ヲ行ツテキル
イギリス	一九三八年 月 日	民防空ノ實行ヲ內務省ニ委任シテアツタガ各省互ニ絶縁シテキルノ發展シナカッタガ防空法ノ制定ニヨリ經費ノ支出區分ヲ規定シ尙政府ガ積極的ニ乗出シタノ次第ニ發展シテ來タ
ソビエツト	防空法ナシ	一九二七年以來「オゾアビヒム」國ハ防空ニ關シテキタガ一九三五年國防人民委員ニ隸屬スルニ至リ民防ノ組織ハ其ノ管掌スル所トナツタ此ノ委員ハ其他軍防空司令部ニ隸屬スル防空法ハナキモ防空管區司令官ノ規定ニ據リ國民ハ關セラル
ユーゴスラビア	未發布	防空法ハナキモ「ベルグランド」「アグラム」等ノ大都市ニハ防空方針ヲ規定シ防空演習ヲ行ヒツツアル
アメリカ	未發布	民防空ヲ餘リ重視シテキナイ
オーストリア	未發布	防空法ノ準備中ニ獨逸ニ合邦セラレ獨逸ハ直チニ民防空ヲ自國ト同様ニ組織シタ
エジプト	一九四〇年七月十一日	

追 録

本書印刷中ニ「耐火木材取締規則」發布セラレ又「防
毒資材取締規則」ノ一部改正セラレタルニ付追録ス

耐火木材取締規則 (昭和十六年六月二十七日
内務省令第十九號)

第一條 防空建築規則第三條ノ規定ニ依ル耐火木材
ヲ製造セントスル者ハ左ノ各號ニ掲グル事項ヲ、
輸入又ハ移入セントスル者ハ第一號及第二號ニ掲
グル事項ヲ具シ見本品ヲ添ヘ主タル業務所在地
ノ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ
同ジ)ヲ經由シ内務大臣ノ許可ヲ受クベシ
一 氏名(法人ニ在リテハ其ノ名稱)、商號及業務
所在地
二 製造所ノ名稱及所在地
三 注入セントスル耐火液ノ内容及調製法
四 製造方法及製造設備(製品検査設備ヲ含ム)ノ
概要竝ニ一年ノ製造能力

五 主任技術者ノ氏名及履歷
前項第三號乃至第五號ノ事項ヲ變更セントスルト
キハ前項ニ準ジ許可ヲ受クベシ
第一項第一號又ハ第二號ノ事項ヲ變更セントスル
トキハ第一項ニ準ジ内務大臣ニ届出ヅベシ
第二條 前條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル耐火木材
ノ製造者、輸入者又ハ移入者ハ其ノ製造、輸入又
ハ移入シタル耐火木材ニ付内務省防空研究所ノ檢
定ヲ受クベシ
前項ノ規定ニ依リ檢定ヲ受ケントスル者ハ別記第
一號様式ノ檢定申請書ヲ内務省防空研究所ニ提出
スベシ
第一項ノ檢定ニ合格シタル耐火木材ニハ別記第二
號様式乃至第五號様式ノ檢定證印ヲ附ス
第三條 檢定ヲ受ケントスル者ハ手数料トシテ木材
一石ニ付金十錢ヲ納付スベシ
前項ノ手数料ハ收入印紙ヲ用ヒ檢定申請書ニ之ヲ

貼附スベシ

既納ノ手数料ハ之ヲ還付セズ
第四條 第二條ノ規定ニ依ル檢定證印ナキ木材ハ之
ヲ耐火木材ト稱シ又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ用ヒテ販
賣スルコトヲ得ズ
第五條 地方長官ハ當該官吏ヲシテ耐火木材ヲ製造
貯藏若ハ販賣スル場所ヲ巡視セシメ又ハ耐火木材
ヲ検査セシムルコトヲ得
第六條 耐火木材ノ製造者、輸入者又ハ移入者其ノ
業務ニ關シ犯罪若ハ不正ノ行爲アリタルトキ又ハ
本令ノ規定ニ違反シタルトキハ内務大臣ハ其ノ許
可ヲ取消スコトヲ得
第七條 第一條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ三月
以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰
金又ハ科料ニ處ス
一 第一條第二項又ハ第四條ノ規定ニ違反シタル
者
二 第五條ノ規定ニ依ル巡視又ハ検査ヲ拒ミ、妨
グ又ハ忌避シタル者

第九條 第一條第三項ノ規定ニ違反シタル者ハ科料
ニ處ス

第十條 耐火木材ノ製造者、輸入者、移入者又ハ販
賣者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其
ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本令ニ違反シ
タルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ處罰
ヲ免ルルコトヲ得ズ
第十一條 本令ニ依リ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法
人ナルトキハ理事、取締役其ノ他法人ノ業務ヲ執
行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ
其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年
者ト同一ノ能力ヲ有スル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラ
ズ
第十二條 本令ハ陸海軍ノ用ニ供スル耐火木材ニ付
テハ之ヲ適用セズ
附 則
本令ハ昭和十六年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令公布ノ際現ニ耐火木材ヲ製造スル者ハ本令施行
後一月以内ニ第一條ノ規定ニ依ル手續ヲ爲スベシ
前項ノ規定ニ依リ許可ヲ申請シタル者ニ付テハ其ノ

申請ニ對スル許可又ハ不許可ノ處分ノ日迄第二條ノ規定ハ之ヲ適用セズ
 本令施行ノ際現ニ存スル耐火木材又ハ第二項ノ規定ニ依リ第一條ノ許可ヲ申請シタル者ガ其ノ申請ニ對スル許可又ハ不許可ノ處分ノ日迄ニ製造シタル耐火木材ニ付テハ昭和十六年十二月三十一日迄第四條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

別記
第一號樣式

檢定申請書

- 一、耐火木材ノ品種別及材種別ノ數量
- 一、耐火木材ノ製造所ノ名稱及所在地
- 右ニ依リ耐火木材ノ檢定相受ケ度耐火木材取締規則第二條第一項ノ規定ニ依リ及申請候

年 月 日

業務所所在地

申請者 商號 氏名 (法人ニ在リテ) 印
 (ハ其ノ名稱)

內務省防空研究所長宛

備考 輸入又ハ移入スル耐火木材ニ付テハ製造所ノ記載箇所ニ輸入先又ハ移入先ヲ記載スルコト

式樣號二第



式樣號四第



(外圍直徑六十耗)
 (外圍直徑二十耗)

式樣號三第



式樣號五第



(外圍直徑六十耗)
 (外圍直徑二十耗)

防毒資材取締規則改正ニ關スル件
 (昭和十六年六月二十七日) (內務省防空研究所第一號)

第一條中「第一種 防毒面(酸素呼吸器ヲ含ム以下之ニ同ジ)、防毒衣、防毒手袋、防毒靴、防毒濾面並ニ防毒面用ノ覆面、呼吸器及吸收罐」ヲ「第一種 防毒面、酸素呼吸器、防毒衣、防毒手袋、防毒靴、防毒濾面、防毒面ノ覆面、呼吸器及吸收罐並ニ酸素呼吸器ノ覆面、空氣更新罐、酸素發生劑罐、減壓器、氣囊、過壓安全弁及吸排氣瓣面」ニ改ム
 第五條第二項中「前項ノ檢定」ヲ「第一項ノ檢定」ニ改ム
 同條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
 前項ノ規定ニ依リ檢定ヲ受ケントスル者ハ檢定ニ請書ヲ提出スベシ
 第十二條第二項中「前條ノ檢定」ヲ「第一項ノ檢定」ニ改メ同條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
 前項ノ規定ニ依リ檢定ヲ受ケントスル者ハ檢定申請書ヲ提出スベシ
 第十二條ノ二 第五條及前條ノ規定ニ依リ檢定ヲ受

ケントスル者ハ左ノ手数料ヲ納付スベシ

- 一 防毒面(家庭用防毒面ヲ除ク) 一箇ニ付 金五錢
- 二 家庭用防毒面 一箇ニ付 金二錢
- 三 壓縮酸素式酸素呼吸器 一箇ニ付 金一圓
- 四 酸素發生式酸素呼吸器 一箇ニ付 金四十錢
- 五 防毒衣 一著ニ付 金十錢
- 六 防毒手袋 一組ニ付 金五錢
- 七 防毒靴 一足ニ付 金五錢
- 八 防毒濾面 一箇ニ付 金二圓
- 九 防毒面(家庭用防毒面ヲ除ク)及酸素呼吸器ノ覆面 一箇ニ付 金二錢
- 十 家庭用防毒面ノ覆面 一箇ニ付 金一錢
- 十一 防毒面ノ呼吸器 一箇ニ付 金一錢
- 十二 防毒面(家庭用防毒面ヲ除ク)ノ吸收罐 一箇ニ付 金二錢
- 十三 家庭用防毒面ノ吸收罐 一箇ニ付 金一錢
- 十四 酸素呼吸器ノ空氣更新罐 一箇ニ付 金五錢
- 十五 酸素呼吸器ノ酸素發生劑罐 一箇ニ付 金十錢
- 十六 酸素呼吸器ノ減壓器 一箇ニ付 金七十錢
- 十七 酸素呼吸器ノ氣囊 一箇ニ付 金十錢

- 十八 酸素呼吸器ノ過壓安全弁 一箇ニ付金二錢
 - 十九 酸素呼吸器ノ吸排氣瓣函 一箇ニ付金八錢
 - 二十 防毒檢定器
 - イ 毒性ノ瓦斯、煙霧、液體、粉塵等ヲ檢知スル器具 一箇ニ付 金二十錢
 - ロ 防毒具ノ性能ヲ檢査スル器具 一箇ニ付 金一圓
- 前項ノ手数料ハ收入印紙ヲ用ヒ檢定申請書ニ之ヲ貼付スベシ既納ノ手数料ハ之ヲ還付セズ

附 則
本令ハ昭和十六年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

不 許 復 製



防空警防法規集

昭和十六年七月一日印刷
昭和十六年七月一日發行

定價金五拾錢

編者	中村日出男	東京市豊町區永田町二ノ二九
發行者	中村日出男	東京市豊町區永田町二ノ二九
印刷者	立花啓	東京市豊町區有樂町一ノ一四
印刷所	大參社印刷所	東京市豊町區有樂町一ノ一四
發行所	天元社	東京市豊町區永田町二ノ二九
配給元	日本出版配給株式會社	東京市神田區淡路町二丁目九番地

電話銀座(07)〇七五九番
振替東京一七〇七二番
出版文化協會會員
台帳番號 一一九〇二三

<p>〔新刊〕 英國防空の實際</p>	<p>〔新刊〕 國土計畫第一輯</p>	<p>防空日本の構成 —英米の世界空襲謀略—</p>	<p>イラン 石油争覇戦</p>	<p>戯曲 ロスタムとソーラブ (イランの「王書」)</p>	<p>戦線 死も生も</p>	<p>隨筆 莫愁</p>	<p>國碁 傳來記</p>	<p>〔近刊〕 國土計畫地方開發管團論</p>
<p>ルカス原著 石川朝編著</p>	<p>國土研究會編</p>	<p>石川榮耀著 <small>那市計畫東京地方 委員會主任</small></p>	<p>細川護立侯序 市川三郎著</p>	<p>フェルドウシイ作 樋口正治譯</p>	<p>フレッククス著 中島清譯</p>	<p>大倉喜七郎序 川端康成著</p>	<p>村上松梢風裝 野上彰著</p>	<p>未定</p>
<p>防空科學もこゝまで來なければ本物の爆弾は 防げぬ。世界的水準線にある實際的技術は八 十數葉の圖面であらうに利用出来る。</p>	<p>大都市工業問題(吉田秀夫)國土計畫と東北地 方(金森博士)人口補給地域(箱根)工業人口(小 田橋貞樹)國土計畫文獻一覽 外國資料二編</p>	<p>國土防衛意識をかき立てる警告の書。英米は 日本など一ひねりだど囁く。頭上からの爆 の雨を、かくして防げと著者は教へる。爆 英・ソ兩國が石油資源獲得にどんな手段を用 ひて來たか。アジアの石油はかくしてアジア の爲には生産されてゐなかつた。</p>	<p>一昨年「そよかぜ」によつて日本イランの航空 ルートを完成された永淵・樋口兩氏は、こゝに 文化ルートの一線を鮮やかに描かれた。(讀賣)</p>	<p>ヒットラーニューゲント修養の書。戦線生活の 記録であるが、これだからドイツは強いと膝 を叩かせるに足りる「あるもの」が味はへる。</p>	<p>讀書界を呻らせた珠玉の名著、天才吳清源は 若さの中に老成した境地と透徹した人生觀を 把握してゐる。香氣溢るゝニュアンス!</p>	<p>日本棋院編輯部にあつて棋界研究の成果がこ の特別な小説集となつた。碁に關係のあるなし にかゝらずくつろいで樂しめる本である。</p>	<p>本邦唯一の具體的研究を誇る國土計畫研究會 が堂々の大問題をこゝに提起する。</p>	
<p>千二〇〇</p>	<p>千七〇</p>	<p>千一八〇</p>	<p>千一八〇</p>	<p>千一八〇</p>	<p>千九〇</p>	<p>千二八〇</p>	<p>千一六〇</p>	<p>未定</p>

社元天 地番九二目丁二町田永區町麹市京東
番九五七(57)座銀話電番二七〇七一京東替振



Y .50